

別記様式第2号（その1の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン トウキョウコクサイダイガク 学校法人 東京国際大学							
フリガナ 大学の名称	トウキョウコクサイダイガク 東京国際大学 (Tokyo International University)							
大学本部の位置	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1							
大学の目的	東京国際大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「公德心を体した真の国際人の養成」を基調として、広い教養及び社会に密接な専門学術を教授・研究し、人類の福祉と文化の発展に貢献し得る知性と勇気と先見性豊かな人材を育成することを目的及び使命としている。							
新設学部等の目的	本学の建学の精神に基づく教育目標を具現化するために推進してきた教育事業の国際化に共感する日本人学生、外国人留学生のニーズに対応するため、経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の入学定員を増加する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所在地
	商学部 商学科	年	人	年次 人	人	学士(商学) (Bachelor of Arts in Business and Commerce)	昭和40年4月 第1年次	埼玉県川越市の場 北1丁目13番地1
	経営学科	4	100	—	400	学士(経営学) (Bachelor of Arts in Business Administration)	平成25年4月 第1年次	同上
	経済学部 経済学科	4	80	—	320	学士(経営学) (Bachelor of Arts in Business Administration)	平成25年4月 第1年次	同上
	経済学部 経済学科	4	475 (435)	—	1,900 (1,740)	学士(経済学) (Bachelor of Arts in Economics)	令和3年4月 第1年次	埼玉県川越市の場 北1丁目13番地1
	言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科	4	250 (230)	—	1000 (920)	学士(言語コミュニ ケーション学) (Bachelor of Arts in Language Communication)	令和3年4月 第1年次	埼玉県川越市の場 北1丁目13番地1
	国際関係学部 国際関係学科	4	310 (245)	—	1,240 (980)	学士(国際関係学) (Bachelor of Arts in International Relations)	令和3年4月 第1年次	埼玉県川越市の場 北1丁目13番地1
	国際メディア学科	4	60	—	240	学士(国際メ ディア学) (Bachelor of Arts in Media and Communication Studies)	平成19年4月 第1年次	同上
人間社会学部 福祉心理学科	4	25	—	100	学士(福祉心理学) (Bachelor of Arts in Social Welfare and Psychology)	平成7年4月 第1年次	埼玉県川越市の場 2509	

新設学部等の概要	人間スポーツ学科	4	230	—	920	学士(人間スポーツ学) (Bachelor of Arts in Human Development and Sport Science)	平成23年4月第1年次	埼玉県川越市の場 2509	
	スポーツ科学科	4	200	—	800	学士(スポーツ科学) (Bachelor of Arts in Sport Science)	平成24年4月第1年次	埼玉県川越市の場 2509	
			1,730 (1,605)		6,920 (6,420)				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		医療健康学部 理学療法学科 (80) (令和2年3月認可申請)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位			
教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教員等	令和3年4月 設置予定
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新 設	商学部 商学科	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	19 (19)
		商学部 経営学科	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	19 (19)
		経済学部 経済学科	21 (20)	15 (12)	5 (4)	0 (0)	41 (36)	0 (0)	7 (7)
		言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科	9 (11)	5 (3)	7 (7)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	6 (6)
		国際関係学部 国際関係学科	9 (9)	9 (7)	7 (6)	0 (0)	25 (22)	0 (0)	17 (17)
		国際関係学部 国際メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	17 (17)
		人間社会学部 福祉心理学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	24 (24)
		人間社会学部 人間スポーツ学科	7 (7)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	24 (24)
		人間社会学部 スポーツ科学科	7 (7)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	24 (24)
		医療健康学部 理学療法学科	8 (8)	7 (7)	6 (6)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	6 (0)
	分 別	計	95 (96)	48 (41)	36 (34)	0 (0)	179 (171)	0 (0)	— (—)
		GTI(Global Teaching Institute)	0 (0)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	0 (0)
		JLI (Japanese Language Institute)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	6 (6)
		言語教育機構	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		教育研究推進機構	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (6)
		計	3 (3)	1 (1)	60 (60)	1 (1)	65 (65)	0 (0)	— (—)
	合 計		98 (99)	49 (42)	96 (94)	1 (1)	244 (236)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計			
	事 務 職 員		142人 (142)	69 (69)	211 (211)			
	技 術 職 員		— (—)	— (—)	— (—)			
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	— (—)	1 (1)			
	そ の 他 の 職 員		8 (8)	— (—)	8 (8)			
	計		151 (151)	69 (69)	220 (220)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	・校舎敷地は下段が現有面積、上段が池袋国際キャンパス（令和5年9月完成予定）を含む。 ・運動場用地は坂戸キャンパス、河川敷校地を含む。		
	校 舎 敷 地	87,288㎡ (77,288㎡)	0㎡	0㎡	87,288㎡ (77,288㎡)			
	運 動 場 用 地	201,978㎡	0㎡	0㎡	201,978㎡			
	小 計	289,266㎡ (279,266㎡)	0㎡	0㎡	289,266㎡ (279,266㎡)			
	そ の 他	2,675㎡	0㎡	0㎡	2,675㎡			
	合 計	291,941㎡ (281,941㎡)	0㎡	0㎡	291,941㎡ (281,941㎡)			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	下段が現有面積、上段が池袋国際キャンパス（令和5年9月完成予定）を含む。		
		㎡ 87,966㎡ (61,195㎡)	㎡	㎡	㎡ 87,966㎡ (61,195㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	・大学全体 ・下段が現有数、上段が池袋国際キャンパス（令和5年9月完成予定）を含む。		
	192室 (124室)	14室 (14室)	7室 (7室)	24室 (21室) (補助職員0人)	12室 (12室) (補助職員0人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		GTI、JLIは共同研究室（86席）を使用。		
		大学全体		224 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	大学全体	693,218〔115,698〕 (681,218〔113,898〕)	15,657〔14,089〕 (15,634〔14,076〕)	12,111〔12,111〕 (12,111〔12,111〕)	15,762 (15,722)	355 (355)	— (—)	
	計	693,218〔115,698〕 (681,218〔113,898〕)	15,657〔14,089〕 (15,634〔14,076〕)	12,111〔12,111〕 (12,111〔12,111〕)	15,762 (15,722)	355 (355)	— (—)	
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		10,274㎡	648		699,000			
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		4,473㎡	野球場2面		テニスコート8面			
			サッカー場3面		ゴルフ練習場2面			
			フットサル場3面		アーチェリー場1面			
			陸上競技場400Mトラック1面		ソフトボール場2面			

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	・大学全体 ・図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員 1 人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—	
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—	
		図 書 購 入 費	58,822千円	78,100千円	62,538千円	62,538千円	62,538千円	—	—	
	設 備 購 入 費	261,441千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	—	—		
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	金額（仮）		
		1,400千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	— 千円	— 千円	商学部・経済学部・国際関係学部・人間社会学部福祉心理学科		
		1,450千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	— 千円	— 千円	言語コミュニケーション学部		
		1,560千円	1,310千円	1,310千円	1,310千円	— 千円	— 千円	人間社会学部人間スポーツ学科およびスポーツ科学科		
		1,450千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	— 千円	— 千円	経済学部・国際関係学部Eトラック		
1,090千円		840千円	840千円	— 千円	— 千円	— 千円	商学研究科・経済学研究科・国際関係学研究科			
1,450千円		1,400千円	1,400千円	1,400千円	— 千円	— 千円	商学研究科・経済学研究科・国際関係学研究科Eトラック			
1,130千円		880千円	880千円	— 千円	— 千円	— 千円	臨床心理学研究科			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入							

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	東京国際大学 (Tokyo International University)								当該申請等時点の状況
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	商学部	年	人	年次	人		倍			
	商学科	4	100	—	440	学士(商学)	0.93	昭和40年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1	
	経営学科	4	80	—	360	学士(経営学)	1.13	平成25年度		
	経済学部						0.99			
	経済学科	4	435	—	1,580	学士(経済学)	0.99	平成元年	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1	
	言語コミュニケーション学部						1.02			
	英語コミュニケーション学科	4	230	—	960	学士(言語コミュニケーション学)	1.02	平成16年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1	
	中国言語文化学科	4	—	—	—	学士(言語コミュニケーション学)	—	平成25年度		
	国際関係学部						0.98			
	国際関係学科	4	245	—	910	学士(国際関係学)	0.97	平成7年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1	
	国際メディア学科	4	60	—	300	学士(国際メディア学)	1.02	平成19年度		
	人間社会学部						1.01			
	福祉心理学科	4	25	—	150	学士(福祉心理学)	0.89	平成7年度	埼玉県川越市の場2509	
	人間スポーツ学科	4	230	—	920	学士(人間スポーツ学)	1.03	平成23年度	埼玉県川越市の場2509	
	スポーツ科学科	4	200	—	800	学士(スポーツ科学)	1.03	平成24年度	埼玉県川越市の場2509	
	大学院商学研究科									
	商学専攻(博士前期課程)	2	30	—	60	修士(商学)	0.50	昭和61年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1	
	商学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(商学)	0.16	昭和63年度		
	大学院経済学研究科									
	経済学専攻(博士前期課程)	2	20	—	40	修士(経済学)	0.23	平成6年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1	
	経済学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(経済学)	0.33	平成14年度		
	大学院国際関係学研究科									
	国際関係学研究専攻修士課程	2	20	—	40	修士(国際関係学)	0.63	昭和59年度	埼玉県川越市の場北1丁目13番地1	
	大学院臨床心理学研究科									
	臨床心理学専攻(博士前期課程)	2	25	—	50	修士(心理学)	0.27	平成13年度	埼玉県川越市の場2509	
	臨床心理学専攻(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(心理学)	0	平成13年度	埼玉県川越市の場2509	

附属施設の概要	該当なし	
---------	------	--

教 育 課 程 等 の 概 要															
(経済学部経済学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
T I U コ ア	大学生生活デザイン演習	1前	2				○							兼1	
	初年次演習	1前・後	2+2				○		8	4	1			兼1	
	ICT基礎	1前・後	2			○								兼1	
	小計 (3科目)	—	8	0	0	—			8	4	1	0	0	兼1 —	
教 養 コ ア 科 目	人間と文化	哲学	1前・後		4		○		1						兼2
	倫理学	1前・後		4		○								兼2	
	芸術論	1前・後		4		○								兼2	
	文学	1前・後		4		○								兼2	
	ことば学入門	1後		4		○								兼2	
	アジア・アラブ史	1前・後		4		○								兼1	
	アメリカ・ヨーロッパ史	1前		4		○								兼1	
	日本史	1前・後		4		○								兼2	
	地理学概論	1後		4		○								兼1	
	人文地理学	1後		4		○								兼1	
	日本の文化	1前・後		4		○								兼1	
	異文化概論	1後		4		○								兼1	
	文化人類学	1前・後		4		○								兼1	
	Introduction to American Society	1後		4		○								兼1	
	Life & Tradition in America	1後		4		○								兼1	
	現代社会	法学	1前・後		4		○		3	1					兼2
	憲法	1前・後		4		○									兼1
	政治学	1前・後		4		○									兼3
	経済学	1前・後	4			○									兼2
	社会学	1前・後		4		○									兼1
	現代の社会	1前・後		4		○									兼3
	心理学概論	1前・後		4		○									
	自然科学と環境	自然科学概論	1前・後		4		○		1	1					兼2
	環境と自然	1前・後		4		○									兼3
	科学思想史	1後		4		○									兼1
	統計学入門	1前・後		4		○									兼2
	情報処理の基礎	1前・後		4		○				1				兼1	
	健康とスポーツ	健康・スポーツ科学	1前・後		4		○								兼3
		健康・スポーツ実技	1前・後		1				○						兼7
		小計 (29科目)	—	4	109	0	—			5	2	0	0	0	兼43 —
言 語 ス キ ル 科 目	英語	Oral Communication	1前・後		2		○		2	1					兼5
	Reading & Writing	1前・後		2		○		1							兼4
	English Workshop	1前・後		2		○				1				兼1	
	Media English	1後		2		○								兼1	
	Communication Basic I	1前	2			○		1		1				兼4	
	Communication Basic II	1後	2			○		1		1				兼4	
	English Comprehension I	1前		2		○								兼7	
	English Comprehension II	1後		2		○								兼2	
	Basic Speaking I	1前		1		○								兼2	
	Basic Speaking II	1後		1		○								兼2	
	Basic Writing I	1前		1		○								兼2	
	Basic Writing II	1後		1		○								兼2	
	Intermediate Speaking and Listening A	2前		2		○								兼3	
	Intermediate Speaking and Listening B	2後		2		○								兼3	
	Intermediate Reading and Writing A	2前		2		○								兼2	
	Intermediate Reading and Writing B	2後		2		○								兼2	

言語スキル科目	その他の外国語	ドイツ語入門	1前		2		○								兼1	
		実践ドイツ語	1後		2		○								兼1	
		フランス語入門	1前		2		○								兼1	
		実践フランス語	1後		2		○								兼1	
		スペイン語入門	1前		2		○								兼2	
		実践スペイン語	1後		2		○								兼1	
		中国語入門	1前		2		○								兼2	
		実践中国語	1後		2		○								兼2	
		ハングル入門	1前		2		○								兼1	
		実践ハングル	1後		2		○								兼1	
自由選択科目	キャリア形成支援科目	ロシア語入門	1前		2		○								兼1	
		アラビア語入門	1前		2		○								兼1	
		アカデミック日本語Ⅰ	1前		2		○			1						
		アカデミック日本語Ⅱ	2前		2		○			1						
		日本語ワークショップⅠ	1前		2		○			1						
		日本語ワークショップⅡ	2前		2		○			1						
		ビジネス日本語	3前		2		○			1						
		小計（33科目）	—	4	58	0	—			3	1	0	0	0	兼27	—
		インターンシップ入門	1前		2		○								兼1	
		インターンシップ（体験型）	2前		1				○	1					兼1	
自由選択科目	プロジェクト科目	インターンシップ（実践学修型）	2後		3				○							
		ボランティア活動	1前		1				○	1						
		アカデミック・ライティング	1前		2		○								兼1	
		キャリア・Re-スタート	2前		2		○								兼1	
		地域の安全と警察	2後		2		○			1						
		観光まちおこしワークショップ入門	1前・後		2				○						兼3	
		観光まちおこしワークショップ実践A	1前・後		2				○						兼1	
		観光まちおこしワークショップ実践B	1前・後		2				○						兼1	
		観光まちおこしワークショップ実践C	1前・後		2				○						兼1	
		観光まちおこしプロジェクトA	2前		1				○						兼1	
		観光まちおこしプロジェクトB	2後		1				○						兼1	
		観光まちおこしプロジェクトC	2前・後		1				○						兼1	
		留学プランニング（ASPPrep）	1前・後		1				○	1						
		海外ゼミナールA	1前・後		4				○	1						
		海外ゼミナールB	1前・後		2				○	1						
		特別授業A	2前・後		2		○								兼1	
		特別授業B	2前・後		4		○								兼1	
		スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	1前		2				○						兼13	
		スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	1後		2				○						兼13	
		基礎科目特殊講義A	1前・後		2		○			1						
		基礎科目特殊講義B	1前・後		4		○			1						
		小計（23科目）	—	0	47	0	—			1					兼19	—
専門教育分野		数学入門	1前・後		4		○			1	1				兼1	
		社会史A	1前		4		○								兼1	
		社会史B	1前		4		○			1						
		簿記	1前・後		4		○								兼3	
		基礎演習	1前・後		2			○		4	2	1				
		経済史A	2後		4		○								兼1	
		経済史B	2後		4		○								兼1	
		経済学の歴史	2後		4		○			1						
		ミクロ経済学	2後	4			○			2						
		マクロ経済学	2前・後	4			○			1						
		ゲーム理論Ⅰ	2前		4		○			1						
		行動経済学Ⅰ	2前		4		○					1				
		ビジネスエコノミクスⅠ	2後		2		○			1						
		計量経済学	2前・後		4		○					1				
		経済数学	2後		4		○								兼1	
		国際経済学	2前・後		4		○			1						
		金融論	2前		4		○			1						
		公共経済学	2前		4		○			1						
		財政学	2前・後		4		○				1					
		地域経済論	2後		4		○			1						
		国際法	2前・後		4		○								兼1	
		民法	2前・後		4		○			1						
		国際政治学	2前		4		○			1					兼1	
		国際関係論	3前・後		4		○			1					兼1	
		観光学概論	2後		2		○								兼1	
		地域デザイン	2後		2		○				1					
		スポーツ経済学	3後		4		○				1					

専門教育分野	スポーツと法	2前		2		○			1						兼2	
	スポーツ社会学	3前・後		4		○									兼1	
	専門演習	3前・後		2			○		9	3	1					
	社会思想史	3後		4		○			1							
	情報の経済学	3前		4		○									兼1	
	経済変動論	3前		4		○			1							
	ゲーム理論Ⅱ	3後		2		○			1							
	行動経済学Ⅱ	3後		2		○					1					
	ビジネスエコノミクスⅡ	3後		2		○									兼1	
	経済政策論	3前・後		4		○			1							
	日本経済論	3前・後		4		○			1							
	産業組織論	3前		2		○									兼1	
	労働経済学	3前		2		○									兼1	
	環境経済学	3前		2		○									兼1	
	都市経済論	3前・後		4		○									兼1	
	地方財政	3前		2		○					1					
	コーポレートファイナンス	3後		2		○			1							
	コーポレートガバナンス	3後		2		○			1							
	国際金融論	3前・後		4		○									兼2	
	国際貿易論	3前		4		○			1							
	開発経済学	3前・後		4		○			1							
	アジア経済論	3前		4		○			1							
	金融法	3前		2		○									兼1	
	税法	3後		2		○									兼1	
	国際経済法	2前		2		○									兼1	
	行政法	3後		2		○									兼1	
	スポーツビジネスマネジメント	3前		4		○									兼1	
	スポーツ政策	3後		2		○									兼1	
	マーケティング論	3前・後		4		○			1							
	経営戦略論	3後		4		○									兼1	
	立地論	3前		4		○									兼1	
	現代中国ビジネス事情Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	現代中国ビジネス事情Ⅱ	3後		2		○									兼1	
	ビジネス会計	3前		2		○									兼1	
	地域金融講座	3後		2		○									兼1	
	経済学部特殊講義A	3前		2		○			1							
	経済学部特殊講義B	3前		4		○			1							
	卒業研究	4後		4		○			5		1				兼1	
金融工学	4後		2		○			1								
ファイナンス特別演習Ⅰ	3前		2					1								
ファイナンス特別演習Ⅱ	3後		2					1								
ファイナンス特別演習Ⅲ	4前		2					1								
ファイナンス特別演習Ⅳ	4後		2					1								
	小計（ 70科目）	—	8	212	0	—		11	3	1	0	0	兼32	—		
Eトラック・プログラム科目（英語コース）	General Education Results	Academic CompositionⅠ	1前・後	4		○								兼17		
		Academic CompositionⅡ	1前・後	4		○								兼19		
		Analytical Reading and Thinking	1前・後	4		○								兼17		
		Public Speaking	1前・後	4		○								兼2		
		Business and Social Impact	1後	4		○			1							
		Food Value Chain and Sustainability	1前	4		○			1							
		Fundamentals of Mathematics	1前・後	4		○			1	1						
		Innovation and R＆D Strategy	1後	4		○			1							
		Introduction to International Relations	1前・後	4		○								兼3		
		Introduction to Social Psychology	1後	4		○								兼1		
		Introduction to Sociology	1前	4		○								兼1		
		IT Literacy	1前・後	4		○								兼5		
		Principles of Economics	1前・後	4		○					1	1				
		Principles of Management	1前・後	4		○			1	1						
		Principles of Political Science	1前・後	4		○								兼2		
		StatisticsⅠ	1前・後	4		○			1	1				兼1		
		Sustainable Society	1後	4		○			1							
		World Economy	1後	4		○			1							
Topics in Liberal Arts	1前・後	2		○								兼1				
Topics in Liberal Arts	1前・後	4		○								兼1				

E ト ラ ッ ク ・ プ ロ グ ラ ム 科 目 (英 語 コ ー ス)	G e n e r a l E d u c a t i o n	J a p a n e s e	Elementary Japanese 1A	1前・後		4		○									兼2	
			Elementary Japanese 1B	1前・後		4		○									兼2	
			Elementary Japanese 2A	1前・後		4		○									兼2	
			Elementary Japanese 2B	1前・後		4		○									兼2	
			Intermediate Japanese 1	2前・後		4		○									兼8	
			Intermediate Japanese 2	2前・後		4		○									兼8	
			Advanced Japanese 1	2前・後		4		○									兼4	
			Advanced Japanese 2	2前・後		4		○									兼4	
			Upper-Advanced Japanese	2前・後		2		○									兼2	
			Business Japanese	2前・後		2		○									兼2	兼20
			小計 (30科目)	—	20	94	0	—			3	3	2	0	0		兼70	—
	M a j o r C o u r s e s		Business Communications and Productivity	2後		4		○				1						
			Introduction to Computer Networking	2前		4		○				1						
			Introduction to Informatics & Computing	2前		4		○				1						
			Macroeconomics	2前・後		4		○				2						
			Mathematics for Business and Economics I	2後		4		○			1						兼1	
			Microeconomics	2前・後		4		○				2						
			Principles of Marketing	2前・後		4		○			1	1						
			Statistics II	2前・後		4		○					1					
			AI & Machine Learning for Decision Making	3前		4		○			1							
			Blockchain & Business Applications	3前		4		○				1						
			Consumer Behavior	3後		4		○				1						
			Corporate Finance	3前		4		○					1					
			Corporate Strategy	3後		4		○			1							
			Creative Thinking for AI & IoT Innovations	3後		4		○			1							
			Data Analytics & Information Management	3後		4		○									兼1	
			Database and Big Data	3後		4		○					1					
			Development Economics	3後		4		○				1						
			Digital Banking and Fintech	3後		4		○				1						
			Digital Business Strategies	3前		4		○			1							
			Digital Marketing	3後		4		○				1						
			E-business & Payment Systems	3前		4		○					1					
			Econometrics	3後		4		○				1						
			Economic Development in Asia	3後		4		○									兼1	
			Entrepreneurial Strategies	3後		4		○				1						
			Finance	3前		4		○				1						
			Financial Accounting	3後		4		○					1					
			Game Theory	3前		4		○			1							
			Health Economics	3前		4		○				1						
			Human Resources Management	3前		4		○				1						
			Industrial Organization	3前		4		○				1						
			International Business	3後		4		○			1							
			International Economics	3前		4		○				1						
			International Environmental Policy	3前		4		○				1						
			Introduction to AI & Intelligent Product Development	3前		4		○				1						
			Introduction to R Programming & Business Analytics	3後		4		○					1					
			Marketing Strategy	3前		4		○				1						
			Mathematics for Business and Economics II	3後		4		○				1						
			Mining Unstructured Data: A Big Data Perspective	3後		4		○			1							
			Mobile Technologies, IoT, & Business Apps	3後		4		○					1					
			Object Oriented Programming & Business Java	3後		4		○				1						
			Operations and Service Management	3後		4		○			1							
			Organizational Behavior	3後		4		○			1							
			Social Media and Business	3後		4		○					1					
			Text Mining & Deep Learning	3後		4		○			1							
			Tourism : Analysis and Planning	3後		4		○				1						
			Undergraduate Thesis Writing Seminar	3前		4			○								兼2	

E ト ラ ッ ク ・ プ ロ グ ラ ム 科 目 （ 英 語 コ ー ス ）	M a j o r C o u r s e s	Web and Mobile Technology	3前		4		○					1			兼1 <
--	--	---------------------------	----	--	---	--	---	--	--	--	--	---	--	--	---

学位又は称号	学士（経済学）	学位又は学科の分野	経済学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
・経済学部経済学科：（現代経済専攻）必修科目（Communication Basic I・II，ミクロ経済学，マクロ経済学を除く）12単位，教養コア科目の選択科目から16単位，専門教育科目の選択科目から36単位を履修し，124単位以上修得すること。（ビジネスエコンミクス専攻）必修科目24単位，教養コア科目の選択科目から12単位，専門教育科目の選択科目から28単位を履修し，124単位以上修得すること。 ・Eトラック・プログラム（英語コース）：General Education科目から必修科目20単位を含み28～36単位（日本語科目の履修の有無により異なる。），Major Course科目から48単位を履修し，124単位以上修得すること。 （履修登録の上限：40単位，ただし，Eトラック・プログラム（英語コース）の4年次に限り48単位（年間））			1 学年の学期区分	2学期
			1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要														
（国際関係学部国際関係学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
T I U コ ア	大学生生活デザイン演習	1前	2				○		1					
	初年次演習	1前・後	2+2				○		1	2				兼6
	ICT基礎	1前・後	2			○			1					
	小計（3科目）	—	8	0	0	—	—	—	2	2	0	0	0	兼6 —
教 養 コ ア 科 目	人間と文化	哲学	1前・後	4		○								兼2
		倫理学	1前・後	4		○								兼2
		芸術論	1前・後	4		○								兼2
		文学	1前・後	4		○								兼3
		ことば学入門	1後	4		○								兼2
		アジア・アラブ史	1前・後	4		○								兼1
		アメリカ・ヨーロッパ史	1前	4		○								兼1
		日本史	1前・後	4		○								兼2
		地理学概論	1後	4		○								兼1
		人文地理学	1後	4		○								兼1
		日本の文化	1前・後	4		○								兼1
		異文化概論	1後	4		○								兼1
		文化人類学	1前・後	4		○								兼1
		Introduction to American Society	1後	4		○								兼1
		Life & Tradition in America	1後	4		○								兼1
	現代社会	法学	1前・後	4		○								兼2
		憲法	1前・後	4		○								兼1
		政治学	1前・後	4		○			2					
		経済学	1前・後	4		○								兼4
		社会学	1前・後	4		○								兼2
		現代の社会	1前・後	4		○								兼1
		心理学概論	1前・後	4		○								兼3
	自然科学と環境	自然科学概論	1前・後	4		○								兼2
		環境と自然	1前・後	4		○								兼3
		科学思想史	1後	4		○								兼1
		統計学入門	1前・後	4		○								兼4
		情報処理の基礎	1前・後	4		○								兼2
	健康とスポーツ	健康・スポーツ科学	1前・後	4		○								兼3
		健康・スポーツ実技	1前・後	1				○						兼7
		小計（29科目）	—	0	113	0	—	—	2	2	0	0	0	兼48 —
言 語 ス キ ル 科 目	英語	Oral Communication	1前・後	2		○								兼8
		Reading & Writing	1前・後	2		○								兼5
		English Workshop	1前・後	2		○								兼2
		Media English	1後	2		○								兼1
		Communication Basic I	1前	2		○								兼6
		Communication Basic II	1後	2		○								兼6
		English Comprehension I	1前	2		○			1					兼6
		English Comprehension II	1後	2		○								兼2
		English Project Workshop	1前・後	2		○								兼1
		Basic Speaking I	1前	1		○								兼2
		Basic Speaking II	1後	1		○								兼2
		Basic Writing I	1前	1		○								兼2
		Basic Writing II	1後	1		○								兼2
		Communication Core I	2前	2		○								兼2
		Communication Core II	2後	2		○								兼2
		Intermediate Speaking and Listening A	2前	2		○								兼3
		Intermediate Speaking and Listening B	2後	2		○								兼3
		Intermediate Reading and Writing A	2前	2		○								兼3
		Intermediate Reading and Writing B	2後	2		○								兼3

言語スキル科目	その他の外国語	ドイツ語入門	1前		2		○								兼1		
		実践ドイツ語	1後		2		○								兼1		
		フランス語入門	1前		2		○								兼1		
		実践フランス語	1後		2		○								兼1		
		スペイン語入門	1前		2		○								兼2		
		実践スペイン語	1後		2		○								兼1		
		中国語入門	1前		2		○								兼2		
		実践中国語	1後		2		○								兼2		
		ハングル入門	1前		2		○								兼1		
		実践ハングル	1後		2		○								兼1		
		ロシア語入門	1前		2		○								兼1		
		アラビア語入門	1前		2		○								兼1		
		留学生日本語	アカデミック日本語Ⅰ	1前		2		○								兼1	
	アカデミック日本語Ⅱ		2前		2		○								兼1		
	日本語ワークショップⅠ		1前		2		○								兼1		
	日本語ワークショップⅡ		2前		2		○								兼1		
	ビジネス日本語		3前		2		○								兼1		
	小計（ 36科目）			—	0	68	0	—			0	1	0	0	0	兼32	—
	自由選択科目	キャリア形成支援科目	インターンシップ入門	1前		2		○								兼1	
			インターンシップ（体験型）	2前		1				○	1						
			インターンシップ（実践学修型）	2後		3				○	1						
			ボランティア活動	1前		1				○	1						
			アカデミック・ライティング	1前		2		○								兼1	
キャリア・Re-スタート			2前		2		○			1							
地域の安全と警察			2後		2		○								兼1		
プロジェクト科目		観光まちおこしワークショップ入門	1前・後		2					○					兼3		
		観光まちおこしワークショップ実践A	1前・後		2					○					兼1		
		観光まちおこしワークショップ実践B	1前・後		2					○					兼1		
		観光まちおこしワークショップ実践C	1前・後		2					○					兼1		
		観光まちおこしプロジェクトA	2前		1					○					兼1		
		観光まちおこしプロジェクトB	2後		1					○					兼1		
		観光まちおこしプロジェクトC	2前・後		1					○					兼1		
		留学プランニング（ASPPrep）	1前・後		1		○								兼1		
		海外ゼミナールA	1前・後		4			○		1							
		海外ゼミナールB	1前・後		2			○		1							
		特別授業A	2前・後		2		○								兼1		
		特別授業B	2前・後		4		○								兼1		
		スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	1前		2					○					兼13		
		スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	1後		2					○					兼13		
		基礎科目特殊講義A	1前・後		2		○			1							
		基礎科目特殊講義B	1前・後		4		○			1							
	小計（ 23科目）			—	0	47	0	—			1	0	0	0	0	兼23	—
国際関係学科専門分野	必修	国際関係学入門	2後	2			○			1							
		基礎演習	2前・後		2			○		1					兼5		
		専門演習	3前・後		2			○		1					兼8		
		卒業研究	4後		4			○		1					兼7		
	戦争と平和	国際政治学	2前		4		○								兼2		
		国際経済学	2前・後		4		○								兼1		
		国際法	2前・後		4		○								兼1		
		政治思想	3前		4		○								兼1		
		国際政治史	3前		4		○			1							
		ナショナリズム論	3前・後		4		○				1						
		軍縮安全保障論	3前		4		○								兼1		
		国際金融論	3前・後		4		○			1					兼1		
		比較政治学	3前		4		○			1							
		比較憲法論	3前		4		○								兼1		
	国際協力	国際ボランティア論	2前		4		○								兼1		
		国際援助技術論	2後		4		○								兼1		
		国際理解論	2前		4		○								兼1		
		国際開発論	2後		4		○			1							
		国際組織論	3後		4		○								兼1		
		国際統合論	3前		4		○			1							
		国際環境論	3前・後		4		○								兼1		
		国際人権論	3後		4		○								兼1		
		国際資源論	3前		4		○			1							
国際経営論		3前・後		4		○				1							
多国籍企業論		3前・後		4		○				1							
国際NGO論		3後		4		○								兼1			

国際関係学科専門分野	現代日本	ジェンダー論	3前		4		○								兼1	
		日本政治史	2後		4		○			1					兼1	隔年
		日本外交論	3後		4		○								兼1	
		日本の安全保障	3後		4		○								兼1	
		日本経済論	3前・後		4		○								兼1	
		日本の環境政策	3後		4		○								兼1	
	国際地域研究	アメリカ社会文化論	2前		4		○								兼1	
		ヨーロッパ社会文化論	2前		4		○								兼1	
		ロシア社会文化論	2後		4		○								兼1	
		東アジア社会文化論	2後		4		○								兼1	
		中東・アフリカ社会文化論	2前・後		4		○								兼1	
		アメリカの政治と外交	3後		4		○			1					兼1	
		西ヨーロッパの政治と外交	3後		4		○				1				兼1	
		東ヨーロッパの政治と外交	3前・後		4		○					1			兼1	
		中国の政治と外交	3前		4		○			1					兼1	
		朝鮮半島の政治と外交	3後		4		○			1					兼1	
		東アジア安全保障論	3後		4		○			1					兼1	
		中東の政治	3後		4		○								兼1	
	ツーリズム	観光メディア論	2後		4		○								兼1	
		ホスピタリティ論	2後		2		○								兼1	
		観光ビジネス論	2前		2		○								兼1	
		観光マーケティング論	2後		2		○								兼1	
		観光実務研修Ⅰ	2後		2				○						兼1	
		観光先進地研修Ⅰ	2前		2				○						兼1	
		観光社会学	2前		4		○								兼1	
		国際観光英語演習	3前		2		○				1				兼1	
		観光魅力創造論	3後		2		○								兼1	
		観光マネジメント論	3前		2		○								兼1	
		MICE産業論	3前		2		○								兼1	
		観光コミュニケーション論	3後		2		○								兼1	
		観光実務研修Ⅱ	3後		2				○						兼1	
		観光先進地研修Ⅱ	3前		2				○						兼1	
		観光実務研修Ⅲ	4後		2				○						兼1	
		観光先進地研修Ⅲ	4前		2				○						兼1	
	小計（60科目）		—	2	204	0	—			7	3	0	0	0	兼32	—
学科間共通専門分野	特別教育プログラム	国際教育プログラムⅠ	2後		4			○		1						
		国際教育プログラムⅡ	2後		4			○		1						
		国際教育プログラムⅢ	2後		4			○		1						
		国際関係学部特殊講義A	3前		2		○			1						
		国際関係学部特殊講義B	3前		2		○			1						
	小計（5科目）		—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	0	—
Eトラック・プログラム科目（英語コース）	General Education	Liberal Academic	1前・後	4			○								兼17	
		Academic Composition II	1前・後	4			○								兼19	
		Analytical Reading and Thinking	1前・後	4			○								兼17	
		Public Speaking	1前・後	4			○								兼2	
		Business and Social Impact	1後	4			○								兼1	
		Food Value Chain and Sustainability	1前	4			○								兼1	
		Fundamentals of Mathematics	1前・後	4			○								兼2	
		Innovation and R & D Strategy	1後	4			○								兼1	
		Introduction to International Relations	1前・後	4			○				2		1			
		Introduction to Social Psychology	1後	4			○			1						
		Introduction to Sociology	1前	4			○			1						
		IT Literacy	1前・後	4			○								兼5	
		Principles of Economics	1前・後	4			○								兼2	
		Principles of Management	1前・後	4			○								兼2	
		Principles of Political Science	1前・後	4			○				2					
		Statistics I	1前・後	4			○								兼3	
		Sustainable Society	1後	4			○								兼1	
		World Economy	1後	4			○								兼1	
		Topics in Liberal Arts	1前・後	2			○								兼1	
		Topics in Liberal Arts	1前・後	4			○								兼1	

E ト ラ ッ ク ・ プ ロ グ ラ ム 科 目 （ 英 語 コ ー ス ）	G e n e r a l E d u c a t i o n	J a p a n e s e	Elementary Japanese 1A	1前・後		4		○									兼2		
			Elementary Japanese 1B	1前・後		4		○									兼2		
			Elementary Japanese 2A	1前・後		4		○									兼2		
			Elementary Japanese 2B	1前・後		4		○									兼2		
			Intermediate Japanese 1	2前・後		4		○									兼8		
			Intermediate Japanese 2	2前・後		4		○									兼8		
			Advanced Japanese 1	2前・後		4		○									兼4		
			Advanced Japanese 2	2前・後		4		○									兼4		
			Upper-Advanced Japanese	2前・後		2		○									兼2		
			Business Japanese	2前・後		2		○									兼2		
			小計（ 30科目）			—	16	98	0	—			1	4	1	0	0	兼75	—
	M a j o r C o u r s e s	C o r c o u r s e s	Comparative Culture	2前・後		4		○						1					
			Comparative Politics	2前・後		4		○						1	1				
			Global Sociology	2後		4		○											
			Human Rights	2前		4		○						1					
			International Law	2後		4		○						1					
			International Political Economy	2前・後		4		○				1	1						
			International Politics	2前		4		○										兼1	
			International Security	2後		4		○					1						
			Maritime Security and Ocean Governance	2前・後		4		○							1				
			Political Economy of Development	2前・後		4		○							1				
			Political Theory	2前・後		4		○							1				
			Understanding Globalization	2前・後		4		○					1						
		A d v a n c e d C o u r s e s	Chinese Politics and Foreign Policy	3前		4		○						1					
			Contemporary Japanese Literature	3後		4		○								1			
			International Development	3後		4		○								1			
			International Environmental Policy	3前		4		○											兼1
			International Integration	3前		4		○				1							
			International Organization	3前		4		○					1						
			International Relations of Asia-Pacific	3後		4		○						1					
			International Relations of Europe	3後		4		○						1					
			International Relations of South Asia	3前・後		4		○							1				
			International Relations of Southeast Asia	3前		4		○							1				
			International Relations of the Middle East	3前		4		○						1					
			Japanese Politics in Comparative Perspective	3後		4		○						1					
			Japanese Popular Culture	3後		4		○								1			
			Japanese Society	3前		4		○				1							
			Media and Society in Japan	3後		4		○											兼1
			Pre-Modern Japanese Literature	3前		4		○								1			
			Qualitative Research Methods	3前		4		○				1							
			Undergraduate Thesis Writing Seminar	3前		4			○		○								兼2
			U.S. Politics and Foreign Policy	3前		4		○							1				
			Tourism : Analysis and Planning	3後		4		○											兼1
			War and Peace in East Asia	3後		4		○				1							
			Topics in International Relations	3前		2		○											兼1
			Topics in International Relations	3前		4		○											兼1
	S e m i n a r s	Asia's Entrepreneurs	4後		4		○						1						
		Gender in International Relations	4後		4		○				1								
		International Relations of Japan	4後		4		○											兼1	
		Issues in Popular Culture	4前		4		○							1					
		Non-state Actors and Political Violence	4前		4		○						1						
		Political Development of Asia	4後		4		○						1						
		Resource Politics	4前		4		○								1				
		Theories of International Relations	4前		4		○						1						
		Transitional Justice	4後		4		○						1						
		Transitional Social Movements	4前		4		○											兼1	
		U.S.-East Asian Relations	4後		4		○								1				
		Topics in International Relations	4前		2		○											兼1	
		Topics in International Relations	4前		4		○											兼1	
	Undergraduate Study	Undergraduate Thesis	4前・後		4						○	1	1	1				兼1	
	小計（ 49科目）			—	0	192	0	—			3	5	4	0	0			—	

E ト ラ ッ ク ・ プ ロ グ ラ ム 科 目 （英 語 コ ー ス）	S p e c i a l P r o g r a m	Classes by Visiting Professors I	1前・後	2		○										兼1	
		Classes by Visiting Professors II	1前・後	2		○										兼1	
		Classes by Visiting Professors III	1前・後	2		○										兼1	
		Classes by Visiting Professors IV	1前・後	2		○										兼1	
		Career Experience Practicum	1後	2				○								兼1	
		How to Succeed at TIU and Beyond	1前・後	2			○									兼1	
		Internship	1前・後	2				○		1							
		Volunteer	1前・後	1				○		1							
		Study Abroad Seminar A	1前・後	4			○			1							
		Study Abroad Seminar B	1前・後	2			○			1							
		Advanced Argumentation & Debate	2後	2			○									兼1	
		Business Project E	2前	4			○									兼1	
		Topics in Japan Studies	2前・後	2		○										兼1	
		Topics in Japan Studies	2前・後	4		○										兼1	
小計（ 14科目）			－	0	33	0	－			1	0	0	0	0	兼8	－	
合計（280科目）			－	10	755	0	－			8	6	6	0	0	兼227	必修単位数は、 上段：経済学科 下段：Eトラック	
			16														
学位又は称号		学士（国際関係学）		学位又は学科の分野			法学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
・国際関係学部国際関係学科：必修科目10単位，教養コア科目および言語スキル科目の英語科目以外から16単位，言語スキル科目の英語科目から6単位，専門分野科目の選択科目から42単位を履修し，124単位以上修得すること。 ・Eトラック・プログラム（英語コース）：General Education科目から必修科目16単位を含み28～36単位（日本語科目の履修の有無により異なる。），Major Course科目から48単位を履修し，124単位以上修得すると。 （履修登録の上限：40単位，ただし，Eトラック・プログラム（英語コース）の4年次に限り48単位（年間））							1 学年の学期区分					2学期					
							1 学期の授業期間					15週					
							1 時限の授業時間					90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
T I U コ ア	大学生活デザイン演習	1前	2				○							兼1	
	初年次演習	1前・後	2+2				○		6	1	1			兼1	
	ICT基礎	1前・後	2			○								兼1	
	小計（ 3科目）	—	8	0	0	—	—	—	6	1	1	0	0	兼1	
教 養 コ ア 科 目	人間と文化	哲学	1前・後		4		○								兼2
		倫理学	1前・後		4		○								兼2
		芸術論	1前・後		4		○								兼2
		文学	1前・後		4		○								兼3
		ことば学入門	1後		4		○								兼2
		アジア・アラブ史	1前・後		4		○								兼1
		アメリカ・ヨーロッパ史	1前		4		○								兼1
		日本史	1前・後		4		○								兼2
		地理学概論	1後		4		○								兼1
		人文地理学	1後		4		○								兼1
		日本の文化	1前・後		4		○								兼1
		異文化概論	1後		4		○								兼1
		文化人類学	1前・後		4		○								兼1
		Introduction to American Society	1後		4		○					1			
	Life & Tradition in America	1後		4		○								兼1	
	現代社会	法学	1前・後		4		○			1					兼1
		憲法	1前・後		4		○								兼1
		政治学	1前・後		4		○			1					兼2
		経済学	1前・後		4		○								兼4
		社会学	1前・後		4		○								兼2
		現代の社会	1前・後		4		○								兼1
		心理学概論	1前・後		4		○								兼3
	自然科学と環境	自然科学概論	1前・後		4		○								兼2
		環境と自然	1前・後		4		○								兼3
		科学思想史	1後		4		○								兼1
		統計学入門	1前・後		4		○								兼4
		情報処理の基礎	1前・後		4		○								兼2
	健康とスポーツ	健康・スポーツ科学	1前・後		4		○								兼3
		健康・スポーツ実技	1前・後		1				○						兼7
		小計（ 29科目）	—	0	113	0	—	—	—	1	0	1	0	0	兼46
言 語 ス キ ル 科 目	英 語	Communication Basic I	1前	2			○			2		2			兼2
		Communication Basic II	1後	2			○			2		2			兼2
		English Comprehension I	1前	2			○			2		3			兼2
		English Comprehension II	1後	2			○			2					
		Basic Speaking I	1前	1			○			2					
		Basic Speaking II	1後	1			○			2					
		Basic Writing I	1前	1			○			2					
		Basic Writing II	1後	1			○			2					
		English Project Workshop	1前・後		2		○			1					兼1
		Communication Core I	2前	2			○			2					
		Communication Core II	2後	2			○			2					
		English Production I	2前	2			○			2					
		English Production II	2後	2			○			2					
		Intermediate Speaking and Listening A	2前		2		○					2			兼1
		Intermediate Speaking and Listening B	2後		2		○					2			兼1
		Intermediate Reading and Writing A	2前		2		○					2			兼1
		Intermediate Reading and Writing B	2後		2		○					2			兼1

言語スキル科目	その他の外国語	ドイツ語入門	1前		2		○								兼1		
		実践ドイツ語	1後		2		○								兼1		
		フランス語入門	1前		2		○								兼1		
		実践フランス語	1後		2		○								兼1		
		スペイン語入門	1前		2		○								兼2		
		実践スペイン語	1後		2		○								兼1		
		中国語入門	1前		2		○			1		1					
		実践中国語	1後		2		○			1		1					
		ハングル入門	1前		2		○								兼1		
		実践ハングル	1後		2		○								兼1		
留学生日本語	ロシア語入門	1前		2		○								兼1			
	アラビア語入門	1前		2		○								兼1			
	アカデミック日本語Ⅰ	1前		2		○								兼1			
	アカデミック日本語Ⅱ	2前		2		○								兼1			
	日本語ワークショップⅠ	1前		2		○								兼1			
留学生日本語	日本語ワークショップⅡ	2前		2		○								兼1			
	ビジネス日本語	3前		2		○								兼1			
	小計（ 34科目）		—	20	44	0	—			4	6	0	0	0	兼17	—	
	自由選択科目	キャリア形成支援科目	インターンシップ入門	1前		2		○								兼1	
			インターンシップ（体験型）	2前		1				○							
インターンシップ（実践学修型）			2後		3				○								
ボランティア活動			1前		1				○								
アカデミック・ライティング			1前		2		○										
キャリア・Re-スタート			2前		2		○										
地域の安全と警察			2後		2		○								兼1		
プロジェクト科目	観光まちおこしワークショップ入門	1前・後		2				○						兼3			
	観光まちおこしワークショップ実践A	1前・後		2				○						兼1			
	観光まちおこしワークショップ実践B	1前・後		2				○						兼1			
	観光まちおこしワークショップ実践C	1前・後		2				○						兼1			
	観光まちおこしプロジェクトA	2前		1				○						兼1			
	観光まちおこしプロジェクトB	2後		1				○						兼1			
	観光まちおこしプロジェクトC	2前・後		1				○						兼1			
	留学プランニング（ASPPrep）	1前・後		1		○								兼1			
	海外ゼミナールA	1前・後		4			○		1								
	海外ゼミナールB	1前・後		2			○		1								
	特別授業A	2前・後		2		○								兼1			
	特別授業B	2前・後		4		○								兼1			
	スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	1前		2				○	1					兼12			
	スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	1後		2				○	1					兼12			
基礎科目特殊講義A	1前・後		2		○			1									
基礎科目特殊講義B	1前・後		4		○			1									
小計（ 23科目）		—	0	47	0	—			3	0	1	0	0	兼19	—		
専門教育分野	演習・卒業研究	基礎演習	1前・後		2			○		3	1						
		専門演習	2前・後		2			○		6	1						
		卒業研究	3後		4			○		3	1	1					
	言語学／文学エリア	言語学入門	2後		2		○			1							
		コミュニケーション学	2前・後		2		○			1							
		英語学概論	2前		4		○			1					兼1		
		音声学	2前・後		2		○			1					兼1		
		英文法	2前・後		2		○			1							
		英語文学 A	2前・後		2		○			1							
		英語文学 B	2後		2		○			1							
		英語児童文学	2前・後		2		○			1							
		英語文学 C	3前		2		○			1							
		Communicative Grammar	3前・後		2		○			2					兼1		
		意味論	3後		2		○			1							
		社会言語学	3前		4		○			1							
		比較文学	3前		2		○					1			兼1		
		外国語研究	3後		2		○					1					

専門教育分野	コミュニケーションエリア	異文化間コミュニケーション	2前		2		○			1					兼1	
		英語通訳法入門	2前		4		○								兼1	
		College Speaking and Listening	2後		2		○								兼1	
		College Reading and Writing	2前		2		○								兼1	
		英語通訳法	3後		4		○								兼1	
		Academic Speaking and Listening A	3前		2		○								兼3	
		Academic Speaking and Listening B	3後		2		○								兼3	
		Academic Reading and Writing A	3前		2		○								兼3	
		Academic Reading and Writing B	3後		2		○								兼3	
	Cross-Cultural Communication	4前・後		2		○				1						
	グローバル・スタディーズエリア	Current Topics	3前		4		○								兼3	
		国際政治学	2前		4		○								兼2	
		国際関係論	3前・後		4		○								兼2	
		国際法	2前・後		4		○								兼1	
		国際理解論	2前		4		○								兼1	
		ジェンダー論	3後		4		○								兼1	
		国際協力論	3前		4		○								兼1	
		Contemporary Global Issues and Japan	3後		4		○								兼1	
		Cross-Cultural Studies A	3前		2		○								兼1	
		Cross-Cultural Studies B	3後		2		○								兼1	
		言語コミュニケーション学部特殊講義A	3前		2		○				1					
		言語コミュニケーション学部特殊講義B	3後		4		○				1					
		アメリカ研究	2前・後		4		○				1					
	イギリス研究	2前・後		2		○				1						
	アジア研究	2前		2		○					1					
	Life in the UK	2後		2		○								兼1		
	英語教育エリア	教育原理	2前・後		4		○				1				兼1	
		教育相談	2前・後		2		○								兼1	
		児童心理学	2後		2		○								兼1	
		教育心理学	2前・後		4		○								兼2	
		学校インターンシップ	2前		2		○	○			1			1		
		第二言語習得研究	3前		2		○									
	英語視聴覚教育	3前		2		○				1						
	SLA&Education	3前		2		○				1						
	英語ビジネスエリア	ビジネス入門	1前		4		○					1				
		実践ビジネス講座	2前・後		4		○								兼1	
		ホスピタリティ論	2後		2		○								兼1	
		観光学概論	2後		2		○								兼1	
		国際ビジネス論	2前・後		4		○								兼1	
		経営学概論	2前・後		4		○								兼2	
		貿易論	2前・後		4		○								兼1	
		ファイナンス概論	2後		4		○								兼1	
		ロジカル・コミュニケーション	2後		2		○					1				
		ビジネス基礎	2後		4		○					1				
		観光ガイド通訳	3前・後		2		○								兼1	
		Business Communication	3前		2		○				1				兼1	
		Intercultural Business Communication	3後		4		○								兼1	
Intercultural Business Negotiation		3前		4		○								兼1		
Business in Asia		3後		4		○								兼1		
国際秘書実務		3前		4		○								兼1		
English for Tourism		3前		2		○						1				
観光ガイド実習		3前		2		○		○						兼1		
貿易実務		3後		4		○								兼1		
会社法		3後		4		○								兼1		
マーケティング論		3前		4		○								兼1		
流通論		3後		4		○								兼1		
マーケティングコミュニケーション論		3前		4		○								兼1		
English Business Presentation		3前		2			○				1					
日本語ディベート		4前		2			○	○			1					
Advanced Argumentation & Debate		4後		2			○	○			1					
ビジネスプロジェクトJ	4前		4			○	○			1						
Business Project E	4後		4			○				1						
小計（79科目）	—	0	228	0	—				7	3	2	0	0	兼33	—	
合計（168科目）			—	28	432	0	—		7	3	7	0	0	兼116	—	

学位又は称号	学士（言語コミュニケーション学）	学位又は学科の分野	文学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
・必修科目28単位, 教養コア科目から8単位, 言語スキル科目の必修科目以外から8単位, 専門分野科目から32単位を履修し, 124単位以上修得すること。 （履修登録の上限：40単位（年間））		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分

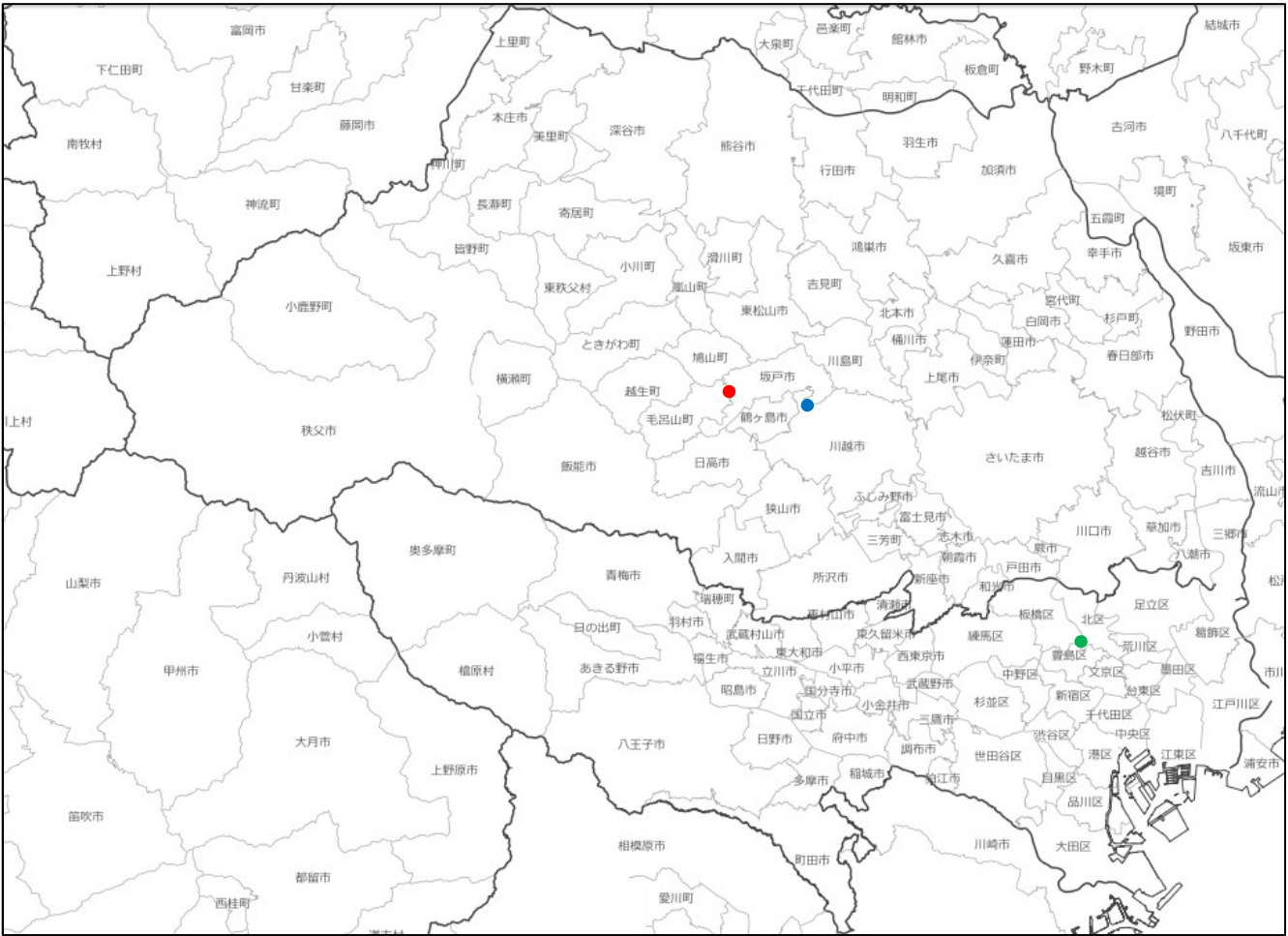
学校法人東京国際大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度(2020年度)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度(2021年度)	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
---------------	----------	-----------	----------	---------------	----------	-----------	----------	-------

東京国際大学			
商学部			
商学科	100	—	400
経営学科	80	—	320
経済学部			
経済学科	435	—	1,740
国際関係学部			
国際関係学科	245	—	980
国際メディア学科	60	—	240
人間社会学部			
福祉心理学科	25	—	100
人間スポーツ学科	230	—	920
スポーツ科学科	200	—	800
言語コミュニケーション学部			
英語コミュニケーション学科	230	—	920
中国言語文化学科	0	—	0
計	1,605	—	6,420
東京国際大学大学院			
商学研究科			
商学専攻(M)	30	—	60
商学専攻(D)	3	—	9
経済学研究科			
経済学専攻(M)	20	—	40
経済学専攻(D)	3	—	9
国際関係学研究科			
国際関係学専攻(M)	20	—	40
臨床心理学研究科			
臨床心理学専攻(M)	25	—	50
臨床心理学専攻(D)	2	—	6
計	103	—	214

東京国際大学			
商学部			
商学科	100	—	400
経営学科	80	—	320
経済学部			
経済学科	475	—	1,900 定員変更(40)
国際関係学部			
国際関係学科	310	—	1,240 定員変更(65)
国際メディア学科	60	—	240
人間社会学部			
福祉心理学科	25	—	100
人間スポーツ学科	230	—	920
スポーツ科学科	200	—	800
言語コミュニケーション学部			
英語コミュニケーション学科	250	—	1,000 定員変更(20)
中国言語文化学科	0	—	0
医療健康学部			
理学療法学科	80	—	320 学部の設置 (認可申請)
計	1,810	—	7,240
東京国際大学大学院			
商学研究科			
商学専攻(M)	30	—	60
商学専攻(D)	3	—	9
経済学研究科			
経済学専攻(M)	20	—	40
経済学専攻(D)	3	—	9
国際関係学研究科			
国際関係学専攻(M)	20	—	40
臨床心理学研究科			
臨床心理学専攻(M)	25	—	50
臨床心理学専攻(D)	2	—	6
計	103	—	214

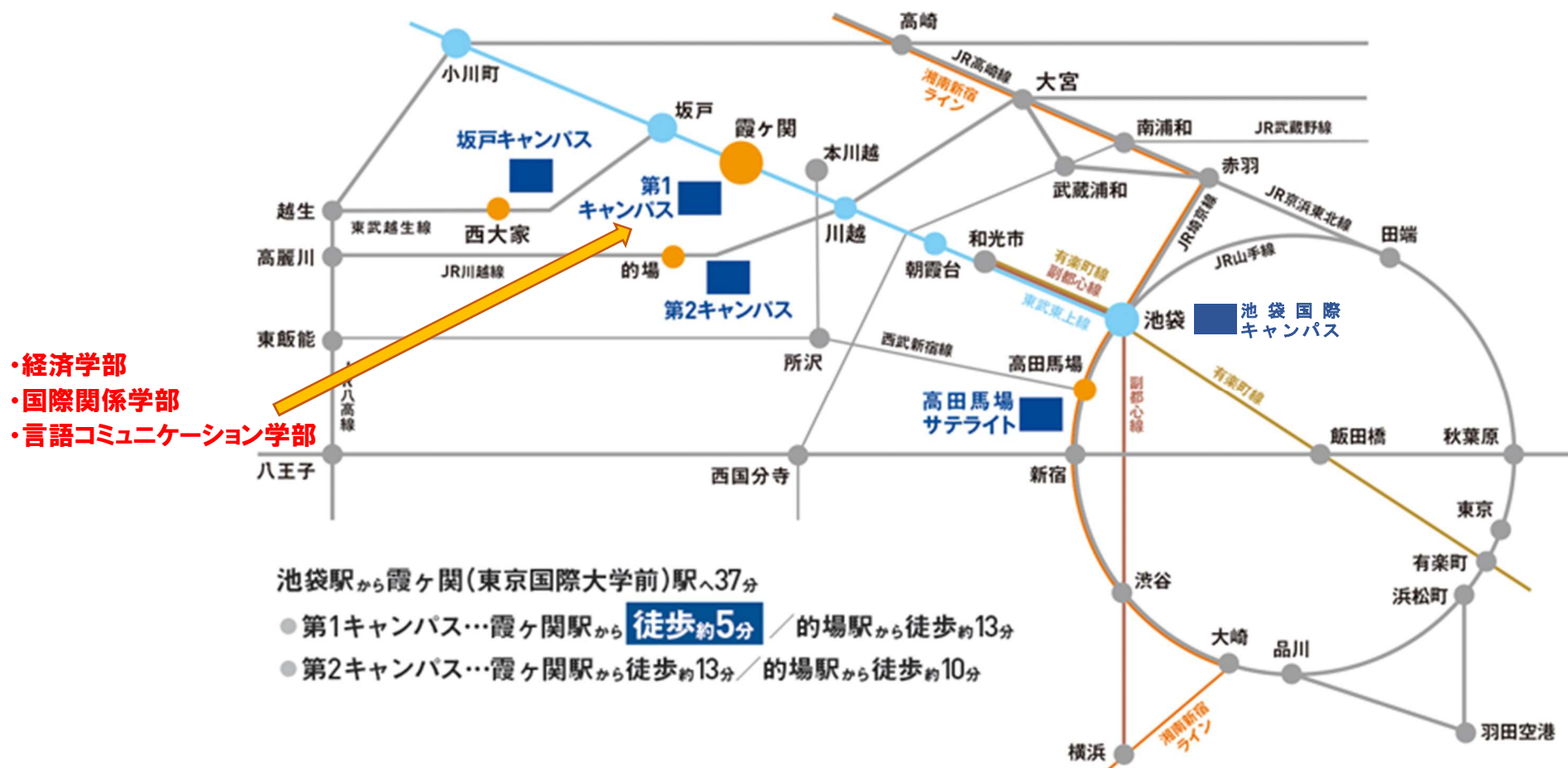
埼玉県内における位置関係のわかる図面



- 坂戸キャンパス(運動施設)
- 池袋国際キャンパス
- 第1キャンパス(商学部・経済学部・言語コミュニケーション学部・国際関係学部)/第2キャンパス(人間社会学部)

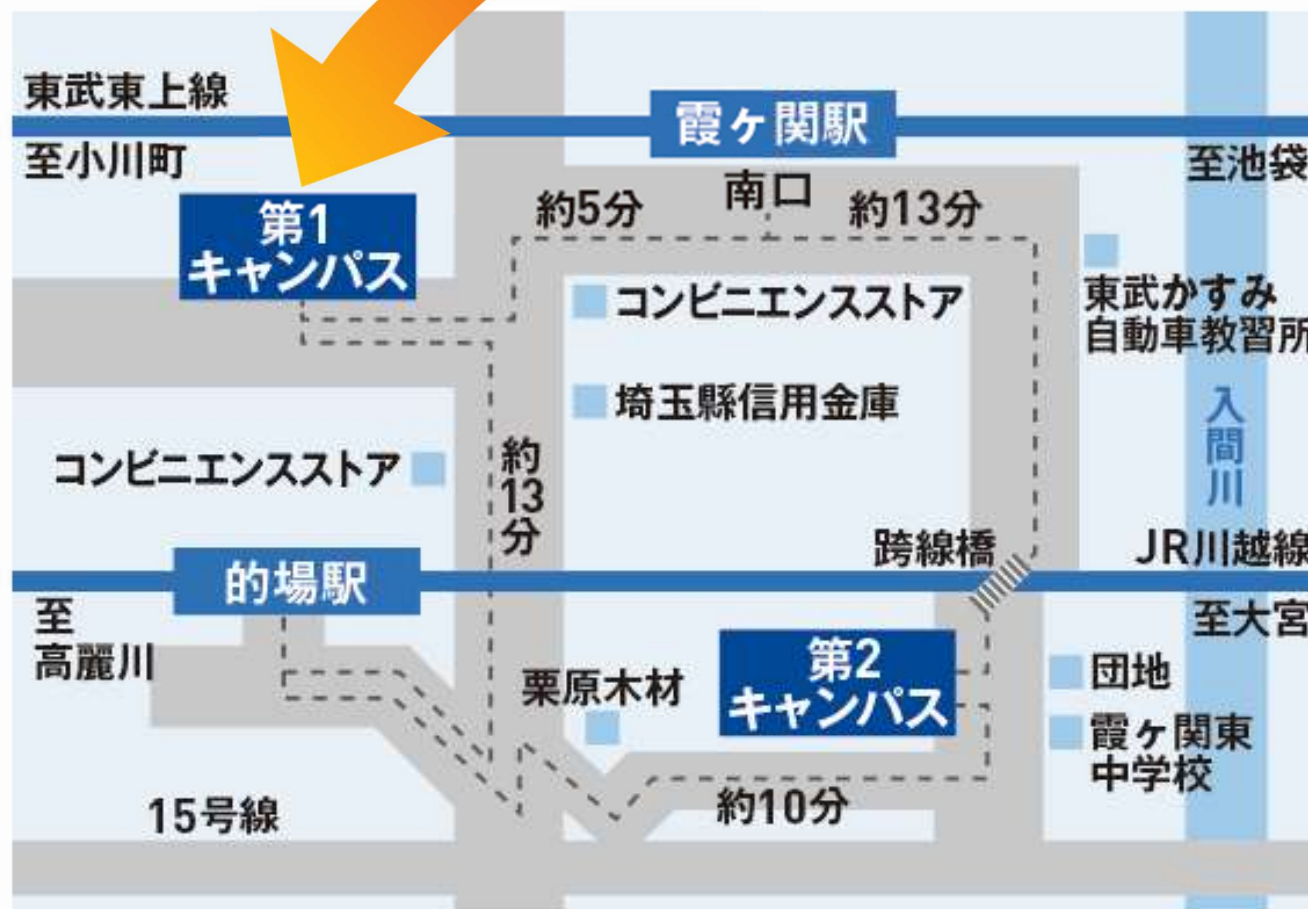
国土地理院 地理院地図(電子国土 Web、情報リスト:白地図)

最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



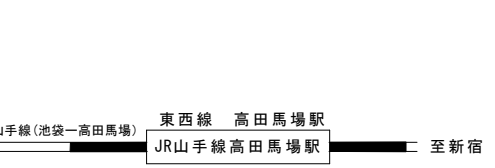
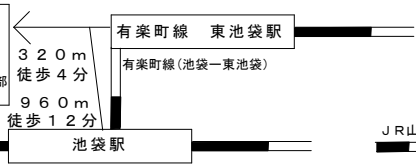
最寄駅からの所要時間

- ・経済学部
- ・国際関係学部
- ・言語コミュニケーション学部



学校の位置及び校地、校舎の配置図の概要

池袋国際キャンパス
(2023年9月開校予定)
10,000.05㎡ (全部所有予定)
所在地: 東京都豊島区東池袋4-3-2 7-202の一部
校舎: 2.2階建 約35,000㎡



第1キャンパス

36,534㎡ (全部所有)

- 所在地:
埼玉県川越市の場北1-13-1 (所有分)
埼玉県川越市の場北1-13-8 (借用分)
第1キャンパス建物概要:
(行頭の数字は配置図の建物を表す)
- | | | | | |
|----|---------|----------------|-----|--------|
| 1 | 校舎 | : 鉄骨鉄筋コンクリート造 | 7階建 | 7,235㎡ |
| 2 | 校舎 | : 鉄筋コンクリート造 | 5階建 | 5,483㎡ |
| 3 | 校舎 | : 鉄骨造 | 3階建 | 1,579㎡ |
| 4 | 校舎 | : 鉄骨鉄筋コンクリート造 | 4階建 | 3,426㎡ |
| 5 | 校舎 | : 鉄筋コンクリート造 | 2階建 | 1,670㎡ |
| 6 | 校舎 | : 鉄筋コンクリート造 | 2階建 | 3,234㎡ |
| 7 | 管理棟 | : 鉄骨鉄筋コンクリート造 | 4階建 | 2,149㎡ |
| 8 | 研究棟 | : 鉄骨鉄筋コンクリート造 | 5階建 | 2,734㎡ |
| 9 | 図書館 | : 鉄骨鉄筋コンクリート造 | 6階建 | 6,272㎡ |
| 10 | 大講堂 | : 鉄骨鉄筋コンクリート造 | 3階建 | 1,803㎡ |
| 11 | 体育館 | : 鉄骨鉄筋コンクリート造 | 3階建 | 2,876㎡ |
| 12 | 食堂1 | : 鉄骨造 | 2階建 | 1,362㎡ |
| 13 | 7号館 | : 鉄筋コンクリート造 | 2階建 | 638㎡ |
| 14 | 食堂3 | : 鉄筋コンクリート造平屋建 | | 561㎡ |
| 15 | ゲストハウス | : 鉄骨造 | 2階建 | 99㎡ |
| 16 | クラブハウス1 | : 鉄骨造 | 2階建 | 365㎡ |
| 17 | クラブハウス2 | : 鉄骨造 | 2階建 | 437㎡ |
| 18 | 倉庫 | : 鉄骨造平屋建 | | 123㎡ |
| 19 | 守衛所 | : 鉄筋コンクリート造平屋建 | | 34㎡ |

坂戸キャンパス

166,739㎡ (全部所有)

- 所在地:
埼玉県坂戸市大字四日市場字田利75-2
坂戸キャンパス建物概要:
(行頭の数字は配置図の建物を表す)
- | | | | | |
|----|------------|----------------|----------------|-------|
| 1 | フレンドシップハウス | : 鉄骨造 | 平屋建 | 1366㎡ |
| 2 | 屋内練習場 | : 鉄骨造 | 平屋建 | 1611㎡ |
| 3 | 守衛所 | : 鉄筋コンクリート造平屋建 | | 15㎡ |
| 4 | クラブハウス | : 鉄骨造 | 平屋建 | 184㎡ |
| 5 | 簡易練習場 | : 鉄骨造 | 平屋建 | 422㎡ |
| 6 | 野球場バックスタンド | : 鉄骨造 | 2階建 | 498㎡ |
| 7 | サッカー場指揮所 | : 鉄骨造 | 平屋建 | 233㎡ |
| 8 | ゴールキーパーハウス | : S R C | 2階建造 | 2650㎡ |
| 9 | サッカー場 | : 鉄骨造 | 2階建他 | 1092㎡ |
| 10 | 多目的グラウンド | : 鉄骨造 | 2階建 | 37㎡ |
| 11 | 備品倉庫 | : 鉄骨造 | 平屋建 | 99㎡ |
| 12 | 競技場バックスタンド | : 鉄骨造 | 2階建 | 32㎡ |
| 13 | 寄宿舎 | : 鉄筋コンクリート造3階建 | | 1717㎡ |
| 14 | 校舎 | : 鉄骨造 | 2階建 トレーニングセンター | 742㎡ |

一部他学部の専用部分がある施設
他学部との共用施設

坂戸キャンパス(運動場)

河川敷校地

839㎡ (全部所有)
24,366㎡ (借用)

- 所在地:
埼玉県川越市大字鯉井字浅間下1878-1 (所有分)
埼玉県川越市大字鯉井字春日64 (借用分)
埼玉県川越市大字鯉井字浅間下1873-3 (借用分)

高田馬場サテライト
(東京国際大学付属日本語学校)

- 所在地:
東京都新宿区高田馬場4-23-23
校舎: 鉄筋コンクリート造 5階建 3,301㎡

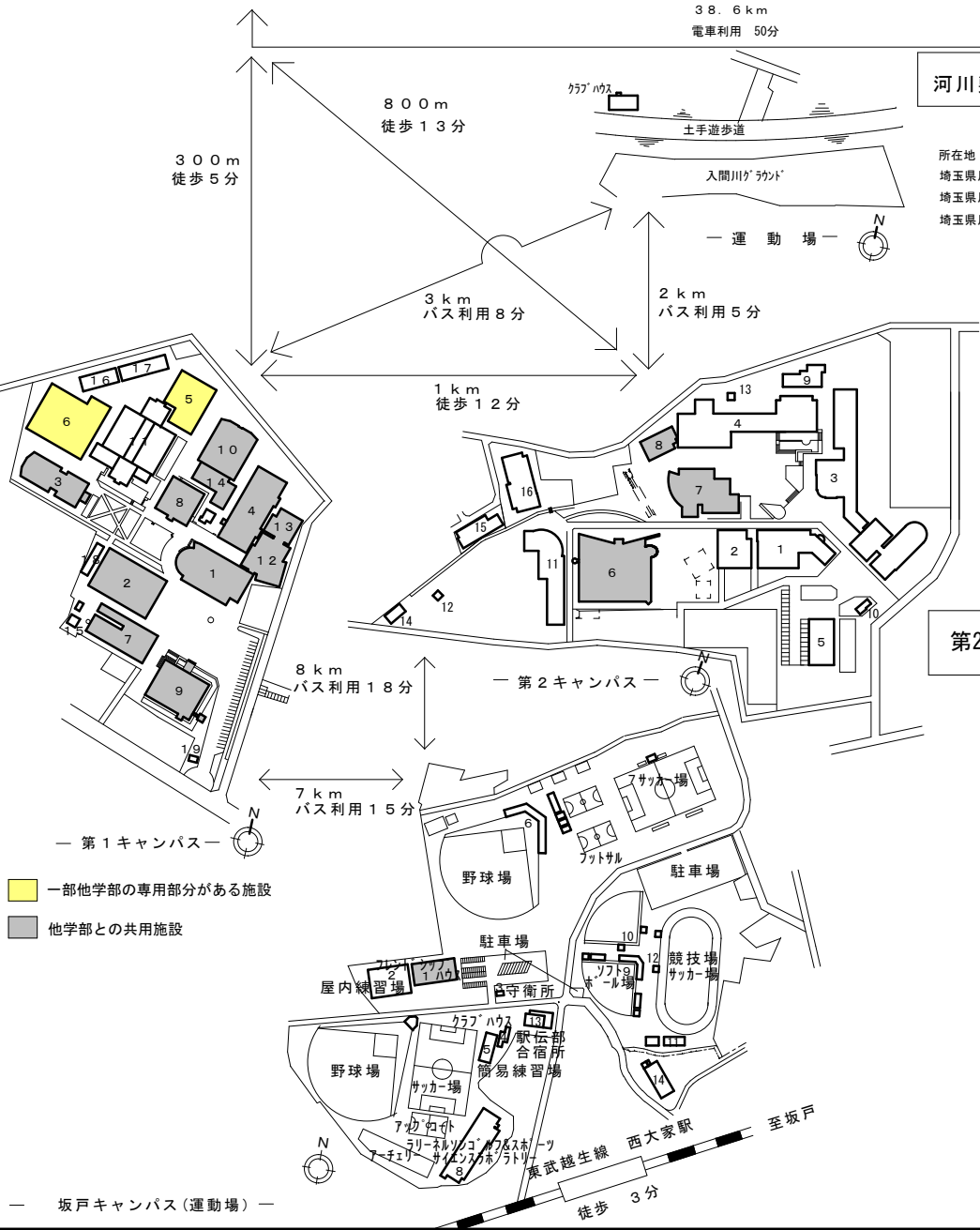
第2キャンパス

50,292㎡ (全部所有)
496㎡ (借用)

- 所在地:
埼玉県川越市大字的場字走下り2509-1 (所有分)
埼玉県川越市大字的場字走下り2530-10 (借用)

第2キャンパス建物概要:
(行頭の数字は配置図の建物を表す)

- | | | | | |
|----|----------|------------------|-----|--------|
| 1 | 校舎 | : 鉄骨鉄筋コンクリート造 | 8階建 | 3,956㎡ |
| 2 | 校舎 | : 鉄筋コンクリート造 | 4階建 | 1,942㎡ |
| 3 | 校舎 | : 鉄筋コンクリート造 | 2階建 | 4,388㎡ |
| 4 | 校舎 | : 鉄筋コンクリート造 | 2階建 | 3,455㎡ |
| 5 | 校舎 | : 鉄筋コンクリート造 | 2階建 | 1,315㎡ |
| 6 | 図書館 | : 鉄筋コンクリート造 | 3階建 | 5,766㎡ |
| 7 | 食堂 | : 鉄筋コンクリート造 | 2階建 | 1,721㎡ |
| 8 | ラウンジ・売店棟 | : 木造平屋建 | | 334㎡ |
| 9 | 体育館 | : 鉄骨造 | 2階建 | 713㎡ |
| 10 | 守衛所 | : 木造平屋建 | | 42㎡ |
| 11 | 寄宿舎 | : 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造 | 2階建 | 1,596㎡ |
| 12 | 倉庫 | : 軽量鉄骨造平屋建 | | 29㎡ |
| 13 | 倉庫 | : 鉄骨造平屋建 | | 24㎡ |
| 14 | 倉庫 | : 鉄骨造平屋建 | | 131㎡ |
| 15 | 寄宿舎 | : 鉄骨造 | 3階建 | 889㎡ |
| 16 | 寄宿舎 | : 鉄骨造 | 3階建 | 1825㎡ |



- ① （書類等の題名）
・建物図面…省略

以上

東京国際大学学則（案）

（昭和 40 年 4 月 1 日制定）

改正	昭和44年 9月22日	昭和45年 4月 1日
	昭和50年 4月 1日	昭和51年 4月 1日
	昭和52年 4月 1日	昭和53年 4月 1日
	昭和54年 4月 1日	昭和56年 4月 1日
	昭和57年 4月 1日	昭和58年 4月 1日
	昭和60年 4月 1日	昭和61年 4月 1日
	昭和62年 4月 1日	昭和63年 4月 1日
	平成元年 4月 1日	平成 2年 4月 1日
	平成 3年 4月 1日	平成 3年 7月 1日
	平成 4年 4月 1日	平成 5年 4月 1日
	平成 6年 4月 1日	平成 7年 4月 1日
	平成 7年10月 1日	平成 8年 4月 1日
	平成 9年 4月 1日	平成10年 4月 1日
	平成11年 4月 1日	平成11年 9月 1日
	平成12年 4月 1日	平成13年 4月 1日
	平成13年 9月 1日	平成14年 4月 1日
	平成15年 4月 1日	平成16年 4月 1日
	平成17年 4月 1日	平成18年 4月 1日
	平成19年 4月 1日	平成20年 4月 1日
	平成21年 4月 1日	平成22年 4月 1日
	平成23年 4月 1日	平成24年 4月 1日
	平成25年 4月 1日	平成25年11月 1日
	平成26年 4月 1日	平成 26 年 5 月 28 日
	平成27年 3月11日	平成 27 年 5 月 27 日
	平成27年10月14日	平成 28 年 3 月 16 日
	平成28年4月28日	平成 28 年 5 月 26 日
	2016年10月13日	2016 年 12 月 5 日
	2017年3月16日	2017 年 5 月 25 日
	2017年7月3日	2017 年 10 月 23 日
	2017年12月7日	2018 年 3 月 15 日
	2018年5月24日	2018 年 10 月 25 日
	2019年1月30日	2019 年 3 月 14 日
	2019年5月30日	2019 年 10 月 24 日
	2019年12月20日	2020 年 3 月 12 日

第 1 章 大学の目的及び使命

第 1 条～第 7 条（略）

(収容定員)

第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員	収 容 定 員
商 学 部	商 学 科	100名	400名
	経 営 学 科	80名	320名
経 済 学 部	経 済 学 科	475名	1,900名
国 際 関 係 学 部	国 際 関 係 学 科	310名	1,240名
	国 際 メ デ ィ ア 学 科	60名	240名
人 間 社 会 学 部	福 祉 心 理 学 科	25名	100名
	人 間 ス ポ ー ツ 学 科	230名	920名
	ス ポ ー ツ 科 学 科	200名	800名
言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 部	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	250名	1,000名
計		1,730名	6,920名

第9条～第55条 (略)

附 則 (本件収容定員の変更に関係しないもの) (略)

附 則

1. この改正学則は、2021年4月1日から施行する。
2. 第8条の規定にかかわらず、2021年度から2023年度までの各年度の各学部・学科の収容定員は、次の通りとする。

学 部	学 科	2021 年度	2022 年度	2023 年度
商学部	商学科	420 名	400 名	400 名
	経営学科	340 名	320 名	320 名
経済学部	経済学科	1,700 名	1,820 名	1,860 名
国際関係学部	国際関係学科	1,020 名	1,110 名	1,175 名
	国際メディア学科	260 名	240 名	240 名
人間社会学部	福祉心理学科	125 名	100 名	100 名
	人間スポーツ学科	920 名	920 名	920 名
	スポーツ科学科	800 名	800 名	800 名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	960 名	960 名	980 名
計		6,545 名	6,670 名	6,795 名

① （書類等の題名）

- ・別表 1（第 5 章第 13 条）…省略
- ・別表 2（第 7 章第 21 条）…省略

以上

学則の変更の趣旨等を記載した書類

(収容定員変更に係る学則変更)

東京国際大学



目次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容.....	3
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性.....	3
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	5
3.1. 教育課程の変更内容	5
3.1.1. 経済学部 経済学科.....	5
3.1.2. 国際関係学部 国際関係学科.....	6
3.1.3. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科.....	6
3.2. 教育方法及び履修指導方法の変更内容	7
3.2.1. 全学的取組	7
3.2.2. 経済学部 経済学科.....	7
3.2.3. 国際関係学部 国際関係学科.....	9
3.2.4. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科.....	10
3.3. 教員組織の変更内容	10
3.4. 大学全体の施設・設備の変更内容.....	16

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

令和3年度から、東京国際大学学則第8条に定める、経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の入学定員及び収容定員について以下のように変更する（表1）。

表1. 令和3年度 収容定員変更の概要

学部	学科	現行		変更後		差	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	435人	1,740人	475人	1,900人	40人	160人
国際関係学部	国際関係学科	245人	980人	310人	1,240人	65人	260人
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	230人	920人	250人	1,000人	20人	80人
医療健康学部※1	理学療法学科	0人	0人	80人	320人	80人	320人
学部計		910人	3,640人	1,115人	4,460人	205人	820人

※1 医療健康学部理学療法学科は設置認可申請中。

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

東京国際大学は、「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

「英語力の東京国際大学」で表象される教育事業の国際化に関しては、建学以来の姉妹校である米国オレゴン州のウィラメット大学と本学アメリカ校 Tokyo International University of America (TIUA) が共同運営する留学プログラムであるアメリカンスタディーズ・プログラム（以下ASP）を始めとした多彩な留学プログラムや、グローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）のネイティブ・スピーカー英語教員による英語教育等、グローバル環境を直に体感できる環境を整えている。

また、中央教育審議会「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」が示す「多様な価値観を持つ多様な人材が集まることにより新たな価値が創造される場」＝「多様な価値観が集まるキャンパス」を先取りする形で、経済学部経済学科及び国際関係学部国際関係学科においては、平成26年度に英語で学位取得可能なイングリッシュ・トラック・プログラム（以下Eトラック・プログラム）を開講、世界各国から外国人留学生、外国人教員・研究者が多数参集している。

これらの取組が評価され、タイムズ・ハイヤー・エデュケーション「THE 世界大学ランキング 日本版」における「国際性」分野で2017（平成29）年度第3位、2018（平成30）年度第9位、2019（平成31）年度第5位と高い評価を得ている。

また、企業の人事担当者から見た大学のイメージを調査した日経 HR「価値ある大学2019年版 就職力ランキング」では、「企業人事から見たイメージ」において「行動力」第3位、「独創性」第14位、「企業人事から見た大学の取り組み」において「授業の質の改善に熱心に取り組んでいる」第1位、「学業指導に熱心に取り組んでいる」第3位、「グローバル化に向けて熱心に取り組んでいる」第7位、「就職支援に熱心に取り組んでいる」第6位、「地域の産業・文化に貢献している」第2位、と高い評価を受けている。

今回申請を行う経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科は、本学教育事業国際化の中核を担う領域であり、上記のような各種施策を通じて社会的評価が向上するなか、受験生のニーズも高まっており、下表に示すとおり近年志願者数増加が顕著である（表2）。

表2. 各学科の志願動向

<経済学部経済学科>

※令和2年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載（秋学期入試の入学定員170名は除外）。

入学年度			平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31 (令和元)	令和2
①	入学定員		255	255	255	355	355	435	265
②	志願者数		506	778	879	987	1,439	1,639	2,301
③	志願倍率	②/①	1.98	3.05	3.45	2.78	4.05	3.77	8.68

<国際関係学部国際関係学科>

※令和2年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載（秋学期入試の入学定員110名は除外）。

入学年度			平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31 (令和元)	令和2
①	入学定員		130	130	150	200	220	245	135
②	志願者数		471	530	656	752	1,118	1,316	1,247
③	志願倍率	②/①	3.62	4.08	4.37	3.76	5.08	5.37	9.24

<言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科>

入学年度			平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31 (令和元)	令和2
①	入学定員		160	160	190	250	250	230	230
②	志願者数		606	631	676	588	703	1,164	1,421
③	志願倍率	②/①	3.79	3.94	3.56	2.35	2.81	5.06	6.18

英語で学位取得可能な E トラック・プログラムは、世界的高等教育進学ニーズ拡大の潮流を捉え、日本で学びたいという多くの外国人留学生を惹き付けることに成功している。令和元年 10 月時点の E トラック・プログラム在籍者は、経済学部経済学科 635 人（うち日本国籍 22 人、外国籍 613 人）、国際関係学部国際関係学科 365 人（うち日本国籍 32 人、外国籍 333 人）にのぼっている。令和元年 10 月時点で本学に在籍する学生の国籍は、67 ヶ国に及ぶ。

本学の推進する教育事業の国際化に共感する日本人学生、外国人留学生のニーズに対応するためには、経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の収容定員増が是非とも必要である。

令和 5 年 9 月に本学は、東京都豊島区東池袋に新キャンパスを開校する。校地面積 10,000 m²、校舎面積約 35,000 m²の新キャンパスを、「国際キャンパス」と位置づけ、経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科を移転する予定である。

平成 29 年 12 月「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議最終報告」において、「東京の国際都市化への対応」として「世界のブレーン・サーキュレーションの中核」となる教育・研究拠点の確立がテーマ設定されている。本学新キャンパスは、世界各国から優秀な研究者・学生を多数招聘し、国策の一翼を担うことを企図するものである。

都心立地により、学術面での交流機会に加え、産業界等との交流機会についても拡大が期待でき、世界各国からの研究者招聘、実務家教員の確保、産学連携等に関し優位性が高まる。これらを通じ、日本人学生、留学生双方にとり魅力的な教育プログラムの構築がより容易になると考えている。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

3.1. 教育課程の変更内容

教育課程の基盤となる、各学科の人材養成・教育研究上の目的、及び教育課程の特色は以下のとおりである（資料 1）。

3.1.1. 経済学部 経済学科

経済学部は、国際社会に生きる経済人として、世界を舞台にした経済活動に様々な分野からアプローチできる確かな理論と実践力を備えた人材を養成する。経済学科は、経済学を基軸とした知識をもとに、経済社会のさまざまな現場において、論理的に考え、問題解決を図る実践力を備えた人材を養成する。

経済学部経済学科の教育課程には、現代経済専攻及びビジネスエコノミクス専攻の二専攻を設けている。

現代経済専攻では経済学の基礎知識を基に、国際、歴史と思想、法と政治、スポーツ、地域、公共など幅広く学習し、社会の多様な分野で活躍するための幅広い教養を身につけさせる。

ビジネスエコノミクス専攻では、経済やビジネスのより専門的学習に重点を置き、ビジネスパーソンとして飛躍するためのスペシャリティを養成する。また、ビジネスエコノミクス専攻には、英語で学位取得可能な E トラック・プログラムを開講している。E トラック・プログラムでは、ビジネスエコノミクス及びデジタルビジネス&イノベーションという二つの「メジャー（主専攻）」を設置している。

3.1.2. 国際関係学部 国際関係学科

国際関係学部は、多様な国際社会の本質を理解し、理論と実践を統合し、世界で活躍する人材を養成する。国際関係学科は、国際問題を多面的思考で捉え、地球市民として現実に立ち向かう知恵と行動力を備えた人材を養成する。

国際関係学部国際関係学科の教育課程には、「戦争と平和」「国際協力」「現代日本」「国際地域研究」「ツーリズム」という 5 つの専門分野が設けられている。また、豊富な国内外でのフィールド・スタディを通して、グローバルな視点と現場での学びを融合させ、国際社会に立ち向かう知恵と行動力を養成する。更に、英語で学位取得可能な E トラック・プログラムも開講している。

3.1.3. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科

言語コミュニケーション学部は、国際コミュニケーションの知識と技術を磨き、国際社会で活躍できる応用力と専門性を備えた人材を養成する。英語コミュニケーション学科は、英語力を基軸に、国際コミュニケーションの知識と実践を統合的に探求し、国際社会に貢献できる人材を養成する。

英語教育組織 GTI による初年次からの多彩な英語教育と充実した留学プログラムを活用して、国際社会で不可欠な英語力を養成する。言語と文化、英語ビジネス、英語教育の 3 つの履修モデルで専門知識を深める。

今回の学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程の大きな変更は行わないが、各学科の人材養成及び教育研究上の目的を基盤とする教育活動の結果として「2. 学則変更（収容定員変更）の必要性」で記載したとおり、この教育課程は社会及び受験生に評価されており、今後も発展的展開が可能な内容である。本学は、環境変化や学生の学修ニーズに応じて不断の教育課程整備・充実を図ってき

ており、今後ともその方針に変わりはない。収容定員を変更した場合においても教育上の支障はないと考える。

3.2. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

3.2.1. 全学的取組

各学科の教育方法及び履修指導について述べる前に、全学的な教育改革・環境整備の取り組みについて説明を行う。

・全学的教育改革

本学は全学的にセメスター制を導入しており、その本旨に則り 4 単位科目の拡充、各科目週 2 回～3 回開講、時間割配置パターンの固定化を徹底している。また、GPA は国際通用性を持ちうる体系としたうえで厳格運用、科目ナンバリング導入による学びの体系化を図っている。学生の学習密度強化のため 1 セメスター20 単位を基本とするキャップ制を導入している。

初年次には全学部横断（E トラック・プログラムを除く）で大学生活デザイン演習及び ICT 基礎を受講させ、キャリア教育の導入部分を担うと同時に、共同学習・プレゼンテーション・IT リテラシー等の学生生活上の基礎的スキルの修得を図っている。学部毎に開講される初年次演習（E トラック・プログラムを除く）についても、全学でシラバスを共通化しアカデミック・リテラシー教育を徹底している。

以上については、学則変更（収容定員変更）後も支障なく運用可能であり、特段の対応変更を行わない。

・教育環境整備

授業外での語学学習環境を整備するため、イングリッシュ・プラザ及びジャパニーズ・プラザを設置している。イングリッシュ・プラザには GTI 所属のネイティブ・スピーカー英語教員や外国人留学生スタッフが常駐し、会話のパートナー、学習支援を行っている。同様に、ジャパニーズ・プラザではジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）所属の日本語教員や日本人学生スタッフが外国人留学生の日本語学習支援に当たっている。

これら教育環境についても、学則変更（収容定員変更）後も支障なく運用可能であり、特段の対応変更を行わない。

3.2.2. 経済学部 経済学科

・除く E トラック・プログラム

初年次に学修の基礎を修得するための科目を配置し、基礎から専門へ体系的

に学習させる。専門課程では、学生の関心・進路に応じたテーマを中心に学べる「複数の履修コース」を設け、そのコースを中心に初年次演習を通じて学科の学びの指導を、また年度始めには履修ガイダンスならびに個別の履修相談期間を設定し指導を行っている。

現代経済専攻では、① 経済学の基礎知識修得を基に、経済の多面的な理解と、広範な知識・スキルを身につける。② 自らの関心にもとづいて、様々な分野から自由に履修することができる<経済総合コース>、スポーツ分野、地域・公共分野からそれぞれ重点的に学ぶ<スポーツ経済コース>および<地域デザインコース>を設定している。

ビジネスエコノミクス専攻では① ビジネス社会で必要な経済学的思考や戦略的思考を身に付けさせ、実践の場において活用できることを目指す。② 金融に関する先端的な知識と問題解決能力を身につける<ファイナンスコース>、社会の様々な場面で、目標達成のために必要な戦略や政策を立案できる能力を鍛える<ストラテジストコース>を設定している。

・Eトラック・プログラム

経済学科の Eトラック・プログラムでは、ビジネスエコノミクス及びデジタルビジネス&イノベーションという二つの「メジャー（主専攻）」を設置し、外国人教員等が中核となって国際通用性のある双方向型アクティブ・ラーニング方式の授業を展開している。

ビジネスエコノミクス・メジャーにおいては、学生の関心に応じ「Entrepreneurial Business」「Economics」「Management」「Marketing」「Finance」という5つの「集中分野（コンセントレーション）」を履修モデルとして示している。デジタルビジネス&イノベーション・メジャーにおいては、「Entrepreneurship & Business Innovation」「AI & Deep Learning」「Digital Transformation & Tech Innovation」「Digital Marketing & Analytics」「Digital Finance & Fintech」「Digital Business Management」という6つの「集中分野（コンセントレーション）」を履修モデルとして示し、ナンバリングや先修科目を整備することで学生の履修円滑化を図っている。また、アカデミック・アドバイザー制度を敷き学生指導に当たらせている。

Eトラック・プログラムを国際通用性あるものにするため、より厳格な GPA 運用を行っている。成績の振るわない学生はアカデミック・プロベーション対象とし、履修制限単位数の引下げ、アカデミック・アドバイザーとの面談、「学修計画書」提出の義務付け等を行っている。2 学期連続でのアカデミック・プロベーション対象者は処分退学とすることがある。

以上経済学部経済学科の教育方法及び履修指導方法については、学則変更（収容定員変更）後も、特段の対応変更を行わない。従前とおりの運営を担保するため、後掲「3.3. 教員組織の変更内容」に示すとおり、教員組織の増強を行う。

3.2.3. 国際関係学部 国際関係学科

・除くEトラック・プログラム

初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ばせる。国際関係学科、国際メディア学科共通専門分野として「特別教育プログラム」を設置し、理論と現場を結びつける学修の場として両学科の教育内容の連関性を強化し、相乗効果を高めている。また、両学科に共通の専門分野「ツーリズム」を設置することで、国際関係学科、国際メディア学科それぞれの専門科目群の学修を活かした多様な「観光人材」を育成している。

国際関係学科では、「戦争と平和」「国際協力」「現代日本」「国際地域研究」「ツーリズム」の専門分野ごとに専門科目を編成し、履修モデルを設定することにより国際社会および現代日本社会について多面的な学修を行っている。

・Eトラック・プログラム

国際関係学科のEトラック・プログラムでは外国人教員等が中核となって国際通用性のある双方向型アクティブ・ラーニング方式の授業を展開している。

「Global Governance」「International Security」「International Political Economy」「Culture and Society」という4つの「集中分野（コンセントレーション）」を履修モデルとして示し、ナンバリングや先修科目を整備することで学生の履修円滑化を図っている。また、アカデミック・アドバイザー制度を敷き学生指導に当たらせている。

Eトラック・プログラムを国際通用性あるものにするため、より厳格なGPA運用を行っている。成績の振るわない学生はアカデミック・プロベーション対象とし、履修制限単位数の引下げ、アカデミック・アドバイザーとの面談・「学修計画書」提出の義務付け等を行っている。2学期連続でのアカデミック・プロベーション対象者は処分退学とすることがある。

以上国際関係学部国際関係学科の教育方法及び履修指導方法については、学則変更（収容定員変更）後も、特段の対応変更を行わない。従前とおりの運営を担保するため、後掲「3.3. 教員組織の変更内容」に示すとおり、教員組織の増強を行う。

3.2.4. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科

初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ばせる。

「基礎教育分野」では、国際人として必要な知識・理解を多角的な学修で磨き、基礎的な教養と幅広い知識を身につける多様な科目を配置している。「言語スキル科目」では、GTI のネイティブ・スピーカー教員による少人数で実践的な英語力の修得を目指す科目を中心に、英語以外の外国語科目も配置して多言語の修得も目指すことを可能にしている。学修方法の特徴として、能動的な学修方法を積極的に取り入れ、社会の現場における課題に果敢に取り組む実践力のある人材を育てるため、「自由選択科目」ではワークショップ型の科目を中心に配置している。

専門教育分野は、「演習・卒業研究」「言語学／文学」「グローバル・スタディーズ」「英語教育」そして「英語ビジネス」の 5 エリアで構成し、本学部の示す「言語と文化コース」「英語ビジネスコース」「英語教育コース」の 3 つの履修モデルコースと組み合わせて学生のキャリアや関心に合わせた科目履修を可能にしている。

定員が増えることについては、主に少人数クラスに影響することが考えられる。英語コミュニケーション学科では GTI 教員が担当する言語スキル科目、初年次演習、基礎演習、専門演習といった少人数クラス科目に演習科目が該当する。平成 31 年度のクラス平均履修者数は、言語スキル科目 10 人、初年次演習 18.9 人、基礎演習 16.2 人、専門演習 18.2 人であり、定員変更の増員効果 1.08 倍を掛け合わせると、それぞれ 10.8 人 (0.8 人増)、20.4 人 (1.5 人増)、17.4 人 (1.2 人増)、19.6 人 (1.4 人増) となり影響は小さく、現状と変わらず対応可能であると考えられる。

3.3. 教員組織の変更内容

本件収容定員変更にあたり、教員組織の増強を行う。完成年度（令和 6 年度）までに、表 3 に示す教員増員を行うことにより、各科目に応じた適正クラスサイズの維持を図り、対象学科に在籍する学生に対する教育の質を確保する。本件教員増により、専門科目増、専門演習、卒業研究対応陣容を強化し、学生の高度な専門学修にたいするニーズにきめ細かく対応していく。

表 3. 教員組織増強計画

学部	学科	専任教員数			
		設置基準	令和2年度	令和6年度	増減
経済学部	経済学科	23	36	41	5
国際関係学部	国際関係学科	15	22	25	3
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	13	21	21	0

本学では、各学部所属の教員のほか、以下のような学部横断的教育・研究組織を設置し、全学的な教育・研究活動に従事させている。今回学則変更対象となる3つの学科においては、これら組織の貢献が極めて大きい。

全学的な英語教育組織グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) を設置し、現在 42 人の北米出身の英語ネイティブ教員を擁している。GTI は、言語コミュニケーション学部、国際関係学部、経済学部等の初年次英語教育を担うほか、Eトラック・プログラムのアカデミック・リテラシー教育等を担当している。1 クラス 10 名程度の対話型授業できめ細やかな指導を行っており、今後についてもその質を担保するよう努めていく。更に平成 31 年度にはビジネス分野の実務家教員も学部と兼務で配置し、「使える英語」を目指し、連携して海外インターンシップ、PBL 等を指導する体勢を整えている。

また、Eトラック・プログラムに在籍する外国人留学生の日本語教育を担わせるため、ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート (JLI) を設置している。

経済学部経済学科については、過去 5 年間で入学定員を段階的に増加させており、令和 3 年度に向けて更に入学定員を 40 名増加する計画であるため、上記の専任教員組織増強の効果を詳述する。

経済学部経済学科の専任教員組織を増強し、令和 2 年度の 36 人体制から完成年度（令和 6 年度）までに 5 人の増員を行い 41 人体制とする（表 4）。41 人の内訳は 23 人が日本語による授業科目担当者（4 人増員）、18 人が英語による授業科目（Eトラック）担当者（外国人教員等、1 人増員）とする。日本語による授業科目担当者のうち令和 2 年度時点では 4 人が語学系（英語・日本語）科目担当者であるが、うち 2 人は令和 2 年度末をもって定年年齢に達する。英語及び日本語教育に関しては、全学組織であるグローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) 及びジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート (JLI) に集約していく方向にあり、当該 2 人の語学担当者の欠員は、経済学等社会科学系科目担当者での補充に切り替えていく。結果として、日本語による授業科目担

当者のうち経済学等社会科学系科目担当者は令和2年度の15人から令和6年度には21人に6人増員する。尚、当該21人のうち完成年度までに2人が定年年齢に達するが、補充については経済学等社会科学系担当者で行うこととし、専門演習及び卒業研究の指導体制の維持・強化を図る。

表 4. 経済学部経済学科専任教員増強計画

	令和2	令和6	増減
日本語による授業科目担当者	19	23	4
うち経済学等社会科学系科目担当者	15	21	6
うち語学系（英語・日本語）科目担当者	4	2	▲2
英語による授業科目（Eトラック）担当者	17	18	1
専任教員計	36	41	5

まず、本件専任教員増員により、経済学部経済学科の専任教員一人当たり学生数（ST比）は、現行の48.3人から定員変更後完成年度には46.3人に2.0人減少（改善）する（表5）。

表 5. 経済学部経済学科専任教員一人当たり学生数（ST比）

			現行	定員 変更後
①	入学定員		435人	475人
②	収容定員		1,740人	1,900人
③	専任教員数		36人	41人
⑤	ST比	②/③	48.3人	46.3人

この水準は、表6に示す東京都及び埼玉県に所在する32大学（大学ポートレートにて検索、本学を除く）の経済学系統学部の平均ST比45.9人とほぼ同水準である。完成年度における経済学部経済学科専任教員組織は、適正なクラスサイズ構成が可能なリソースを備えていると考える。本学では、教員募集に際し、国内・国際公募を積極的に活用している。また、若手研究者採用時には、テニユア・トラック制を導入しており、テニユア移行時・昇格時の業績等審査の厳格運用等、教員組織の質の向上に注力している。経済学部経済学科の教員組織の増強に際しても、これら対応により、学生に対する教育の質確保に努めていく。

表 6. 東京都及び埼玉県所在大学の ST 比

< 東京都及び埼玉県所在大学の経済学部ST比 >

本学を除く32大学平均ST比：45.9人

30人未満	嘉悦（経営経済） 29.8	早稲田（政治経済） 29.9
30人以上 40人未満	二松学舎（国際政治経済） 30.7	駿河台（経済経営） 33.2
	大東文化（経済） 35.0	聖学院（政治経済） 35.6
	専修（経済） 37.1	創価（経済） 37.1
	成城（経済） 38.9	東洋（経済） 39.3
	成蹊（経済） 39.8	
40人以上 50人未満	亜細亜（経済） 40.0	慶応義塾（経済） 40.5
	明星（経済） 41.6	武蔵（経済） 42.0
	明治（政治経済） 42.8	上智（経済） 44.0
	立正（経済） 44.7	青山学院（経済） 44.8
	獨協（経済） 46.1	本学（経済）完成年度46.3人
	法政（経済） 47.4	学習院（経済） 47.6
	中央（経済） 48.8	東京経済（経済） 49.3
50人以上 60人未満	日本（経済） 53.1	帝京（経済） 53.2
	明治学院（経済） 55.2	
60人以上	國學院（経済） 60.0	城西（経済） 60.0
	駒澤（経済） 63.9	立教（経済） 66.1
	武蔵野（経済） 92.1	

（注1）大学ポートレート：“私立”、“経済学部”、“東京都、埼玉県”で検索。

（注2）ST比は、各大学「情報の公表」より、専任教員数、収容定員から計算。

次に、専門演習、卒業研究の指導体制につき現行体制と本件対応後（収容定員変更後）の体制の比較を行い、教育の質の確保状況を示す。

専門演習は、Eトラック・プログラム在籍者を除く日本語による授業科目履修者3年次・4年次合同でクラス編成するが、学修意欲のある学生に対し重点的に学びの機会を提供するという考えから選択科目としている。現行のカリキュラムに完全移行した平成29年度から令和元年度の3年間における、経済学部経済学科の専門演習の履修状況を表7に示した。

表 7. 経済学部経済学科専門演習履修状況

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目履修者							
3年次生		257人	231人	205人	231人	245人	
4年次生		182人	268人	250人	233人	245人	
合計	①	439人	499人	455人	464人	490人	
専門演習履修者	②	283人	272人	230人	262人	276人	316人
履修者割合	②/①	64.5%	54.5%	50.5%	56.4%	56.4%	64.5%
		ケース2			ケース1		

当該3年平均の履修者数は262人、日本語による授業科目履修者3年次・4年次生のうち56.4%が履修した。最も履修者数・履修者割合が大きかったのは平成29年度の283人（64.5%）であった。完成年度（令和6年度）の日本語による授業科目履修者3年次・4年次生は490人と想定され、履修者割合が3年平均並み56.4%（ケース1）であれば276人、平成29年度並みの64.5%（ケース2）であれば316人が専門演習を履修することが見込まれる。

次に、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者の配置状況及び専門演習担当状況を、同様の期間につき表8に示した。

表 8. 経済学部経済学科専門演習指導体制

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目担当者							
経済学等社会科学系科目担当者		22人	16人	15人	18人	21人	
専門演習指導教員	①	22人	14人	14人	17人	18人	20人
専門演習履修者	②	283人	272人	230人	262人	276人	316人
一演習当たり履修者	②/①	13人	19人	16人	16人	16人	16人
履修者割合		64.5%	54.5%	50.5%	56.4%	56.4%	64.5%
		ケース2			ケース1		

日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数は、平成29年度から令和元年度3年平均で18人、このうち3年平均で17人が専門演習指導を担当している、一演習当たり履修者数は16人であった。専門演習の適正クラスサイズは20人程度と想定して履修運営しており、当該3年間の経済学部経済学科の専門演習は、クラスサイズ面でほぼ適正規模を保てていたと考える。

収容定員増後の完成年度には、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者は21人に増員されており、専門演習に問題なく対応できることを、以下確認した。まず、一演習当たりの履修者数は3年平均の16人を維持しつつ、専門演習履修者割合が3年平均並み56.4%（ケース1）である場合、18人の教員が専門演習を担当する必要がある。専門演習履修者割合が平成29年度並みの64.5%（ケース2）であれば、20人の教員が専門演習を担当する必要がある。いずれのケースも、平成6年度における日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数21人以内であり、問題なく対応可能である。また、一演習当たりの履修者数を20人程度にまで拡大すれば、更に履修者が増えた場合にも対応できる。

卒業研究は、Eトラック・プログラム在籍者を除く日本語による授業科目履修者4年次生が対象であり、学修意欲のある学生に対し重点的に学びの機会を提供するという考えから選択科目としている。現行のカリキュラムに完全移行した平成29年度から令和元年度の3年間における、経済学部経済学科の卒業研究の履修状況を表9に示した。

表9. 経済学部経済学科卒業研究履修状況

			平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目履修者								
4年次生	①		182人	268人	250人	233人	245人	
卒業研究履修者	②		31人	31人	26人	29人	31人	42人
割合	②/①		17.0%	11.6%	10.4%	12.6%	12.6%	17.0%
			ケース2		ケース1			

当該3年平均の履修者数は29人、日本語による授業科目履修者4年次生のうち12.6%が履修した。最も履修者数・履修者割合が大きかったのは平成29年度の31人（17.0%）であった。完成年度（令和6年度）の日本語による授業科目履修者4年次生は245人と想定され、履修者割合が3年平均並み12.6%（ケース1）であれば31人、平成29年度並みの17.0%（ケース2）であれば42人が卒業研究を履修することが見込まれる。

次に、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者の配置状況及び卒業研究担当状況を、同様の期間につき表10に示した。

表 10. 経済学部経済学科卒業研究指導体制

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目担当者							
	経済学等社会科学系科目担当者	22人	16人	15人	18人	21人	
	卒業研究指導教員	①	10人	7人	8人	8人	11人
卒業研究履修者		②	31人	31人	29人	31人	42人
	一教員当たり履修者	②/①	3人	4人	4人	4人	4人
	履修者割合		17.0%	11.6%	10.4%	12.6%	17.0%
		ケース2			ケース1		

日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数は、平成 29 年度から令和元年度 3 年平均で 18 人、このうち 3 年平均で 8 人が卒業研究指導を担当している、一教員当たり履修者数は 4 人であった。

収容定員増後の完成年度には、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者は 21 人に増員されており、卒業研究に問題なく対応できることを、以下確認した。まず、一教員当たりの履修者数は 3 年平均の 4 人を維持しつつ、卒業研究履修者割合が 3 年平均並み 12.6%（ケース 1）である場合、8 人の教員が卒業研究を担当する必要がある。卒業研究履修者割合が平成 29 年度並みの 17.0%（ケース 2）であれば、11 人の教員が卒業研究を担当する必要がある。いずれのケースも、平成 6 年度における日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数 21 人以内であり、問題なく対応可能である。

以上、専門演習、卒業研究といった経済学部経済学科専任教員組織に固有の専門教育中核分野に関しても、①教員組織の増強及び②収容定員の見直しにより、完成年度においても学生及び教員の教育の質確保が可能であると考ええる。

このように、今回の収容定員変更後における対象学科の教育課程実施に問題はない。本学としては、受験生及び社会に評価されているこの組織を更に発展させていくために、専門性、保有学位・教歴、多様性等のバランスに配慮し、教育効果を発揮できる教員組織の編成に努めていく。

3.4. 大学全体の施設・設備の変更内容

今回の収容定員変更に伴う大学全体の施設・設備の変更は行わない。埼玉県川越市に所在する本学第 1、第 2 キャンパスは、校地面積 77,288 m²、校舎面積 61,023 m²の規模を持ち、校舎面積として十分に大学設置基準が定める水準を充たしている。更に、総合スポーツ・グラウンド施設として校地面積 166,739 m²の

坂戸キャンパスも整備している。

川越市の第1キャンパスには、イングリッシュ・プラザ、ジャパニーズ・プラザといった学習スペースを整備しており、日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ環境として定員増後も十分な対応が可能である。

令和5年9月には東京都豊島区東池袋に、校地面積10,000㎡、校舎面積約26,700㎡の新キャンパスを開校する予定である。新キャンパスは「国際キャンパス」と位置づけ本学グローバル教育機能の中核とし、今回収容定員変更の対象3学科を移転する予定である。

池袋国際キャンパスは、地上22階建て高さ約100mの高層建築校舎であり、講義室、研究室、図書館、事務室等のほかに、トレーニングジム/フィットネススタジオ、食堂/カフェテリア等、学生・教職員の利便性に最大限配慮した設計となっている。また、English Plazaや学生ラウンジ等、学生の活発な交流スペース造りにも注力している（資料2）。

【付言】

本学は、平成25年5月理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議、東京都心部でのキャンパス候補地探索を開始、平成29年に実施された独立行政法人都市再生機構による豊島区造幣局地区防災公園街区整備事業に応募、採用されることで東池袋の校地取得に至った。本件に係る意思決定及び諸契約の流れについて平成30年4月にホームページ上に公表を行っており（資料3）、法令で定められた「相当程度の準備」を実施済である。東京都特別区への学部定員移転については、「特定地域内学部収容定員の抑制等に関する命令」附則第6条第1項の規定に則った届出を2022（令和4）年中に行う予定である。

添付資料

(学則の変更の趣旨等を記載した書類)

東京国際大学



目次

資料 1.	教育課程等の概要	3
資料 2.	池袋国際キャンパス概要図.....	18
資料 3.	ホームページ上での公表	22

資料1. 教育課程等の概要

経済学部経済学科

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
（経済学部経済学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
T I U コ ア	大学生生活デザイン演習	1前	2				○							兼1
	初年次演習	1前・後	2+2				○		8	4	1			兼1
	ICT基礎	1前・後	2			○								
	小計（3科目）	—	8	0	0	—	—	—	8	4	1	0	0	兼1 —
教 養 コ ア 科 目	人間と文化	哲学	1前・後	4		○								兼2
	倫理学	1前・後	4			○								兼2
	芸術論	1前・後	4			○								兼2
	文学	1前・後	4			○			1					兼2
	ことば学入門	1後	4			○								兼2
	アジア・アラブ史	1前・後	4			○								兼1
	アメリカ・ヨーロッパ史	1前	4			○								兼1
	日本史	1前・後	4			○								兼2
	地理学概論	1後	4			○								兼1
	人文地理学	1後	4			○								兼1
	日本の文化	1前・後	4			○								兼1
	異文化概論	1後	4			○								兼1
	文化人類学	1前・後	4			○								兼1
	Introduction to American Society	1後	4			○								兼1
	Life & Tradition in America	1後	4			○								兼1
	現代社会	法学	1前・後	4		○								兼2
	憲法	1前・後	4			○								兼1
	政治学	1前・後	4			○								兼3
	経済学	1前・後	4			○			3	1				兼2
	社会学	1前・後	4			○								兼1
	現代の社会	1前・後	4			○								兼3
	心理学概論	1前・後	4			○								兼2
	自然科学と環境	自然科学概論	1前・後	4		○								兼3
	環境と自然	1前・後	4			○								兼1
	科学思想史	1後	4			○			1	1				兼2
	統計学入門	1前・後	4			○				1				兼1
	情報処理の基礎	1前・後	4			○								
	ポ ジ チ ブ ヘル ス	健康・スポーツ科学	1前・後	4		○								兼3
	健康・スポーツ実技	1前・後	1					○						兼7
	小計（29科目）	—	4	109	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼43 —
言 語 ス キ ル 科 目	英語	Oral Communication	1前・後	2		○			2	1				兼5
	Reading & Writing	1前・後	2			○			1					兼4
	English Workshop	1前・後	2			○				1				兼1
	Media English	1後	2			○								兼1
	Communication Basic I	1前	2			○			1	1				兼4
	Communication Basic II	1後	2			○			1	1				兼4
	English Comprehension I	1前	2			○								兼7
	English Comprehension II	1後	2			○								兼2
	Basic Speaking I	1前	1			○								兼2
	Basic Speaking II	1後	1			○								兼2
	Basic Writing I	1前	1			○								兼2
	Basic Writing II	1後	1			○								兼2
	Intermediate Speaking and Listening A	2前	2			○								兼3
	Intermediate Speaking and Listening B	2後	2			○								兼3
	Intermediate Reading and Writing A	2前	2			○								兼2
	Intermediate Reading and Writing B	2後	2			○								兼2

言語スキル科目	その他の外国語	ドイツ語入門	1前		2		○								兼1	
		実践ドイツ語	1後		2		○								兼1	
		フランス語入門	1前		2		○								兼1	
		実践フランス語	1後		2		○								兼1	
		スペイン語入門	1前		2		○								兼2	
		実践スペイン語	1後		2		○								兼1	
		中国語入門	1前		2		○								兼2	
		実践中国語	1後		2		○								兼2	
		ハングル入門	1前		2		○								兼1	
		実践ハングル	1後		2		○								兼1	
		ロシア語入門	1前		2		○								兼1	
		アラビア語入門	1前		2		○								兼1	
	留学生日本語	アカデミック日本語Ⅰ	1前		2		○			1						
		アカデミック日本語Ⅱ	2前		2		○			1						
		日本語ワークショップⅠ	1前		2		○			1						
		日本語ワークショップⅡ	2前		2		○			1						
		ビジネス日本語	3前		2		○			1						
	小計（33科目）		—	4	58	0	—			3	1	0	0	0	兼27	—
自由選択科目	キャリア形成支援科目	インターンシップ入門	1前		2		○								兼1	
		インターンシップ（体験型）	2前		1					1						
		インターンシップ（実践学修型）	2後		3										兼1	
		ボランティア活動	1前		1					1						
		アカデミック・ライティング	1前		2		○								兼1	
		キャリア・Re-スタート	2前		2		○								兼1	
		地域の安全と警察	2後		2		○			1						
	プロジェクト科目	観光まちおこしワークショップ入門	1前・後		2					○					兼3	
		観光まちおこしワークショップ実践A	1前・後		2					○					兼1	
		観光まちおこしワークショップ実践B	1前・後		2					○					兼1	
		観光まちおこしワークショップ実践C	1前・後		2					○					兼1	
		観光まちおこしプロジェクトA	2前		1					○					兼1	
		観光まちおこしプロジェクトB	2後		1					○					兼1	
		観光まちおこしプロジェクトC	2前・後		1					○					兼1	
		留学プランニング（ASPPrep）	1前・後		1			○		1						
		海外ゼミナールA	1前・後		4			○		1						
		海外ゼミナールB	1前・後		2			○		1						
		特別授業A	2前・後		2		○								兼1	
		特別授業B	2前・後		4		○								兼1	
		スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	1前		2					○					兼13	
		スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	1後		2					○					兼13	
		基礎科目特殊講義A	1前・後		2		○			1						
		基礎科目特殊講義B	1前・後		4		○			1						
	小計（23科目）		—	0	47	0	—			1					兼19	—
専門教育分野		数学入門	1前・後		4		○			1	1				兼1	
		社会史A	1前		4		○								兼1	
		社会史B	1前		4		○			1						
		簿記	1前・後		4		○								兼3	
		基礎演習	1前・後		2			○		4	2	1				
		経済史A	2後		4		○								兼1	
		経済史B	2後		4		○								兼1	
		経済学の歴史	2後		4		○			1						
		ミクロ経済学	2後	4			○			2						
		マクロ経済学	2前・後	4			○			1						
		ゲーム理論Ⅰ	2前		4		○			1						
		行動経済学Ⅰ	2前		4		○					1				
		ビジネスエコノミクスⅠ	2後		2		○			1						
		計量経済学	2前・後		4		○					1				
		経済数学	2後		4		○								兼1	
		国際経済学	2前・後		4		○			1						
		金融論	2前		4		○			1						
		公共経済学	2前		4		○			1						
		財政学	2前・後		4		○				1					
		地域経済論	2後		4		○			1						
		国際法	2前・後		4		○								兼1	
		民法	2前・後		4		○			1						
		国際政治学	2前		4		○			1					兼1	
		国際関係論	3前・後		4		○			1					兼1	
		観光学概論	2後		2		○								兼1	
		地域デザイン	2後		2		○				1					
		スポーツ経済学	3後		4		○				1					

[illegible]

E ト ラ ッ ク ・ プ ロ グ ラ ム 科 目 (英 語 コ ー ス)	G e n e r a l E d u c a t i o n	J a p a n e s e	Elementary Japanese 1A	1前・後		4		○										兼2	
			Elementary Japanese 1B	1前・後		4		○										兼2	
			Elementary Japanese 2A	1前・後		4		○										兼2	
			Elementary Japanese 2B	1前・後		4		○										兼2	
			Intermediate Japanese 1	2前・後		4		○										兼8	
			Intermediate Japanese 2	2前・後		4		○										兼8	
			Advanced Japanese 1	2前・後		4		○										兼4	
			Advanced Japanese 2	2前・後		4		○										兼4	
			Upper-Advanced Japanese	2前・後		2		○										兼2	
			Business Japanese	2前・後		2		○										兼2	兼20
			小計 (30科目)	—	20	94	0	—			3	3	2	0	0			兼70	—
	M a j o r C o u r s e s		Business Communications and Productivity	2後		4		○				1							
			Introduction to Computer Networking	2前		4		○				1							
			Introduction to Informatics & Computing	2前		4		○				1							
			Macroeconomics	2前・後		4		○				2							
			Mathematics for Business and Economics I	2後		4		○			1							兼1	
			Microeconomics	2前・後		4		○				2							
			Principles of Marketing	2前・後		4		○			1	1							
			Statistics II	2前・後		4		○					1						
			AI & Machine Learning for Decision Making	3前		4		○			1								
			Blockchain & Business Applications	3前		4		○				1							
			Consumer Behavior	3後		4		○				1							
			Corporate Finance	3前		4		○					1						
			Corporate Strategy	3後		4		○			1								
			Creative Thinking for AI & IoT Innovations	3後		4		○			1								
			Data Analytics & Information Management	3後		4		○										兼1	
			Database and Big Data	3後		4		○					1						
			Development Economics	3後		4		○				1							
			Digital Banking and Fintech	3後		4		○				1							
			Digital Business Strategies	3前		4		○			1								
			Digital Marketing	3後		4		○				1							
			E-business & Payment Systems	3前		4		○					1						
			Econometrics	3後		4		○				1							
			Economic Development in Asia	3後		4		○										兼1	
			Entrepreneurial Strategies	3後		4		○				1							
			Finance	3前		4		○				1							
			Financial Accounting	3後		4		○					1						
			Game Theory	3前		4		○			1								
			Health Economics	3前		4		○				1							
			Human Resources Management	3前		4		○				1							
			Industrial Organization	3前		4		○				1							
			International Business	3後		4		○			1								
			International Economics	3前		4		○				1							
			International Environmental Policy	3前		4		○				1							
			Introduction to AI & Intelligent Product Development	3前		4		○				1							
			Introduction to R Programming & Business Analytics	3後		4		○					1						
			Marketing Strategy	3前		4		○				1							
			Mathematics for Business and Economics II	3後		4		○				1							
			Mining Unstructured Data: A Big Data Perspective	3後		4		○			1								
			Mobile Technologies, IoT, & Business Apps	3後		4		○					1						
			Object Oriented Programming & Business Java	3後		4		○				1							
			Operations and Service Management	3後		4		○			1								
			Organizational Behavior	3後		4		○			1								
			Social Media and Business	3後		4		○					1						
			Text Mining & Deep Learning	3後		4		○			1								
			Tourism : Analysis and Planning	3後		4		○				1							
			Undergraduate Thesis Writing Seminar	3前		4			○									兼2	

[illegible]

学位又は称号	学士（経済学）	学位又は学科の分野	経済学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
・経済学部経済学科：（現代経済専攻）必修科目（Communication Basic I・II，ミクロ経済学，マクロ経済学を除く）12単位，教養コア科目の選択科目から16単位，専門教育科目の選択科目から36単位を履修し，124単位以上修得すること。（ビジネスエコノミクス専攻）必修科目24単位，教養コア科目の選択科目から12単位，専門教育科目の選択科目から28単位を履修し，124単位以上修得すること。 ・Eトラック・プログラム（英語コース）：General Education科目から必修科目20単位を含み28～36単位（日本語科目の履修の有無により異なる。），Major Course科目から48単位を履修し，124単位以上修得すること。 （履修登録の上限：40単位，ただし，Eトラック・プログラム（英語コース）の4年次に限り48単位（年間））			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	15 週
			1 時限の授業時間	90 分

国際関係学部国際関係学科

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
（国際関係学部国際関係学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
T I U コ ア	大学生生活デザイン演習	1前	2				○		1					
	初年次演習	1前・後	2+2				○		1	2				兼6
	ICT基礎	1前・後	2			○			1					
	小計（3科目）	—	8	0	0	—	—	—	2	2	0	0	0	兼6 —
教 養 コ ア 科 目	人間と文化	哲学	1前・後	4		○								兼2
	倫理学	1前・後	4			○								兼2
	芸術論	1前・後	4			○								兼2
	文学	1前・後	4			○								兼3
	ことば学入門	1後	4			○								兼2
	アジア・アラブ史	1前・後	4			○								兼1
	アメリカ・ヨーロッパ史	1前	4			○								兼1
	日本史	1前・後	4			○								兼2
	地理学概論	1後	4			○								兼1
	人文地理学	1後	4			○								兼1
	日本の文化	1前・後	4			○								兼1
	異文化概論	1後	4			○								兼1
	文化人類学	1前・後	4			○								兼1
	Introduction to American Society	1後	4			○								兼1
	Life & Tradition in America	1後	4			○								兼1
	現代社会	法学	1前・後	4		○								兼2
	憲法	1前・後	4			○			2					兼1
	政治学	1前・後	4			○								
	経済学	1前・後	4			○								兼4
	社会学	1前・後	4			○								兼2
	現代の社会	1前・後	4			○								兼1
	心理学概論	1前・後	4			○								兼3
	自然科学と環境	自然科学概論	1前・後	4		○								兼2
	環境と自然	1前・後	4			○								兼3
	科学思想史	1後	4			○								兼1
	統計学入門	1前・後	4			○								兼4
	情報処理の基礎	1前・後	4			○								兼2
	健康・スポーツ科学	1前・後	4			○								兼3
	健康・スポーツ実技	1前・後	1					○						兼7
	小計（29科目）	—	0	113	0	—	—	—	2	2	0	0	0	兼48 —
言 語 ス キ ル 科 目	英語	Oral Communication	1前・後	2		○								兼8
	Reading & Writing	1前・後	2			○								兼5
	English Workshop	1前・後	2			○								兼2
	Media English	1後	2			○								兼1
	Communication Basic I	1前	2			○								兼6
	Communication Basic II	1後	2			○								兼6
	English Comprehension I	1前	2			○			1					兼6
	English Comprehension II	1後	2			○								兼2
	English Project Workshop	1前・後	2			○								兼1
	Basic Speaking I	1前	1			○								兼2
	Basic Speaking II	1後	1			○								兼2
	Basic Writing I	1前	1			○								兼2
	Basic Writing II	1後	1			○								兼2
	Communication Core I	2前	2			○								兼2
	Communication Core II	2後	2			○								兼2
	Intermediate Speaking and Listening A	2前	2			○								兼3
	Intermediate Speaking and Listening B	2後	2			○								兼3
	Intermediate Reading and Writing A	2前	2			○								兼3
	Intermediate Reading and Writing B	2後	2			○								兼3

言語スキル科目	その他の外国語	ドイツ語入門	1前	2		○									兼1	
		実践ドイツ語	1後	2		○									兼1	
		フランス語入門	1前	2		○									兼1	
		実践フランス語	1後	2		○									兼1	
		スペイン語入門	1前	2		○									兼2	
		実践スペイン語	1後	2		○									兼1	
		中国語入門	1前	2		○									兼2	
		実践中国語	1後	2		○									兼2	
		ハンデル入門	1前	2		○									兼1	
		実践ハンデル	1後	2		○									兼1	
		ロシア語入門	1前	2		○									兼1	
		アラビア語入門	1前	2		○									兼1	
	留学生日本語	アカデミック日本語Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		アカデミック日本語Ⅱ	2前	2		○									兼1	
		日本語ワークショップⅠ	1前	2		○									兼1	
		日本語ワークショップⅡ	2前	2		○									兼1	
		ビジネス日本語	3前	2		○									兼1	
	小計（36科目）		—	0	68	0	—			0	1	0	0	0	兼32	—
自由選択科目	キャリア形成支援科目	インターンシップ入門	1前	2		○									兼1	
		インターンシップ（体験型）	2前	1				○		1						
		インターンシップ（実践学修型）	2後	3				○		1						
		ボランティア活動	1前	1				○		1						
		アカデミック・ライティング	1前	2		○									兼1	
		キャリア・Re-スタート	2前	2		○				1						
		地域の安全と警察	2後	2		○									兼1	
	プロジェクト科目	観光まちおこしワークショップ入門	1前・後	2				○							兼3	
		観光まちおこしワークショップ実践A	1前・後	2				○							兼1	
		観光まちおこしワークショップ実践B	1前・後	2				○							兼1	
		観光まちおこしワークショップ実践C	1前・後	2				○							兼1	
		観光まちおこしプロジェクトA	2前	1				○							兼1	
		観光まちおこしプロジェクトB	2後	1				○							兼1	
		観光まちおこしプロジェクトC	2前・後	1				○							兼1	
		留学プランニング（ASPPrep）	1前・後	1		○									兼1	
		海外ゼミナールA	1前・後	4				○		1						
		海外ゼミナールB	1前・後	2				○		1						
		特別授業A	2前・後	2		○									兼1	
		特別授業B	2前・後	4		○									兼1	
		スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	1前	2											兼13	
		スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	1後	2											兼13	
		基礎科目特殊講義A	1前・後	2		○				1						
		基礎科目特殊講義B	1前・後	4		○				1						
	小計（23科目）		—	0	47	0	—			1	0	0	0	0	兼23	—
国際関係学科専門分野	必修 実習・卒業研究	国際関係学入門	2後	2		○				1						
		基礎演習	2前・後	2				○		1					兼5	
		専門演習	3前・後	2				○		1					兼8	
		卒業研究	4後	4				○		1					兼7	
	戦争と平和	国際政治学	2前	4		○									兼2	
		国際経済学	2前・後	4		○									兼1	
		国際法	2前・後	4		○									兼1	
		政治思想	3前	4		○									兼1	
		国際政治史	3前	4		○				1						
		ナショナリズム論	3前・後	4		○					1					
		軍縮安全保障論	3前	4		○									兼1	
		国際金融論	3前・後	4		○				1					兼1	
		比較政治学	3前	4		○				1						
		比較憲法論	3前	4		○									兼1	
	国際協力	国際ボランティア論	2前	4		○									兼1	
		国際援助技術論	2後	4		○									兼1	
		国際理解論	2前	4		○									兼1	
		国際開発論	2後	4		○				1						
		国際組織論	3後	4		○					1				兼1	
		国際統合論	3前	4		○										
		国際環境論	3前・後	4		○									兼1	
		国際人権論	3後	4		○									兼1	
		国際資源論	3前	4		○				1						
		国際経営論	3前・後	4		○					1					
		多国籍企業論	3前・後	4		○					1					
		国際NGO論	3後	4		○									兼1	

国際関係学科専門分野	現代日本	ジェンダー論	3前		4		○								兼1	
		日本政治史	2後		4		○								兼1	隔年
		日本外交論	3後		4		○			1					兼1	
		日本の安全保障	3後		4		○								兼1	
		日本経済論	3前・後		4		○								兼1	
		日本の環境政策	3後		4		○								兼1	
	国際地域研究	アメリカ社会文化論	2前		4		○								兼1	
		ヨーロッパ社会文化論	2前		4		○								兼1	
		ロシア社会文化論	2後		4		○								兼1	
		東アジア社会文化論	2後		4		○								兼1	
		中東アフリカ社会文化論	2前・後		4		○								兼1	
		アメリカの政治と外交	3後		4		○			1					兼1	
		西ヨーロッパの政治と外交	3後		4		○				1				兼1	
		東ヨーロッパの政治と外交	3前・後		4		○					1			兼1	
		中国の政治と外交	3前		4		○			1					兼1	
		朝鮮半島の政治と外交	3後		4		○			1					兼1	
		東アジア安全保障論	3後		4		○			1					兼1	
		中東の政治	3後		4		○								兼1	
	ツーリズム	観光メディア論	2後		4		○								兼1	
		ホスピタリティ論	2後		2		○								兼1	
		観光ビジネス論	2前		2		○								兼1	
		観光マーケティング論	2後		2		○								兼1	
		観光実務研修Ⅰ	2後		2										兼1	
		観光先進地研修Ⅰ	2前		2										兼1	
		観光社会学	2前		4		○								兼1	
		国際観光英語演習	3前		2		○				1				兼1	
		観光魅力創造論	3後		2		○								兼1	
		観光マネジメント論	3前		2		○								兼1	
		MICE産業論	3前		2		○								兼1	
		観光コミュニケーション論	3後		2		○								兼1	
		観光実務研修Ⅱ	3後		2										兼1	
		観光先進地研修Ⅱ	3前		2										兼1	
		観光実務研修Ⅲ	4後		2										兼1	
		観光先進地研修Ⅲ	4前		2										兼1	
	小計（60科目）		—	2	204	0	—			7	3	0	0	0	兼32	—
学科間共通専門分野	特別教育プログラム	国際教育プログラムⅠ	2後		4		○			1						
		国際教育プログラムⅡ	2後		4		○			1						
		国際教育プログラムⅢ	2後		4		○			1						
		国際関係学部特殊講義A	3前		2		○			1						
		国際関係学部特殊講義B	3前		2		○			1						
	小計（5科目）		—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	0	—
Eトラック・プログラム科目（英語コース）	Liberal Arts	Academic Composition I	1前・後		4		○								兼17	
		Academic Composition II	1前・後		4		○								兼19	
		Analytical Reading and Thinking	1前・後		4		○								兼17	
		Public Speaking	1前・後		4		○								兼2	
	Arts	Business and Social Impact	1後		4		○								兼1	
		Food Value Chain and Sustainability	1前		4		○								兼1	
		Fundamentals of Mathematics	1前・後		4		○								兼2	
		Innovation and R & D Strategy	1後		4		○								兼1	
		Introduction to International Relations	1前・後	4			○				2	1				
		Introduction to Social Psychology	1後		4		○			1						
		Introduction to Sociology	1前		4		○			1						
		IT Literacy	1前・後		4		○								兼5	
		Principles of Economics	1前・後		4		○								兼2	
		Principles of Management	1前・後		4		○								兼2	
		Principles of Political Science	1前・後		4		○				2					
		Statistics I	1前・後		4		○								兼3	
		Sustainable Society	1後		4		○								兼1	
		World Economy	1後		4		○								兼1	
		Topics in Liberal Arts	1前・後		2		○								兼1	
		Topics in Liberal Arts	1前・後		4		○								兼1	

E ト ラ ック ・ プ ロ グ ラ ム 科 目 (英 語 コ ー ス)	G e n e r a l E d u c a t i o n	J	Elementary Japanese 1A	1前・後	4		○													兼2	
		J	Elementary Japanese 1B	1前・後	4		○													兼2	
		J	Elementary Japanese 2A	1前・後	4		○													兼2	
		J	Elementary Japanese 2B	1前・後	4		○													兼2	
		J	Intermediate Japanese 1	2前・後	4		○													兼8	
		J	Intermediate Japanese 2	2前・後	4		○													兼8	
		J	Advanced Japanese 1	2前・後	4		○													兼4	
		J	Advanced Japanese 2	2前・後	4		○													兼4	
		J	Upper-Advanced Japanese	2前・後	2		○													兼2	
		J	Business Japanese	2前・後	2		○													兼2	
		小計 (30科目)	—	16	98	0	—			1	4	1	0	0					兼75	—	
	M a j o r C o u r s e s	C	Comparative Culture	2前・後	4		○														
		C	Comparative Politics	2前・後	4		○														
		G	Global Sociology	2後	4		○			1											
		H	Human Rights	2前	4		○														
		I	International Law	2後	4		○														
		I	International Political Economy	2前・後	4		○			1											
		I	International Politics	2前	4		○													兼1	
		I	International Security	2後	4		○														
		M	Maritime Security and Ocean Governance	2前・後	4		○														
		P	Political Economy of Development	2前・後	4		○														
		P	Political Theory	2前・後	4		○														
		U	Understanding Globalization	2前・後	4		○														
		A d v a n c e d C o u r s e s	A	Chinese Politics and Foreign Policy	3前	4		○													
	C		Contemporary Japanese Literature	3後	4		○														
	I		International Development	3後	4		○														
	I		International Environmental Policy	3前	4		○														兼1
	I		International Integration	3前	4		○			1											
	I		International Organization	3前	4		○														
	I		International Relations of Asia-Pacific	3後	4		○														
	I		International Relations of Europe	3後	4		○														
	I		International Relations of South Asia	3前・後	4		○														
	I		International Relations of Southeast Asia	3前	4		○														
	I		International Relations of the Middle East	3前	4		○														
	J		Japanese Politics in Comparative Perspective	3後	4		○														
	J		Japanese Popular Culture	3後	4		○														
	J		Japanese Society	3前	4		○														
	M		Media and Society in Japan	3後	4		○														兼1
	P		Pre-Modern Japanese Literature	3前	4		○														
	Q		Qualitative Research Methods	3前	4		○														
	U		Undergraduate Thesis Writing Seminar	3前	4			○													兼2
	U		U.S. Politics and Foreign Policy	3前	4		○														
	T		Tourism : Analysis and Planning	3後	4		○														兼1
	W		War and Peace in East Asia	3後	4		○														
	T		Topics in International Relations	3前	2		○														兼1
	T		Topics in International Relations	3前	4		○														兼1
	S e m i n a r s	A	Asia's Entrepreneurs	4後	4		○														
G		Gender in International Relations	4後	4		○			1												
I		International Relations of Japan	4後	4		○														兼1	
I		Issues in Popular Culture	4前	4		○															
N		Non-state Actors and Political Violence	4前	4		○															
P		Political Development of Asia	4後	4		○															
R		Resource Politics	4前	4		○															
T		Theories of International Relations	4前	4		○															
T		Transitional Justice	4後	4		○															
U		U.S.-East Asian Relations	4後	4		○															
T		Topics in International Relations	4前	2		○														兼1	
T		Topics in International Relations	4前	4		○														兼1	
Undergraduate Study	Undergraduate Thesis	4前・後		4					○										兼1		
	小計 (48科目)	—	0	188	0	—			3	5	4	0	0						—		

E ト ラ ッ ク ・ プ ロ グ ラ ム 科 目 (英 語 コ ー ス)	S p e c i a l P r o g r a m	Classes by Visiting Professors I	1前・後	2	○									兼1																																																	
		Classes by Visiting Professors II	1前・後	2	○									兼1																																																	
		Classes by Visiting Professors III	1前・後	2	○									兼1																																																	
		Classes by Visiting Professors IV	1前・後	2	○									兼1																																																	
		Career Experience Practicum	1後	2			○							兼1																																																	
		How to Succeed at TIU and Beyond	1前・後	2			○							兼1																																																	
		Internship	1前・後	2				○	1																																																						
		Volunteer	1前・後	1				○	1																																																						
		Study Abroad Seminar A	1前・後	4			○		1																																																						
		Study Abroad Seminar B	1前・後	2			○		1																																																						
		Advanced Argumentation & Debate	2後	2			○							兼1																																																	
		Business Project E	2前	4			○							兼1																																																	
		Topics in Japan Studies	2前・後	2		○								兼1																																																	
		Topics in Japan Studies	2前・後	4		○								兼1																																																	
小計 (14科目)			—	0	33	0	—	1	0	0	0	0	兼8	—																																																	
合計 (279科目)			—	10	751	0	—	8	6	6	0	0	兼227	必修単位数は、 上段：経済学科 下段：Eトラック																																																	
			16	学位又は称号											学士 (国際関係学)		学位又は学科の分野				法学関係							卒業要件及び履修方法								授業期間等								・国際関係学部国際関係学科：必修科目10単位、教養コア科目および言語スキル科目の英語科目以外から16単位、言語スキル科目の英語科目から6単位、専門分野科目の選択科目から42単位を履修し、124単位以上修得すること。 ・Eトラック・プログラム (英語コース)：General Education科目から必修科目16単位を含み28～36単位 (日本語科目の履修の有無により異なる。)、Major Course科目から48単位を履修し、124単位以上修得すると。 (履修登録の上限：40単位、ただし、Eトラック・プログラム (英語コース) の4年次に限り48単位 (年間))								1 学年の学期区分				2学期				1 学期の授業期間			
学位又は称号		学士 (国際関係学)		学位又は学科の分野				法学関係																																																							
卒業要件及び履修方法								授業期間等																																																							
・国際関係学部国際関係学科：必修科目10単位、教養コア科目および言語スキル科目の英語科目以外から16単位、言語スキル科目の英語科目から6単位、専門分野科目の選択科目から42単位を履修し、124単位以上修得すること。 ・Eトラック・プログラム (英語コース)：General Education科目から必修科目16単位を含み28～36単位 (日本語科目の履修の有無により異なる。)、Major Course科目から48単位を履修し、124単位以上修得すると。 (履修登録の上限：40単位、ただし、Eトラック・プログラム (英語コース) の4年次に限り48単位 (年間))								1 学年の学期区分				2学期																																																			
								1 学期の授業期間				15週																																																			
								1 時限の授業時間				90分																																																			

言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科

別記様式第2号（その2の1）

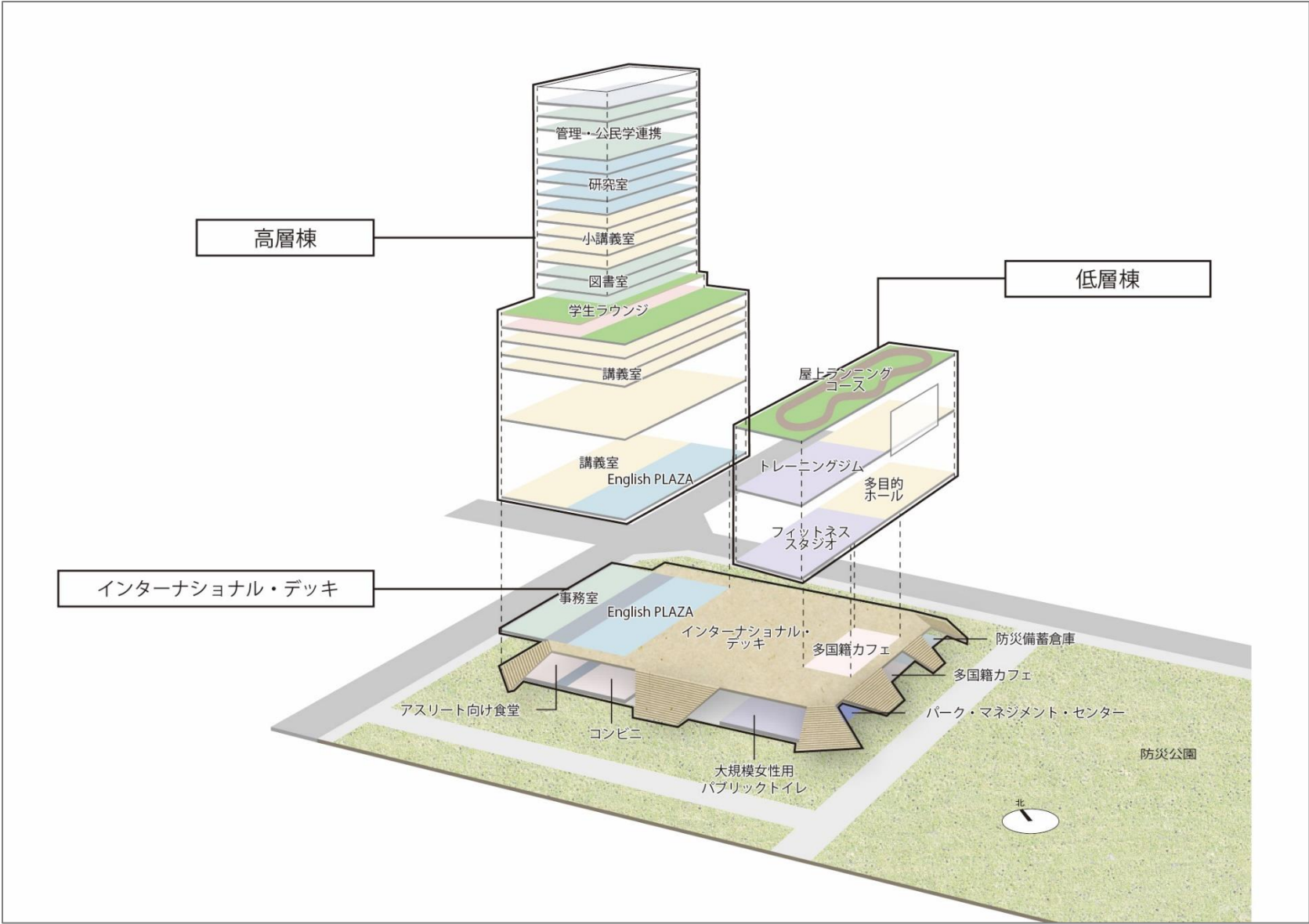
（用紙 日本工業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
（言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
T I U コ ア	大学生生活デザイン演習	1前	2				○							兼1
	初年次演習	1前・後	2+2				○		6	1	1			兼1
	ICT基礎	1前・後	2			○								
	小計（3科目）	—	8	0	0	—	—	—	6	1	1	0	0	兼1 —
教 養 コ ア 科 目	哲学	1前・後		4		○								兼2
	倫理学	1前・後		4		○								兼2
	芸術論	1前・後		4		○								兼2
	文学	1前・後		4		○								兼3
	ことば学入門	1後		4		○								兼2
	アジア・アラブ史	1前・後		4		○								兼1
	アメリカ・ヨーロッパ史	1前		4		○								兼1
	日本史	1前・後		4		○								兼2
	地理学概論	1後		4		○								兼1
	人文地理学	1後		4		○								兼1
	日本の文化	1前・後		4		○								兼1
	異文化概論	1後		4		○								兼1
	文化人類学	1前・後		4		○								兼1
	Introduction to American Society	1後		4		○					1			
	Life & Tradition in America	1後		4		○								兼1
	法学	1前・後		4		○			1					兼1
	憲法	1前・後		4		○								兼1
	政治学	1前・後		4		○			1					兼2
	経済学	1前・後		4		○								兼4
	社会学	1前・後		4		○								兼2
	現代の社会	1前・後		4		○								兼1
	心理学概論	1前・後		4		○								兼3
	自然科学概論	1前・後		4		○								兼2
	環境と自然	1前・後		4		○								兼3
	科学思想史	1後		4		○								兼1
	統計学入門	1前・後		4		○								兼4
	情報処理の基礎	1前・後		4		○								兼2
	健康・スポーツ科学	1前・後		4		○								兼3
	健康・スポーツ実技	1前・後		1				○						兼7
	小計（29科目）	—	0	113	0	—	—	—	1	0	1	0	0	兼46 —
言 語 ス キ ル 科 目	Communication Basic I	1前	2			○			2		2			兼2
	Communication Basic II	1後	2			○			2		2			兼2
	English Comprehension I	1前	2			○			2		3			兼2
	English Comprehension II	1後	2			○			2					
	Basic Speaking I	1前	1			○			2					
	Basic Speaking II	1後	1			○			2					
	Basic Writing I	1前	1			○			2					
	Basic Writing II	1後	1			○			2					兼1
	English Project Workshop	1前・後		2		○			1					
	Communication Core I	2前	2			○			2					
	Communication Core II	2後	2			○			2					
	English Production I	2前	2			○			2					
	English Production II	2後	2			○			2					
	Intermediate Speaking and Listening A	2前		2		○					2			兼1
	Intermediate Speaking and Listening B	2後		2		○					2			兼1
	Intermediate Reading and Writing A	2前		2		○					2			兼1
	Intermediate Reading and Writing B	2後		2		○					2			兼1

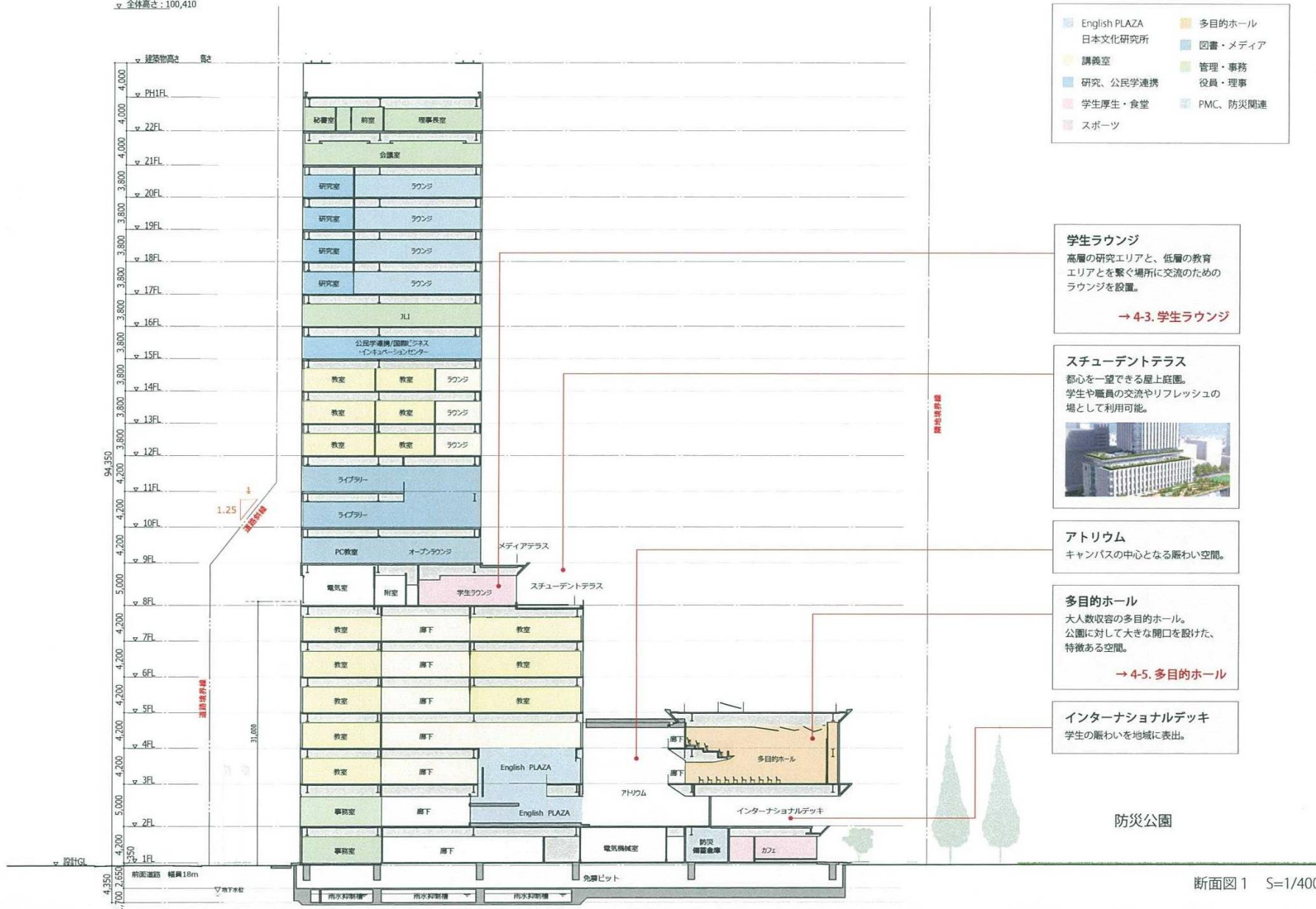
言語スキル科目	その他の外国語	ドイツ語入門	1前		2		○									兼1
		実践ドイツ語	1後		2		○									兼1
		フランス語入門	1前		2		○									兼1
		実践フランス語	1後		2		○									兼1
		スペイン語入門	1前		2		○									兼2
		実践スペイン語	1後		2		○									兼1
		中国語入門	1前		2		○			I		I				
		実践中国語	1後		2		○			I		I				
		ハングル入門	1前		2		○									兼1
		実践ハングル	1後		2		○									兼1
		ロシア語入門	1前		2		○									兼1
		アラビア語入門	1前		2		○									兼1
	留学生日本語	アカデミック日本語Ⅰ	1前		2		○									兼1
		アカデミック日本語Ⅱ	2前		2		○									兼1
		日本語ワークショップⅠ	1前		2		○									兼1
		日本語ワークショップⅡ	2前		2		○									兼1
		ビジネス日本語	3前		2		○									兼1
		小計（34科目）	—	20	44	0	—			4	6	0	0	0	兼17	—
自由選択科目	キャリア形成支援科目	インターンシップ入門	1前		2		○									兼1
		インターンシップ（体験型）	2前		1				○							
		インターンシップ（実践学修型）	2後		3				○							
		ボランティア活動	1前		1				○							
		アカデミック・ライティング	1前		2		○									
		キャリア・Re-スタート	2前		2		○									
		地域の安全と警察	2後		2		○									兼1
	プロジェクト科目	観光まちおこしワークショップ入門	1前・後		2				○							兼3
		観光まちおこしワークショップ実践A	1前・後		2				○							兼1
		観光まちおこしワークショップ実践B	1前・後		2				○							兼1
		観光まちおこしワークショップ実践C	1前・後		2				○							兼1
		観光まちおこしプロジェクトA	2前		1				○							兼1
		観光まちおこしプロジェクトB	2後		1				○							兼1
		観光まちおこしプロジェクトC	2前・後		1				○							兼1
		留学プランニング（ASPPrep）	1前・後		1		○									兼1
		海外ゼミナールA	1前・後		4			○		I						
		海外ゼミナールB	1前・後		2			○		I						
		特別授業A	2前・後		2		○									兼1
		特別授業B	2前・後		4		○									兼1
		スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	1前		2				○	I						兼12
		スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	1後		2				○	I						兼12
		基礎科目特殊講義A	1前・後		2		○			I						
		基礎科目特殊講義B	1前・後		4		○			I						
		小計（23科目）	—	0	47	0	—			3	0	1	0	0	兼19	—
専門教育分野	演習・卒業研究	基礎演習	1前・後		2			○		3	1					
		専門演習	2前・後		2			○		6	1					
		卒業研究	3後		4			○		3	1	I				
	言語学／文学エリア	言語学入門	2後		2		○			1						
		コミュニケーション学	2前・後		2		○			1						
		英語学概論	2前		4		○			1						兼1
		音声学	2前・後		2		○			1						兼1
		英文法	2前・後		2		○			1						
		英語文学 A	2前・後		2		○			1						
		英語文学 B	2後		2		○			1						
		英語児童文学	2前・後		2		○			1						
		英語文学 C	3前		2		○			1						
		Communicative Grammar	3前・後		2		○			2						兼1
		意味論	3後		2		○			1						
		社会言語学	3前		4		○			1						
		比較文学	3前		2		○									兼1
		外国語研究	3後		2		○					1				

学位又は称号	学士（言語コミュニケーション学）	学位又は学科の分野	文学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
・必修科目28単位，教養コア科目から8単位，言語スキル科目の必修科目以外から8単位，専門分野科目から32単位を履修し，124単位以上修得すること。 （履修登録の上限：40単位（年間））		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分

資料2. 池袋国際キャンパス概要図



▽ 全体高さ: 100,410





池袋国際キャンパス計画及びグローバル化プログラムの拡充について

副都心池袋に本学のグローバル教育機能を集約した都市型国際キャンパスを開設します。サンシャインシティに隣接する造幣局跡地において、独立行政法人都市再生機構が実施する豊島区造幣局地区防災公園街区整備事業に、本学の企画提案が採用されたものです。2020年10月に土地の引渡しを受け、2023年9月開校を予定しています。

新キャンパスには、イングリッシュ・トラック・プログラムをはじめ、本学のグローバル教育機能を集約し、川越キャンパスの収容定員約7,000人のうち3,500人を移転する計画です。学生数3,500人のうち2,000人は、100カ国超からの留学生で構成するほか、世界各国から教員・研究者を招聘し、国策に沿った国際ブレイン・サーキュレーション拠点を構築します。

川越キャンパスとは東武東上線・東京メトロ有楽町線一本で接続されます。川越キャンパス、坂戸キャンパスと池袋国際キャンパスを結ぶ各種プログラムの開発も進めていきます。

「池袋国際キャンパス」開校に向け、本学のグローバル化を更に加速していきます。今年度からは、イングリッシュ・トラック・プログラムに起業家養成/ITビジネス・コースも開設します。また、グローバルスポーツ・プログラムを始動、グローバルに活躍するアスリート学生を養成します。

また、イングリッシュ・トラック・プログラムへの入学者増加や新学科設置計画等を踏まえ、2021年度を目処に学部入学定員を250人増員する「学部入学定員中期拡充計画」を理事会にて決議しました。

池袋に都市型国際キャンパスを構築することにより、川越・坂戸キャンパスと一体化されたグローバル化教育の基盤を一層強固なものにします。(2018年4月13日掲載)

<計画立案の経緯>

2013年5月29日	理事会にて「都市型国際キャンパス」の構築を決議
2017年7月3日	理事会にて「都市型国際キャンパス」用地取得及び校舎建設について決議
2017年10月23日	理事会にて豊島区造幣局地区（市街地A画地）土地譲渡契約の締結を承認
2017年11月7日	独立行政法人都市再生機構との間で土地譲渡契約を締結
2018年1月12日	理事会にて池袋国際キャンパス建設に係る設計・監理契約の締結を承認
2018年4月9日	理事会にて池袋国際キャンパス収容定員構成計画及び学部入学定員中期拡充計画を決議

学生の確保の見通し等を記載した書類

(収容定員変更に係る学則変更)

東京国際大学



目次

1. 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況.....	3
1.1. 学生の確保の見通し	3
1.1.1. 定員充足の見込みおよび入学定員設定の考え方	3
1.1.2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要.....	4
1.1.2.1. 各学科の志願動向	4
1.1.2.2. 大学進学者数の推移	7
1.1.2.3. 埼玉県、東京都における志願動向	8
1.1.2.4. 海外から日本への留学動向	8
1.1.2.5. 池袋国際キャンパスの学生募集上の効果	9
1.2. 学生確保に向けた具体的な取組状況	16
1.2.1. 国内における取組	16
1.2.2. 海外における取組	17
2. 人材需要の動向等社会の要請	19
2.1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	19
2.2. 人材需要の客観的根拠.....	19
2.2.1. 東京国際大学に対する社会からの評価.....	19
2.2.2. 各学科・プログラムの就職状況	20
2.2.3. 外国人留学生採用の拡大	21

1. 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況

1.1. 学生の確保の見通し

1.1.1. 定員充足の見込みおよび入学定員設定の考え方

今回の収容定員変更では、以下のとおり入学定員・収容定員を定めた（表 1）。

表 1. 令和 3 年度 収容定員変更の概要

学部	学科	現行		変更後		差	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	435人	1,740人	475人	1,900人	40人	160人
国際関係学部	国際関係学科	245人	980人	310人	1,240人	65人	260人
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	230人	920人	250人	1,000人	20人	80人
医療健康学部※1	理学療法学科	0人	0人	80人	320人	80人	320人
学部計		910人	3,640人	1,115人	4,460人	205人	820人

※1 医療健康学部理学療法学科は設置認可申請中。

本学が経済学部経済学科及び国際関係学部国際関係学科に英語で学位取得可能なイングリッシュ・トラック・プログラム（以下 E トラック・プログラム）を開講した平成 26 年度以降、志願者数は増加が続き、平成 29 年度には経済学部経済学科及び国際関係学部国際関係学科の入学定員を増員した。その後も他学部他学科の入学定員・収容定員を割愛することで、両学科及び言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の増員を行ってきたにもかかわらず、対象 3 学科の志願者倍率は上昇傾向が続いている。特記すべきは、志願者の増加が E トラック・プログラムを志す外国人留学生の増加にとどまらず、日本人受験生の増加にも及んでいることである。「学則の変更の趣旨を記載した書類」に記した各種の教育上の施策が広く受験生に評価されている結果と考えられ、今回の収容定員変更は高まるニーズに対応するためのものである。

本学に在籍する学生（留学生を除く）の多くの出身地域である埼玉県、東京都における今後の大学進学者数の予測（資料 1）や、増加が続く海外から日本への留学生（資料 4、5）、都心キャンパスへの移転に伴う優位性の向上（資料 10、13）からも、設定した入学定員を充足していくことが可能と考える。

入学定員設定にあたっては、近年の本学に対する志願動向に加え、授業内容や方法、校地、校舎等の施設、設備その他の教育上の諸条件を勘案したうえで、教育効果が十分発揮できる範囲での定員増加になるよう留意した。

教員組織については授業内容や方法、履修指導体制等を考慮のうえ、本件収容定員変更に対応した増員を計画している（学則の変更の趣旨等を記載した書類「3.3. 教員組織の変更内容」参照）。それぞれの学科における専任教員数と大学設置基準が定める増員後の必要専任教員数の比較は以下のとおりである（表 2）。

表 2. 各学科教員数

学部	学科	現員	増員後	設置基準
経済学部	経済学科	36	41	23
国際関係学部	国際関係学科	22	25	15
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	21	21	13

1.1.2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1.1.2.1. 各学科の志願動向

平成 27 年度以降 5 年間ににおける対象各学科志願動向を整理した。令和 2 年度の入試結果に関しては、春学期入試のみの結果を示している（入学者数については、2020 年 3 月 23 日時点で入学手続きを完了している学生数を掲載）。いずれの学科も、平成 27 年度から平成 31 年度にかけて志願者数は大幅に増加している。

各学科の実績を示すとともに、定員増後の定員充足率 1.00 に必要な合格者数・合格率のシミュレーションを行った。各学科ともに、右肩上がりで志願者数が増加してきているが、シミュレーションに当っては、志願者は保守的に直近（平成 31 年度）の人数と同数であることを想定している。合格者のうちの入学者の比率を示す歩留は、平成 27 年度から平成 31 年度の過去 5 年間の平均値を使用している。シミュレーションの結果、定員増加後においても、適正な入学者選抜を行った上で定員を充足していくことが可能と考える。

以下に学科ごとの詳細を述べる。

・経済学部 経済学科

表 3. 経済学部 経済学科の志願動向

※令和2年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載（秋学期入試の入学定員170名は除外）。

<経済学部経済学科（全体）>

入学年度		平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和2	シミュレーション
①	入学定員	255	255	355	355	435	265	475
②	志願者数	778	879	987	1,439	1,639	2,301	1,639
③	合格者数	626	616	680	599	767	725	842
④	入学者数	370	332	388	347	416	259	475
⑤	志願倍率 ②/①	3.05	3.45	2.78	4.05	3.77	8.68	3.45
⑥	合格率 ③/②	80.5%	70.1%	68.9%	41.6%	46.8%	31.5%	51.3%
⑦	歩留 ④/③	59.1%	53.9%	57.1%	57.9%	54.2%	35.7%	56.4%
⑧	定員充足率	1.45	1.30	1.09	0.98	0.96	0.98	1.00

<除くEトラック・プログラム>

②	志願者数	642	608	631	795	1,048	2072
③	合格者数	493	443	429	319	417	606
④	入学者数	281	245	232	185	194	183
⑥	合格率 ③/②	76.8%	72.9%	68.0%	40.1%	39.8%	29.2%
⑦	歩留 ④/③	57.0%	55.3%	54.1%	58.0%	46.5%	30.2%

<Eトラック・プログラム>

②	志願者数	136	271	356	644	591	229
③	合格者数	133	173	251	280	350	119
④	入学者数	89	87	156	162	222	76
⑥	合格率 ③/②	97.8%	63.8%	70.5%	43.5%	59.2%	52.0%
⑦	歩留 ④/③	66.9%	50.3%	62.2%	57.9%	63.4%	63.9%

経済学科の志願者数は、平成27年度の778人に対して平成31年度では1,639人と、5年間で2.1倍となり、大幅に増加している。これは、Eトラック・プログラムによる増加だけではなく、一般の日本人受験生数の伸びも反映している。令和2年度についても、春学期入学定員の265人に対する志願倍率は8.68で、堅調である。

経済学科は入学定員を435名から475名に40名増員する。平成31年度と同数の志願者を得たと仮定すると、変更後の入学定員充足率1.00確保に必要な合格者数は842名、合格率51.3%というシミュレーション結果である（歩留が平成27～31年度の平均並みと想定）。この合格率は、直近3年間よりも高いが、平成29年度以前のいずれの年度をも下回っている。入学者選抜上、適正なレベルと考えられ、経済学科の定員充足の見込みは問題ないと判断できる。

尚、平成29年度から平成31年度の入学定員充足率がそれ以前に対比して低下しており、1.00を切る年もあるのは、定員管理を厳格化し4年間の平均入学定員超過率を1.05倍以内に抑えるコントロールを行った結果である。このことは、平成30年度、31年度の合格率が、それ以前に比べ大幅に低下していることにも表れている。令和2年度の入試においては、本申請の令和2年3月24日時

点で春学期の入学定員 265 人に対して 277 人の入学手続き完了者を確保、定員充足率は 1.05 倍であったが、その後入学辞退者が発生したことにより、入学者は 259 名で確定し、定員充足率は 0.98 倍となった。

・国際関係学部 国際関係学科

表 4. 国際関係学部 国際関係学科の志願動向

※令和2年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載（秋学期入試の入学定員110名は除外）。

< 国際関係学部国際関係学科（全体） >

入学年度	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和2	シミュレーション
① 入学定員	130	150	200	220	245	135	310
② 志願者数	530	656	752	1,118	1,316	1,247	1,316
③ 合格者数	418	461	401	392	526	435	683
④ 入学者数	186	192	189	208	214	156	310
⑤ 志願倍率 ②/①	4.08	4.37	3.76	5.08	5.37	9.24	4.25
⑥ 合格率 ③/②	78.9%	70.3%	53.3%	35.1%	40.0%	34.9%	51.9%
⑦ 歩留 ④/③	44.5%	41.6%	47.1%	53.1%	40.7%	35.9%	45.4%
⑧ 定員充足率	1.43	1.28	0.95	0.95	0.87	1.16	1.00

< 除くEトラック・プログラム >

② 志願者数	430	362	413	518	775	1,119
③ 合格者数	323	308	260	181	279	376
④ 入学者数	127	100	109	96	90	115
⑥ 合格率 ③/②	75.1%	85.1%	63.0%	34.9%	36.0%	33.6%
⑦ 歩留 ④/③	39.3%	32.5%	41.9%	53.0%	32.3%	30.6%

< Eトラック・プログラム >

② 志願者数	100	294	339	600	541	128
③ 合格者数	95	153	141	211	247	59
④ 入学者数	59	92	80	112	124	41
⑥ 合格率 ③/②	95.0%	52.0%	41.6%	35.2%	45.7%	46.1%
⑦ 歩留 ④/③	62.1%	60.1%	56.7%	53.1%	50.2%	69.5%

国際関係学科の志願者数についても、平成 27 年度の 530 人に対して平成 31 年度では 1,316 人と、5 年間で 2.5 倍となり、大幅に増加している。これは、E トラック・プログラムによる増加だけではなく、一般の日本人受験生数の伸びも反映している。令和 2 年度についても、春学期入学定員の 135 人に対する志願倍率は 9.24 と堅調である。

国際関係学科は入学定員を 245 名から 310 名に 65 名増員する。平成 31 年度と同数の志願者を得たと仮定すると、変更後の入学定員充足率 1.00 確保に必要な合格者数は 683 名、合格率 51.9%というシミュレーション結果である（歩留が平成 27～31 年度の平均並みと想定）。この合格率は、直近 3 年間よりも高いが、平成 29 年度以前のいずれの年度をも下回っている。入学者選抜上、適正なレベルと考えられ、国際関係学科の定員充足の見込みは問題ないと判断できる。

尚、平成 29 年度から平成 31 年度の入学定員充足率がそれ以前に対比して低

下しており、1.00 を切る年もあるのは、定員管理を厳格化し4年間の平均入学定員超過率を1.05 倍以内に抑えるコントロールを行った結果である。このことは、平成30年度、平成31年度の合格率が、それ以前に比べ大幅に低下していることにも表れている。令和2年度の入試においては、本申請の令和2年3月24日時点で春学期の入学定員135人に対して164人の入学手続き完了者を確保、定員充足率は1.21倍であったが、その後入学辞退者が発生したことにより、入学者は156名で確定し、定員充足率は1.16倍となった。

・言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科

表5. 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科の志願動向

<言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科>

入学年度		平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和2	シミュレーション
①	入学定員	160	190	250	250	230	230	250
②	志願者数	631	676	588	703	1,164	1,421	1,164
③	合格者数	327	460	505	484	462	607	473
④	入学者数	179	230	282	264	227	221	250
⑤	志願倍率 ②/①	3.94	3.56	2.35	2.81	5.06	6.18	4.66
⑥	合格率 ③/②	51.8%	68.0%	85.9%	68.8%	39.7%	42.7%	40.6%
⑦	歩留 ④/③	54.7%	50.0%	55.8%	54.5%	49.1%	36.4%	52.9%
⑧	定員充足率	1.12	1.21	1.13	1.06	0.99	0.96	1.00

英語コミュニケーション学科の志願者数は、平成29年度の588人から増加が続き、令和2年度では1,421人と、2.4倍に大きく増加している。「学則の変更の趣旨等を記載した書類」に記した各種教育上の施策が受験生に評価されているものと考えることが出来る。令和2年度の入試においては、本申請の令和2年3月24日時点で春学期の入学定員230人に対して234人の入学手続き完了者を確保、定員充足率は1.02倍であったが、その後入学辞退者が発生したことにより、入学者は221名で確定し、定員充足率は0.96倍となった。

英語コミュニケーション学科は入学定員を230名から250名に20名増員する。変更後の入学定員充足率1.00確保に必要な合格者数は473名、合格率40.6%というシミュレーション結果である(歩留が平成27～31年度の平均並みと想定)。この合格率は、直近2年間よりも高いが、平成30年度以前のいずれの年度をも下回っている。入学者選抜上、適正なレベルと考えられ、英語コミュニケーション学科の定員充足の見込みは問題ないと判断できる。

1.1.2.2. 大学進学者数の推移

今後の中長期的な学生確保見通しを考察するため、まずは大学進学者全体のボリュームの変化を国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口

(平成 30 (2018) 年推計)」及び文部科学省「大学への進学者数の将来推計について」のデータをもとに推計した。

本学に在籍する学生（留学生を除く）の出身地域（保護者住所）は埼玉県が 50.3%、東京都が 20.4%で、この 2 都県出身の学生で 7 割強を占める。

当該 2 都県における大学進学者数推移を、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 (2018) 年推計）」及び文部科学省「大学への進学者数の将来推計について」のデータをもとに推計した。埼玉県の大学進学適齢人口は、2030 年までに 14.5%の減少が見込まれるが、進学率の上昇により大学進学者数は微減にとどまる見込みである。東京都の進学率は既に極めて高く、これ以上の上昇は予想されていないが、大学進学適齢人口及び大学進学者数は微減にとどまると推測される。結果、2030 年時点における大学進学者数は、2015 年対比埼玉県では 96.9%、東京都では 98.7%と極端な落ち込みはないと予測でき、定員を充たしていくことが可能な環境だと考えられる（資料 1）。

1.1.2.3. 埼玉県、東京都における志願動向

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」に公表されている「地域別の動向（大学・学校別）」において、本学の主たる通学圏である埼玉県及び東京都における平成 26 年度以降 6 年間の志願倍率、入学定員充足率を確認した（資料 2）。埼玉県、東京都ともに入学定員の拡大を上回るペースで志願者数が増加、志願倍率は上昇傾向にあり、平成 31 年度の志願倍率は埼玉県が 6.1 倍、東京都が 11.1 倍となっている。入学定員充足率も安定的に 1.00 を超えており、定員を充たしていくことが可能な環境と考えられる。

1.1.2.4. 海外から日本への留学動向

1,300 人を超える外国人学生が学ぶ本学において、海外から日本への留学動向は今後の学生確保において重要な要素であるため、その状況を確認した。OECD「Education at a Glance 2019」によると、世界の高等教育機関の留学生数は 2000 年（平成 12 年）の 2.1 百万人から 2017 年（平成 29 年）には 5.3 百万人へと拡大が続いている（資料 3 図 1）。このうち日本の高等教育機関の留学生受け入れは全世界の 3%にあたり、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ロシア、ドイツ、フランス、カナダに次いで世界で 8 番目に多くの留学生を受け入れている（資料 3 図 2）。

世界の全留学生の半数以上にあたる 56%がアジア地域からの留学生であり（資料 3 図 3）、同地域の順調な経済成長を背景にこの傾向は今後も続くものと予測されている。アジアに位置する日本は地理的にも留学生受け入れに優位性を持つ。東南アジアを中心に、教育の一部または全部を英語で実施する高校も増加傾

向にあり、英語による教育で学位取得可能な E トラック・プログラムによる受け入れ体制を整備してきた本学は、今後さらに同地域からの留学生に訴求できる機会が拡大するものと考えている。

直近の日本における留学生受け入れ状況を日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」により確認を行った。平成 30 年度版によれば、高等教育機関の在籍留学生数は平成 23 年の 13.8 万人から平成 30 年には 20.9 万人に増加している（資料 4）。特に平成 28 年以降の 3 年間は年率 10%以上の大幅な伸びを示している。

平成 26 年～30 年の 5 年間における出身国別留学生増加人数の上位は、①ベトナム 45,915 人、②中国 20,551 人、③ネパール 13,883 人、④スリランカ 6,917 人、⑤ミャンマー 3,993 人、⑥台湾 3,293 人、⑦インドネシア 3,089 人、⑧バングラデシュ 2,692 人、⑨ウズベキスタン 1,774 人、⑩フィリピン 1,636 人の順となっており（資料 5）、東南アジア、南アジア地域に広く学生募集地域が拡大・多様化していることが確認できる。後述するとおり、本学は東南アジアや南アジアにおいてネットワーク作りを進めており、海外オフィスの設置等によって拡大する学生募集地域に的確に対応している。

1.1.2.5. 池袋国際キャンパスの学生募集上の効果

本学は、令和 5 年 9 月に東京都豊島区東池袋に「池袋国際キャンパス」を開校する。このキャンパスには、経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科を移転させる計画である。完成年度以前に対象学科の移転を計画しているため、新キャンパスの学生募集上の効果について検証する。

池袋国際キャンパスは、世界各国から優秀な研究者・学生を多数招聘し、「国際ブレーン・サーキュレーション機能構築」という国策の一翼を本学が担うことを企図するものである。都心立地により、学術面での交流機会に加え、産業界等との交流機会についても拡大が期待でき、世界各国からの研究者招聘、実務家教員の確保、産学連携等に関し優位性が高まる。これらを通じ、日本人学生、留学生双方にとり魅力的な教育プログラムの構築が可能になっていくと考えている。

入学者の意思決定構造

本学では、入学者に対しさまざまな項目に関するアンケートを実施しており、本学に入学を決めた理由についても問うている。まず、日本人中心の E トラック・プログラム以外の新入生に関してみると、表 6 に示すとおり、経済学部、国際関係学部、言語コミュニケーション学部いずれも、入学理由として第 1 位に挙がるものは「国際交流が盛んである」、第 2 位は「自分の学びたい学問分野が

学べる」となっている。池袋国際キャンパスにおいて、グローバル教育の充実を図るという本学戦略の方向性は、学生のニーズに合致している（資料 6）。また、経済学部では「自宅から通える（通学の利便性）」も上位に挙がる。

表 6. 東京国際大学の入学理由（Eトラック・プログラム生を除く）

順位	経済学部		国際関係学部		言語コミュニケーション学部	
	n=192		n=147		n=226	
1位	国際交流が盛んである	3.86	国際交流が盛んである	4.54	国際交流が盛んである	4.73
2位	自分が学びたい学問分野が学べる	3.76	自分が学びたい学問分野が学べる	4.49	自分が学びたい学問分野が学べる	4.64
3位	自宅から通える	3.71	将来やりたいことのために必要な能力が身につく	4.36	将来やりたいことのために必要な能力が身につく	4.50
4位	施設・設備が充実している	3.57	留学支援が充実している	4.15	留学支援が充実している	4.41
5位	将来やりたいことのために必要な能力が身につく	3.49	カリキュラムや学び方に魅力・特色がある	4.12	カリキュラムや学び方に魅力・特色がある	4.38

※各項目に対し、入学理由として「とてもあてはまる／まああてはまる／どちらともいえない／

あまりあてはまらない／まったくあてはまらない」と聴取。

「とてもあてはまる」=5点～「まったくあてはまらない」=1点として換算し、加重平均値を算出している。

「自宅から通える」という理由に関して、具体的な所要時間の感覚を把握するため、2019 年度入学者のうち実家からの通学者の通学時間を確認した。表 7 のとおり、「自宅から通える」ことを重視する学生が多い経済学科では、所要時間 90 分以内の学生の比率を合計すると 91.5%を占め、90 分が通学許容範囲の一応の目処と考えられる。国際関係学科、英語コミュニケーション学科では 90～120 分圏からも相当数の学生が通学してきており、上記アンケート結果と符合している（資料 7）。

表 7. 実家からの通学者の通学時間の分布

自宅最寄駅から東武東上線霞ヶ関駅までの所要時間

		計	30分以内	～60分	～90分	～120分	120分超
経済学科	人	164	27	77	46	7	7
	%	100.0%	16.5%	47.0%	28.0%	4.3%	4.3%
国際関係学科	人	64	10	25	19	9	1
	%	100.0%	15.6%	39.1%	29.7%	14.1%	1.6%
英語コミュニケーション学科	人	150	21	60	45	18	6
	%	100.0%	14.0%	40.0%	30.0%	12.0%	4.0%

つぎに外国人留学生中心の E トラック・プログラムに関して表 8 でみると、入学する上での最も大きな理由は「英語での教育」が過去 3 年連続で第 1 位に挙がり、「学費減免・奨学金」及び「専攻内容」が続く（資料 8）。本邦における英語による学部専門教育機会は依然限定的であり、池袋国際キャンパスにおいて、外国人教員組織の強化を含めたグローバル教育の充実を図るという本学戦略の方向性は、海外からの留学生ニーズにも合致している。なお、学費減免・奨学金に関しては、E トラック・プログラムのスタート当初から充実させており、国内外の競合校に劣後しない水準を維持していく方針である。

表 8. 東京国際大学の入学理由（E トラック・プログラム生）

東京国際大学に入学する上での最も大きな理由

順位	2017年秋		2018年秋		2019年秋	
	n=111	%	n=129	%	n=117	%
1位	Program taught in English	33.3	Program taught in English	32.6	Program taught in English	35.9
2位	Tuition Reduction/Scholarships	33.3	Tuition Reduction/Scholarships	27.9	Major Courses	20.5
3位	Major Courses	17.1	Major Courses	20.9	Overall atmosphere	18.8
4位	Location (Close to Tokyo)	10.8	Location (Close to Tokyo)	6.2	Tuition Reduction/Scholarships	17.9
5位	Overall atmosphere	2.7	Overall atmosphere	5.4	Location (Close to Tokyo)	2.6

新キャンパスに対する高校生からの評価

池袋国際キャンパスの特色が実際に受験生から魅力的なものとして評価されるかを検証するため、高校生を対象にしたアンケート調査を行った（資料 9）。本学へ資料請求等を行い、進学検討者として本学データベースに登録されている高校生を対象に調査を実施した結果、現在の川越キャンパスよりも池袋キャンパスが強く選好され、新キャンパスが学生確保の上で大きな優位性になることが確認できた。以下にその結果を詳述する。

・調査対象

2019 年度の高校 1 年生、2 年生

※本学へ資料請求等を行い、氏名・高校名・電話番号・メールアドレス等が本学データベースに登録されている高校生。

※池袋キャンパス開校年度に入学する学生は、現時点では中学生であるため、大学受験等についてアンケートに回答することは困難だと考えられる。代わり

に、2019年度の高校1年生、2年生にも在学中に池袋キャンパスへ移動する可能性があるため、この学年の生徒を対象にアンケートを実施した。

- ・調査実施期間

2020年2月～2020年3月

- ・調査方法

WEB調査

- ・回収結果

本学データベースに登録されている高校生にEメール経由でアンケートへの協力を依頼した結果、251人からの有効回答票が得られた。

- ・調査結果（資料10）

池袋キャンパスの特長、アクセス、一部学科のキャンパス移転計画を説明した上で評価を聞いたところ、「Q1 交通の便」について、「よいと思う」と答えた高校生は97.2%（244人）、「Q2 魅力」について、「魅力的だと思う」と答えた高校生は97.6%（245人）で高い評価を受けている。

「Q3 通いたいキャンパス」では、「池袋キャンパスに通いたい」と答えた高校生は85.7%（215人）、「川越キャンパスに通いたい」と答えた高校生は14.3%（36人）で、池袋キャンパスが強く選好されている（表9）。この結果は、池袋キャンパスで学ぶことになる学部学科の志望者に限定しても同様である。「Q7 最も進学したいと思う学部学科」で「経済学部経済学科」、「言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科」、「国際関係学部国際関係学科」のいずれかを選択した高校生93人のうち、「池袋キャンパスに通いたい」と答えた高校生は92.5%（86人）で池袋キャンパスが高く評価されている（表9）。

表 9. 通いたいキャンパス

上段：人数 下段：比率		Q3 通いたいキャンパス	
		池袋キャンパス に通いたい	川越キャンパス に通いたい
全体		251	36
		100.0	14.3
Q7 最も進学し たい学部学科	移転対象学科の 志望者計	93	7
		100.0	7.5
Q8 居住地	埼玉県	83	22
		100.0	26.5
	関東圏（埼玉県除く）	100	8
		100.0	8.0
	その他	68	6
		100.0	8.8

また、池袋キャンパスへの評価は高校生の居住エリアに関わらず高い。「Q8 居住都道府県」別に見ると、埼玉を除いた関東圏およびその他地方居住者だけではなく、埼玉県についても 73.5%（61 人）の高校生が「池袋キャンパスに通いたい」と答えている（表 9）。池袋キャンパスが東京等の埼玉以外のエリアだけではなく、現在の主要な学生募集地域であり、川越キャンパスが所在する埼玉県でも魅力的なキャンパスとして捉えられることが確認できた。

「Q4 新キャンパス設置による志望度への影響」の結果では、池袋キャンパスの設置によって、東京国際大学を「志望する気持ちが高まる」と答えた高校生は 64.9%（163 人）、「変わらない」と答えた高校生は 34.7%（87 人）だった。一方、「志望する気持ちが下がる」と答えた高校生は 0.4%（1 人）であり、池袋への移転が学生の志望度に対して負の影響を及ぼすことは殆ど無く、新キャンパス設置は本学が学生確保を行う上での優位性向上に繋がること明らかにになった（表 10）。

表 10. キャンパス設置による志望度の変化

Q4	池袋キャンパスの新設によって、東京国際大学を志望する気持ちは変わりますか？ 単一回答		
		人数	比率
1	志望する気持ちが高まる	163	64.9
2	変わらない	87	34.7
3	志望する気持ちが下がる	1	0.4
	全体	251	100.0

より詳細に見るため、各回答者の自宅最寄り駅から現在の川越キャンパス、および池袋キャンパスへの所要時間を算出し、池袋キャンパスへ通学する方が所要時間の長い（移転によってキャンパスが遠くなる）高校生に限定して、「Q4 新キャンパス設置による志望度への影響」の結果を見た（表 11）。移転によってキャンパスが遠くなる 33 人のうち、池袋キャンパスの設置によって「志望する気

持ちが高まる」と答えた高校生は 33.3% (11 人)、「変わらない」と答えた高校生は 63.6% (21 人)、「志望する気持ちが下がる」と答えた高校生は 3.0% (1 人) だった。キャンパス移転によって通学の利便性が損なわれる地域に住む高校生についても、志望度に対する負の影響は僅かと言え、池袋キャンパスの設置はどの地域における学生募集にも資するということが確認できた。

表 11. キャンパス設置による志望度の変化（通学時間延長者のみ）

上段：人数 下段：比率		Q4 志望度の変化		
		志望する気持ちが高まる	変わらない	志望する気持ちが下がる
キャンパス移転によって、 通学時間が延長する高校生	33	11	21	1
	100.0	33.3	63.6	3.0

立地変更の通学アクセスへの影響

キャンパス移転による通学アクセスの変化およびキャンパス周辺の実際の受験生人口の変化を、本学入学生データと学校基本調査を基に見ていく。

本学川越キャンパスの最寄り駅である霞ヶ関駅と池袋駅は東武東上線で 37 分の位置関係にある。池袋駅は、JR、東武鉄道、西武鉄道、地下鉄が乗り入れるターミナル駅であり、特に本学学生が多い埼玉県内各方面からのアクセスが良い。現在実家から通学する学生の多くにとって、池袋へのキャンパス移転は通学時間の短縮につながる。

まず、在学生に占める実家からの通学者の割合を確認した。表 12 で示すとおり、平成 31 年度入学者のうち経済学科 39.3%、国際関係学科 29.8%、英語コミュニケーション学科 65.8%が実家から通学している。経済学科と国際関係学科については、留学生が主体の E トラック在籍者が過半を占めており、入学者に占める実家からの通学者は他学部対比低くなっている（資料 11）。

つぎに、実家からの通学者にとって、池袋移転により通学時間が短縮・延長いずれにつながるかを確認した。経済学科では、実家からの通学者 164 人中 125 人にとって時間短縮あるいは不変、残りの 39 人のみ通学時間が延長する。国際関係学科では、実家からの通学者 64 人中 53 人にとって時間短縮あるいは不変、残りの 11 人のみ通学時間が延長する。英語コミュニケーション学科では、実家からの通学者 150 人中 117 人にとって時間短縮あるいは不変、残りの 33 人のみ通学時間が延長する（資料 11）（表 12）。さらに、池袋移転により通学時間が延びる学生のうち、通学時間が 90 分超となり通学上の支障が懸念される学生数は、経済学科 5 人（入学者中 1.2%）、国際関係学科 0 人（0.0%）、英語コミュニケーション学科 8 人（3.5%）と僅かである（資料 11）（表 12）。即ち、本学が現在学生を確保しているエリアにおいて、池袋へのキャンパス移転が通学アクセスを

理由にマイナスに働く対象はごく限定的であると考えられる。

表 12. キャンパス移転による通学時間の変化

入学者に占める実家通学者割合、池袋キャンパス移転による影響

		2019年度 入学者	実家 通学者	うち移転に よる通学時間 延長者	うち池袋への 通学時間 90分超
経済学科	人	417	164	39	5
	%	100.0%	39.3%	9.4%	1.2%
国際関係学科	人	215	64	11	0
	%	100.0%	29.8%	5.1%	0.0%
英語コミュニケーション学科	人	228	150	33	8
	%	100.0%	65.8%	14.5%	3.5%

他方で、池袋へのキャンパス移転は実家からの通学可能圏（90 分以内圏）が大幅に拡大することにより、本学の関東圏における学生確保の競争力を高めると考えられる。立地変更による「新規の学生募集エリア」創出の効果を見るため、移転に伴う学生確保数変化のシミュレーションを行った。

関東圏の駅のうち、霞ヶ関駅または池袋駅へ 90 分以内に到着できる駅を所要時間によって分類し、地図上に図示した（資料 12 図 1、図 2）。一見して明らかのように、池袋キャンパスへの移転によって学生募集のエリアはこれまでよりも大きく広がる。

これらの駅について、各駅の住所と学校基本調査（平成 31 年度）で明らかにされている市町村別高校三年生数を組み合わせ、霞ヶ関駅及び池袋駅から通学圏の高校三年生人数の規模を算出した（資料 13）。移転によって、通学圏の高校三年生人数は大きく増える。特にキャンパス最寄り駅までの所要時間が 30 分以内の生徒数は、13,549 人から 70,069 人へと 5 倍以上に増加する。

次いで、2019 年度の各学科の入学者数（実家から 90 分以内で通学している学生に限定）と霞ヶ関駅近辺の高校三年生人数から現在の学生確保率を算出した。さらに、その比率を池袋駅近辺の高校三年生人数と掛け合わせ、移転後の学生確保数の推計を行った（資料 13）。実家から 90 分以内で通学している学生層に関しては、経済学科は現有 140 人⇒移転後 354 人、国際関係学科は現有 46 人⇒移転後 106 人、英語コミュニケーション学科は現有 132 人⇒移転後 309 人と、いずれの学科についても、大幅な学生募集能力の拡充を示す結果となった。

以上の「新規の学生募集エリア」創出の効果分析に関しては、既存エリアの競合条件がそのまま適用可能とは限らないという点、割り引いて評価する必要がある。

ある。とはいえ、池袋移転による通学アクセスの改善効果は広域にわたることは明白であり、移転による通学アクセス面の影響はプラス要因がマイナス要因を凌駕する可能性が大きいと考える。

また、現在、本学のキャンパスは埼玉県に位置しているが、学生募集において競合している大学は埼玉県内の大学だけではない。2019 年度に新入生を対象に行った調査において、入学者が本学と併願していた大学を聞いたところ、東京都をはじめとした県外の大学も多く志願されていた（資料 14 図 1）。千葉県や神奈川県等、池袋キャンパスへの移転によって新たに通学圏内（90 分圏内）となるエリアの大学とも併願は行われている（資料 14 図 2）。なお、本学が県外大学と併せて志願されている状況は、高校生向け模擬試験を実施している大手企業から入手した受験生全体の志望状況でも同じ様相を示している。

このように、現在の川越キャンパスにおける学生募集活動についても、既に東京都をはじめとした県外大学との競合は発生し、その競合状況を前提にして学生確保に向けた取組を行っている。池袋という新たなエリアにおいても、引き続き県外大学との競合が発生することは間違いのないため、次項で詳述する学生確保に向けた取組を確実に遂行し、キャンパス移転によるプラスの効果を確かなものにする。

1.2. 学生確保に向けた具体的な取組状況

1.2.1. 国内における取組

・オープンキャンパス

受験生向けに大学の学びを理解してもらう機会としてオープンキャンパスを開催している。本学の特色、人材育成の狙いの紹介、模擬授業、在学生のプレゼンテーション、キャンパス案内等を実施し、平成 30 年度については 6 回 4,514 名の来場者があった。

・高校等訪問

本学が重点対象とする高校に対し職員を派遣、進路指導部長及び部員に本学の教育システム、方針について説明を実施し、生徒が本学への興味、関心を持ってもらえるように周知を依頼している。平成 30 年度については延べ 1,611 校を訪問した。

・高校個別模擬授業

本学が重点対象とする高校に対しては、教員を派遣して出張講義を行い、高校生が具体的な学びのイメージを掴む手助けをしている。平成 30 年度は 58 校で実施した。

- ・キャンパス見学会

本学に来訪する高校側のニーズに応じて、見学、キャンパスツアー、説明会などを組み合わせて実施している。必要に応じて当該高校出身の在学生在が、本学での学び、生活について説明する機会も設けている。平成 30 年度 13 校の見学を受け入れた。

- ・高校教員対象大学説明会

高校の進路指導教員向けに「高校教員対象大学説明会」を開催し、教育内容や入試制度の前年からの変更点などを伝え、進路指導の参考にしてもらっている。平成 30 年度は 27 校の参加があった。

- ・進学相談会

学外で開催される各種進学ガイダンス・説明会へ積極的に参加している。本学への入学者が多くない首都圏以外のエリアのガイダンス・説明会にも参加している。平成 30 年度は 30 会場のガイダンス・説明会に参加した。

高校内で開催されるガイダンス・説明会についても重点校については積極的に参加している。平成 30 年度は 147 校のガイダンス・説明会に参加した。

1.2.2. 海外における取組

- ・海外オフィスの設置

ベトナム（ハノイ）、インドネシア（ジャカルタ）、タイ（バンコク）に本学の海外オフィスを設置し、E トラック・プログラムを中心とした本学教育プログラムの広報活動、当該国における下記諸活動の拠点としている。現地の高校とのネットワーク構築、留学希望者への情報提供を担っている。

- ・留学フェア参加

E トラック・プログラム開講の前年度（平成 25 年度）以降、20 カ国において延 100 回以上の留学フェアに参加し広報活動を行っている。日本学生支援機構が海外で開催する日本留学フェアをはじめ、現地エージェント主催の留学フェア等に本学担当者や現地オフィス担当者が参加し、留学希望者に E トラック・プログラムの紹介や、出願手続の案内等を行っている。

- ・高校訪問

E トラック・プログラム開講の前年度（平成 25 年度）以降、14 カ国において延 1,100 回以上の高校訪問を実施している。学校長や進路指導カウンセラーに対し本学担当者や現地オフィス担当者から E トラック・プログラムの紹介を行

っている。

- ・高校主催フェア参加

Eトラック・プログラム開講の前年度（平成 25 年度）以降、5 カ国において延 260 回以上の高校主催の留学フェアに参加している。ブース出展し、大学紹介のプレゼンテーションや生徒との個別面談を行っている。

- ・単独説明会

Eトラック・プログラム開講年度（平成 26 年度）以降、9 カ国において延 140 回以上の単独説明会を開催している。本学現地オフィスや現地エージェント・オフィス、ホテル会場に留学希望者を集め説明会を実施するケースや、特定の高校において生徒向けの説明会を実施するケース等がある。本学教員による模擬授業等も組み込む場合もある。

- ・教員ツアー

Eトラック・プログラム開講年度（平成 26 年度）以降、5 カ国を対象に延 160 校以上から学校長や進路指導カウンセラーを招いてツアーを開催している。授業参観を含むキャンパス見学や、Eトラック・プログラム担当教員・対象国出身学生との懇談等を行っている。

- ・生徒ツアー・キャンパス見学

平成 27 年度以降、3 カ国を対象に延 15 回以上の生徒ツアー・キャンパス見学を受け入れている。特定の高校からキャンパス見学を受け入れる場合のほか、複数の高校から生徒及び保護者の参加を募るツアーを開催する場合もある。模擬授業や Eトラック・プログラム担当教員・対象国出身学生との懇談等を行っている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

2.1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

各学科の人材養成・教育研究上の目的は以下のとおりである。

・経済学部 経済学科

経済学部は、国際社会に生きる経済人として、世界を舞台にした経済活動に様々な分野からアプローチできる確かな理論と実践力を備えた人材を養成する。経済学科は、経済学を基軸とした知識をもとに、経済社会のさまざまな現場において、論理的に考え、問題解決を図る実践力を備えた人材を養成する。

・国際関係学部 国際関係学科

国際関係学部は、多様な国際社会の本質を理解し、理論と実践を統合し、世界で活躍する人材を養成する。国際関係学科は、国際問題を多面的思考で捉え、地球市民として現実に立ち向かう知恵と行動力を備えた人材を養成する。

・言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科

言語コミュニケーション学部は、国際コミュニケーションの知識と技術を磨き、国際社会で活躍できる応用力と専門性を備えた人材を養成する。英語コミュニケーション学科は、英語力を基軸に、国際コミュニケーションの知識と実践を統合的に探求し、国際社会に貢献できる人材を養成する。

2.2. 人材需要の客観的根拠

2.2.1. 東京国際大学に対する社会からの評価

東京国際大学は、「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の精神に掲げ、建学時からの教育目標である「Vision, Courage, Intelligence を身に付けた人材づくり」を具現化するために、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を柱とした教育事業展開を強力に推進している。

これらの取組が評価され、タイムズ・ハイヤー・エデュケーション「THE 世界大学ランキング 日本版」における「国際性」分野で 2017（平成 29）年度第 3 位、2018（平成 30）年度第 9 位、2019（平成 31）年度第 5 位と高い評価を得ている（資料 15）。

また、日経 HR「価値ある大学 2019 年版 就職力ランキング」でも、『企業人事から見た大学の取り組み』において「授業の質の改善に熱心に取り組んでいる」第 1 位、「学業指導に熱心に取り組んでいる」第 3 位、「グローバル化に向けて熱心に取り組んでいる」第 7 位、「就職支援に熱心に取り組んでいる」第 6 位、「地域の産業・文化に貢献している」第 2 位という評価を受けている。また、本学の

卒業生について、『企業人事から見たイメージ』では「行動力」第3位、「独創性」第14位に位置している。このように、本学における様々な取組や育成している人材については、社会から高い評価を得ている。

取組の例を挙げると、本学ではキャリア教育の一環として、日本人学生を対象に「大学生活デザイン演習」を初年次の必修科目として設定している。初年次教育は多くの大学が導入しているものではあるが、本学の特徴はキャリア教育に主眼を置き、実施している点である。例えば、グループワークやプレゼンテーション等、実践的なアクティブラーニング形式の学びを通じて、集団の中での主体性やコミュニケーション能力等のいわゆる社会人基礎力を修得することが目的の一つである。また、本科目の中では、社会人へ学生が実際にインタビューする機会を設けており、自分自身のキャリアを考え、それに向けた4年間の大学生活をデザインする契機としている。

以上のように、本学では卒業生が社会に出た際、しっかりとその中で活躍し、自分自身のキャリアを築いていく力を持てるよう、人材の養成を行っている。人材養成に関する様々な取組が、前述した社会からの高い評価に繋がっていると考える。

2.2.2. 各学科・プログラムの就職状況

本学の進路・就職状況については、日本人学生だけでなくEトラック・プログラムに在籍する外国人留学生に関しても高い実績を上げており、各学部の教育研究上の目的において示す「養成する人材像」が、それぞれの学問分野の専門性を基礎としつつも、共通して現代社会が求める能力を有する人材の養成に資するものであることを示している。以下に各学科・プログラムの実績を示す。

・経済学部 経済学科

経済学部経済学科の就職率は、平成29年卒99.2%（就職者数129人／就職希望者数130人）、平成30年卒99.2%（就職者数128人／就職希望者数129人）、平成31年卒99.0%（就職者数208人／就職希望者数210人）と、高い水準で推移している（資料16表1）。

平成26年卒から平成30年卒までの経済学部の就職先業種としては、①小売23.2%、②サービス17.7%。③商社13.8%、④金融・保険・不動産13.7%等であった（資料16図1）。

・国際関係学部 国際関係学科

国際関係学部国際関係学科の就職率は、平成29年卒100.0%（就職者数69人／就職希望者数69人）、平成30年卒99.0%（就職者数103人／就職希望者数104

人)、平成 31 年卒 96.6% (就職者数 112 人／就職希望者数 116 人) と、高い水準で推移している (資料 16 表 1)。

平成 26 年卒から平成 30 年卒までの国際関係学部の就職先業種としては、①サービス 26.5%、②小売 20.6%。③商社 13.8%、④製造業 7.4%等であった (資料 16 図 2)。

・言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科

言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の就職率は、平成 29 年卒 100.0% (就職者数 130 人／就職希望者数 130 人)、平成 30 年卒 99.1% (就職者数 115 人／就職希望者数 116 人)、平成 31 年卒 100.0% (就職者数 125 人／就職希望者数 125 人) と、高い水準で推移している (資料 16 表 1)。

平成 26 年卒から平成 30 年卒までの言語コミュニケーション学部の就職先業種としては、①サービス 27.6%、②小売 19.1%。③商社 12.8%、④マスコミ・情報通信 6.7%、④金融・保険・不動産 6.7%等であった (資料 16 図 3)。

・E トラック・プログラム

平成 26 年度開講の E トラック・プログラムは、平成 30 年度にはじめて本格的に卒業生を送り出した。上記経済学部経済学科及び国際関係学部国際関係学科の内数であるが、平成 31 年度の E トラック・プログラム生の就職率は 93.5% (就職者数 43 人／就職希望者数 46 人) であった。このうち日本国内での就職は 27 人、海外での就職者は 16 人であった (資料 16 表 2)。

E トラック・プログラムの在籍学生には進学希望者も多く、大学院等への進学者は 14.0% (進学者数 8 人／卒業者数 57 人) であった。進学先は日本国内の大学院 2 人 (上智大学大学院、東京国際大学大学院)、海外の大学院 4 人 (Radboud University、University of Bristol、Lund University、Sapienza University of Rome)、その他 2 人である (資料 16 表 2)。

2.2.3. 外国人留学生採用の拡大

我が国では近年、様々な政策会議の中で外国人材活用の拡大が議論されており、「日本再興戦略改定 2016」では外国人留学生の日本国内での就職率を 3 割から 5 割へ高めることが目標として閣議決定された。

2019 年秋に本学の E トラック・プログラム新入生を対象に行った調査では、調査回答者 117 人の内、80 人 (68.4%) の学生が卒業後に日本で働く考えをもつことが明らかになっている (資料 17 図 1)。また、外国人留学生の就職の際には日本語能力がハードルのひとつとなるが、同調査で日本語の修得意欲を聞いたところ、51 人 (43.6%) の学生が JLPT : N1 レベル (日本語能力試験で最も難し

いレベル)、33 人 (28.2%) が更に難度の高いビジネスレベルの修得意欲をもつと答えている (資料 17 図 2)。このように、本学の E トラック・プログラムに入学してくる学生は日本での就労意欲、日本語の修得意欲の高い学生が多く、現在、日本社会で求められている人材を本学は輩出していくことができると考える。

添付資料

(学生の確保の見通し等を記載した書類)

東京国際大学



目次

資料 1.	大学進学者数の推移予測	3
資料 2.	埼玉県、東京都の志願動向	4
資料 3.	海外留学生の動向	5
資料 4.	海外から日本への留学動向	8
資料 5.	出身国別留学生人数の変化	9
資料 6.	東京国際大学の入学理由（E トラック・プログラム生を除く）	10
資料 7.	実家からの通学者の通学時間分布	11
資料 8.	東京国際大学の入学理由（E トラック・プログラム生）	12
資料 9.	新キャンパスに関するアンケート調査票	13
資料 10.	新キャンパスに関するアンケート調査結果	16
資料 11.	キャンパス移転による通学時間の変化	18
資料 12.	各キャンパスへの駅別所要時間	19
資料 13.	キャンパス移転後の学生確保の推計	21
資料 14.	競合大学の状況	22
資料 15.	THE 世界大学ランキング日本版（2019 年度）	24
資料 16.	学部学科の就職実績	25
資料 17.	E トラック・プログラム生の意識	27

資料1. 大学進学者数の推移予測

< 15～19歳推計人口 >

	2015年	2020年	2025年	2030年
埼玉県	354,632	335,397	322,194	303,238
	100.0	94.6	90.9	85.5
東京都	572,290	552,167	557,895	564,674
	100.0	96.5	97.5	98.7

国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

< 大学進学率 >

	2015年	2020年	2025年	2030年
埼玉県	51.1%	53.6%	55.6%	57.9%
	100.0	104.9	108.8	113.3
東京都	72.8%	72.8%	72.8%	72.8%
	100.0	100.0	100.0	100.0

文部科学省「大学への進学者数の将来推計について」

< 指数：（15～19歳推計人口）×（大学進学率） >

	2015年	2020年	2025年	2030年
埼玉県	100.0	99.2	98.9	96.9
東京都	100.0	96.5	97.5	98.7

資料2. 埼玉県、東京都の志願動向

< 地域別の動向（大学・学校別）>

	年度	入学定員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	合格率	歩留	充足率
		①	②	③	④	②/①	③/②	④/③	④/①
埼玉	26	16,447	72,871	33,520	17,093	4.4	46.0%	51.0%	1.04
	27	16,738	72,406	34,608	17,508	4.3	47.8%	50.6%	1.05
	28	16,754	77,684	36,163	17,090	4.6	46.6%	47.3%	1.02
	29	16,875	80,739	36,296	17,434	4.8	45.0%	48.0%	1.03
	30	17,046	88,025	36,781	17,941	5.2	41.8%	48.8%	1.05
	31	17,137	105,056	38,845	18,510	6.1	37.0%	47.7%	1.08
東京	26	166,865	1,625,446	474,981	182,763	9.7	29.2%	38.5%	1.10
	27	168,390	1,632,817	492,515	185,187	9.7	30.2%	37.6%	1.10
	28	170,553	1,680,215	492,001	185,914	9.9	29.3%	37.8%	1.09
	29	175,024	1,803,679	481,265	187,859	10.3	26.7%	39.0%	1.07
	30	179,549	1,941,659	462,130	186,116	10.8	23.8%	40.3%	1.04
	31	180,659	2,002,263	469,437	184,115	11.1	23.4%	39.2%	1.02

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」から作成

資料3. 海外留学生の動向

図 1. 留学生数の推移

① （書類等の題名）

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

・海外留学生の動向 資料3 図1 5 ページ

② （出典）

OECD（経済協力開発機構）

③ （引用範囲）

「Education at a Glance 2019」（OECD）

・ P231 Figure B6.2

https://www.oecd-ilibrary.org/education/education-at-a-glance-2019_f8d7880d-en

④ （その他の説明）

留学生数の拡大状況が容易に分るように、グラフ中の合計数（Figure B6.2）を黄色枠で囲んだ。

以上

図 2. 留学生の留学先シェア

① （書類等の題名）

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

・留学生の留学先シェア 資料 3 図 2 6 ページ

② （出典）

OECD（経済協力開発機構）

③ （引用範囲）

「Education at a Glance 2019」（OECD）

・ P234 Figure B6.4

https://www.oecd-ilibrary.org/education/education-at-a-glance-2019_f8d7880d-en

④ （その他の説明）

日本の留学生の受入シェアが容易に分るように、日本を示す箇所（Figure B6.4）を黄色枠で囲んだ。

以上

図 3. 留学生の出身国構成比

① （書類等の題名）

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

・留学生の出身国構成比 資料 3 図 3 7 ページ

② （出典）

OECD（経済協力開発機構）

③ （引用範囲）

「Education at a Glance 2019」（OECD）

・ P237 Figure B6.5

https://www.oecd-ilibrary.org/education/education-at-a-glance-2019_f8d7880d-en

④ （その他の説明）

アジア諸国の留学生が世界の全留学生に占める割合が容易に分るように、アジアおよび OECD における合計箇所（Figure B6.5）を黄色枠で囲んだ。

以上

資料4. 海外から日本への留学動向

① （書類等の題名）

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

・海外から日本への留学動向 資料4 8 ページ

② （出典）

独立行政法人日本学生支援機構

③ （引用範囲）

平成 30 年度 外国人留学生在籍状況調査結果

・P1 1. 留学生数の推移（各年 5 月 1 日現在）

https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2018z.pdf

④ （その他の説明）

高等教育機関の留学生数が容易に分るように、平成 23 年～平成 30 年分を黄色枠で囲んだ。

以上

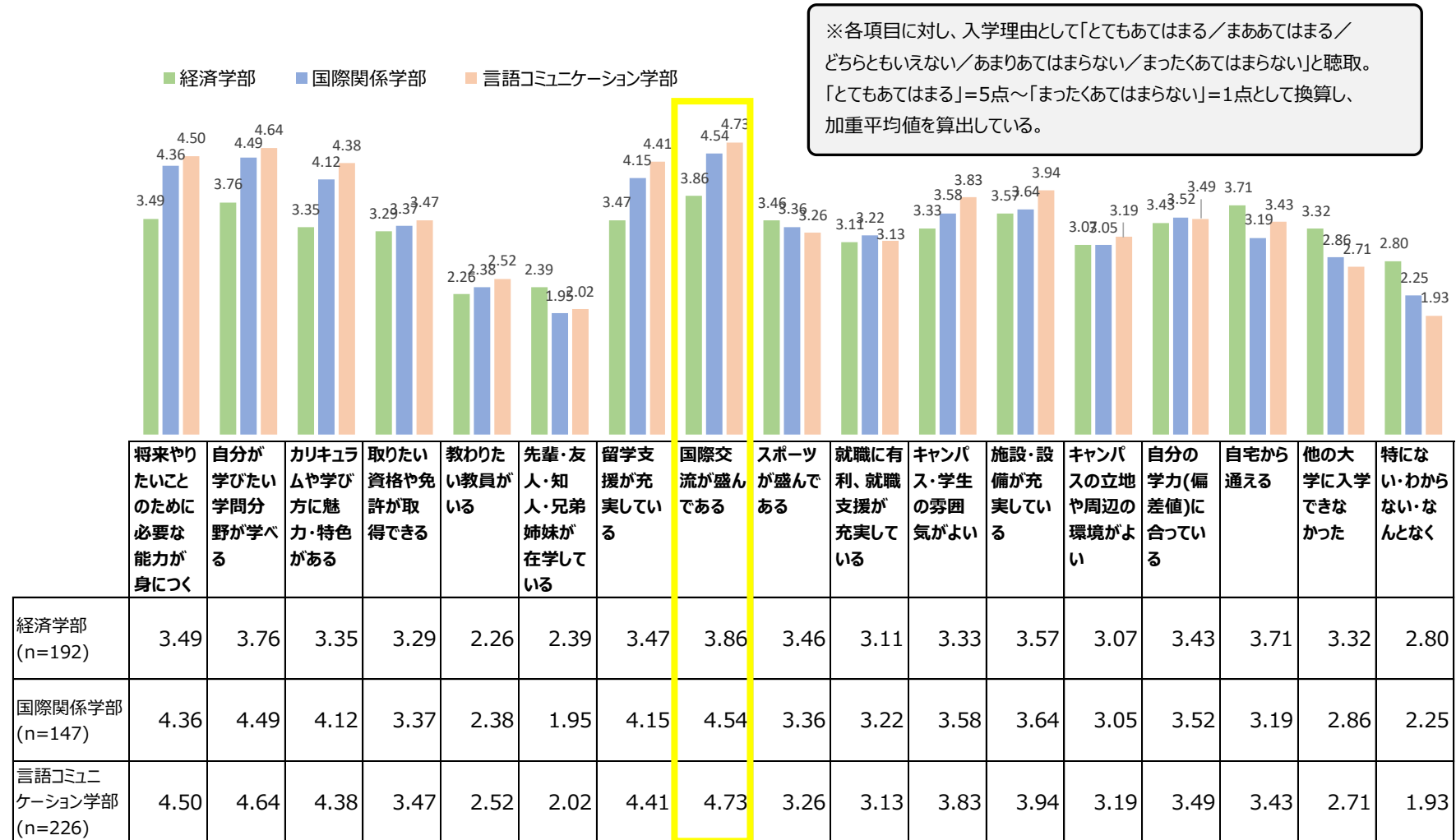
資料5. 出身国別留学生人数の変化

< 出身国別留学生数 >

	平成26年	平成30年	増加人数	増加比率
ベトナム	26,439	72,354	45,915	2.7
中国	94,399	114,950	20,551	1.2
ネパール	10,448	24,331	13,883	2.3
スリランカ	1,412	8,329	6,917	5.9
ミャンマー	1,935	5,928	3,993	3.1
台湾	6,231	9,524	3,293	1.5
インドネシア	3,188	6,277	3,089	2.0
バングラデシュ	948	3,640	2,692	3.8
ウズベキスタン	358	2,132	1,774	6.0
フィリピン	753	2,389	1,636	3.2
モンゴル	1,548	3,124	1,576	2.0
韓国	15,777	17,012	1,235	1.1
インド	727	1,607	880	2.2
アメリカ合衆国	2,152	2,932	780	1.4

日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査（平成 26 年度、平成 30 年度）」から作成

資料6. 東京国際大学の入学理由（Eトラック・プログラム生を除く）



資料7. 実家からの通学者の通学時間分布

< 経済学科 >

		実家通学	30分以内	～60分	～90分	～120分	120分超
学 生 出 身 地	埼玉	110	27	55	24	3	1
	東京	37	0	22	14	1	0
	群馬	5	0	0	0	0	5
	千葉	6	0	0	5	1	0
	栃木	1	0	0	0	1	0
	茨城	3	0	0	2	0	1
	神奈川	2	0	0	1	1	0
	合計	164	27	77	46	7	7
	構成比	100.0%	16.5%	47.0%	28.0%	4.3%	4.3%

< 国際関係学科 >

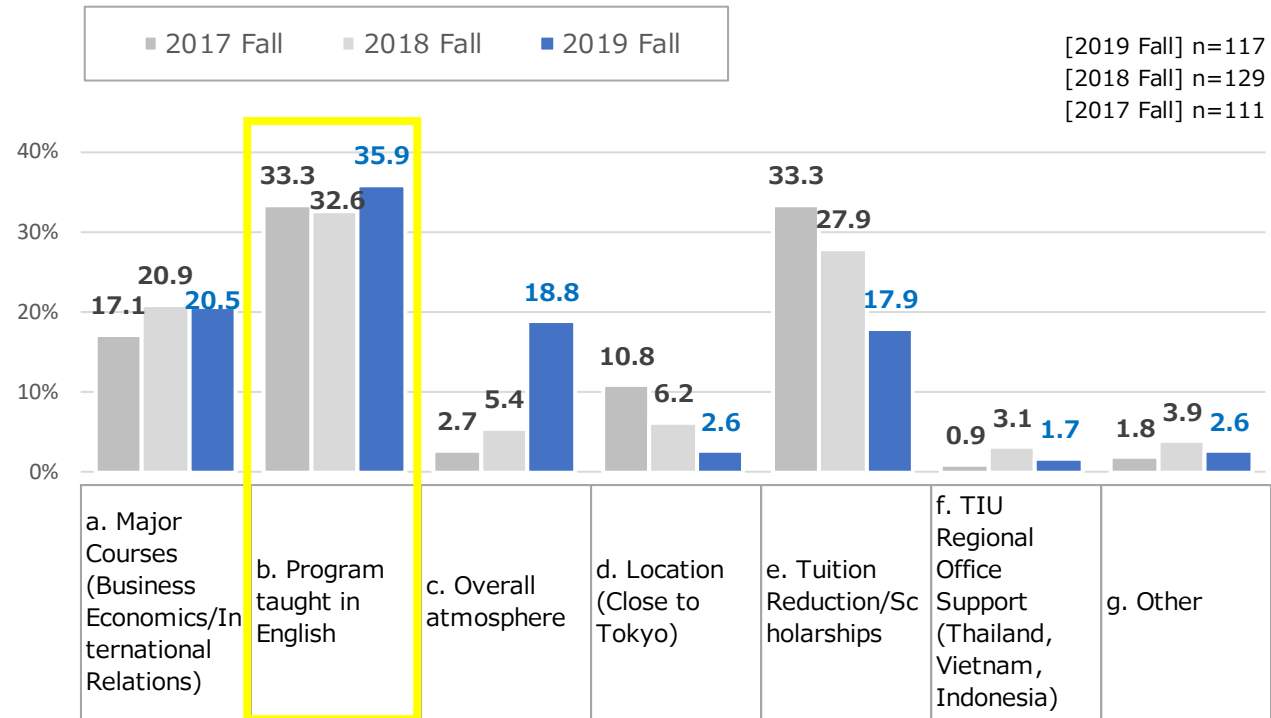
		実家通学	30分以内	～60分	～90分	～120分	120分超
学 生 出 身 地	埼玉	29	10	11	6	2	0
	東京	24	0	14	9	1	0
	群馬	1	0	0	0	0	1
	千葉	3	0	0	1	2	0
	栃木	1	0	0	0	1	0
	茨城	2	0	0	1	1	0
	神奈川	4	0	0	2	2	0
	合計	64	10	25	19	9	1
	構成比	100.0%	15.6%	39.1%	29.7%	14.1%	1.6%

< 英語コミュニケーション学科 >

		実家通学	30分以内	～60分	～90分	～120分	120分超
学 生 出 身 地	埼玉	98	21	43	22	11	1
	東京	35	0	17	17	0	1
	群馬	4	0	0	0	2	2
	千葉	5	0	0	3	1	1
	栃木	2	0	0	0	1	1
	茨城	1	0	0	0	1	0
	神奈川	5	0	0	3	2	0
	合計	150	21	60	45	18	6
	構成比	100.0%	14.0%	40.0%	30.0%	12.0%	4.0%

資料8. 東京国際大学の入学理由 (Eトラック・プログラム生)

Q. Amongst these, what was your biggest motivation?



資料9. 新キャンパスに関するアンケート調査票

【東京国際大学】新キャンパスに関するアンケート

【説明文】

東京国際大学は、令和 5（2023）年 9 月に

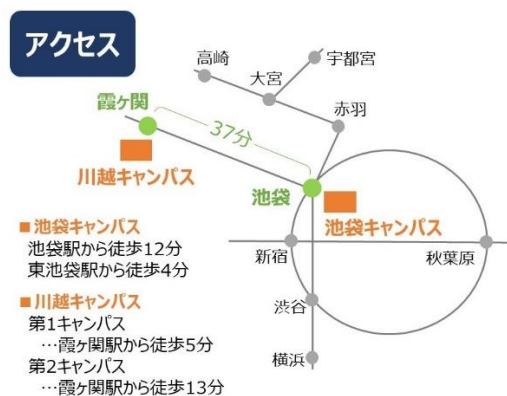
東京都豊島区東池袋に「池袋国際キャンパス」を開校する予定です。



池袋国際キャンパスは、地上22階建て高さ約100mの高層校舎に学生約4,000人が集う都市型キャンパスです。

前面には、広大な公園「イケ・サンパーク」が広がります。

池袋駅から徒歩12分、東池袋駅から徒歩4分の通学に便利なキャンパスです。現在の川越キャンパスとも東武東上線・東京メトロ有楽町線一本でつながります。



令和 6（2024）年 4 月には、経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科、言語コミュニケーション学部は本格的に新キャンパスへ移ります。

これらの学部学科に令和 3（2021）年度以降に入学する方は、
在学中に池袋国際キャンパスへ移ることになります。

選択肢記号の説明

- ☐ 複数選択
- ☐ 単一選択

Q1	新しい池袋キャンパスは交通の便がよいと思いますか？
	☐ よいと思う
	☐ よいと思わない
Q2	新しい池袋キャンパスは魅力的だと思いますか？
	☐ 魅力的だと思う
	☐ 魅力的だと思わない
Q3	あなたが東京国際大学に入学したと仮定して、うかがいます。 入学時は川越キャンパスに通うことになりますが、新たに池袋キャンパスが完成したとき、あなたはどちらのキャンパスに通いたいと思いますか？
	☐ 池袋キャンパスに通いたい
	☐ 川越キャンパスに通いたい
Q4	池袋キャンパスの新設によって、東京国際大学を志望する気持ちは変わりますか？
	☐ 志望する気持ちが高まる
	☐ 変わらない
	☐ 志望する気持ちが下がる
Q5	あなたは東京国際大学を進学先として考えていますか？
	☐ 進学先として考えている
	☐ 進学先として考えていない
Q6	東京国際大学について、あなたが進学したいと思う学部学科をすべてお選びください。 ※「医療健康学部 理学療法学科」は設置構想中であり、学部・学科名称は正式に決まったものではありません。
	☐ 商学部 商学科
	☐ 商学部 経営学科
	☐ 経済学部 経済学科
	☐ 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科
	☐ 国際関係学部 国際関係学科
	☐ 国際関係学部 国際メディア学科
	☐ 人間社会学部 福祉心理学科
	☐ 人間社会学部 人間スポーツ学科
	☐ 人間社会学部 スポーツ科学科
	☐ 医療健康学部 理学療法学科（※）

Q7

東京国際大学について、あなたが最も進学したいと思う学部学科をひとつだけお選びください。
※「医療健康学部 理学療法学科」は設置構想中であり、学部・学科名称は正式に決まったものではありません。

- ☐ 商学部 商学科
- ☐ 商学部 経営学科
- ☐ 経済学部 経済学科
- ☐ 言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科
- ☐ 国際関係学部 国際関係学科
- ☐ 国際関係学部 国際メディア学科
- ☐ 人間社会学部 福祉心理学科
- ☐ 人間社会学部 人間スポーツ学科
- ☐ 人間社会学部 スポーツ科学科
- ☐ 医療健康学部 理学療法学科（※）

Q8

あなたがお住まいの地域をお選びください。

- ☐ 埼玉県
- ☐ 東京都
- ☐ 神奈川県
- ☐ 群馬県
- ☐ 栃木県
- ☐ 茨城県
- ☐ 千葉県
- ☐ その他

Q9

ご自宅の最寄り駅（鉄道）をお知らせください。

路線名（例：山手線）【 】
駅名（例：池袋駅）【 】

Q10

アンケートのご協力、ありがとうございました。
最後に、お名前とメールアドレスをあらためてご入力ください。

名前（姓）【 】
名前（名）【 】
メールアドレス【 】

資料10. 新キャンパスに関するアンケート調査結果

Q1	新しい池袋キャンパスは交通の便がよいと思いますか？ 単一回答	人数	比率
1	よいと思う	244	97.2
2	よいと思わない	7	2.8
	全体	251	100.0

Q2	新しい池袋キャンパスは魅力的だと思いますか？ 単一回答	人数	比率
1	魅力的だと思う	245	97.6
2	魅力的だと思わない	6	2.4
	全体	251	100.0

Q3	あなたが東京国際大学に入学したと仮定して、うかがいます。 入学時は川越キャンパスに通うこととなりますが、新たに池袋キャンパスが完成したとき、あなたはどちらのキャンパスに通いたいと思いますか？ 単一回答	人数	比率
1	池袋キャンパスに通いたい	215	85.7
2	川越キャンパスに通いたい	36	14.3
	全体	251	100.0

Q4	池袋キャンパスの新設によって、東京国際大学を志望する気持ちは変わりますか？ 単一回答	人数	比率
1	志望する気持ちが高まる	163	64.9
2	変わらない	87	34.7
3	志望する気持ち下がる	1	0.4
	全体	251	100.0

Q5	あなたは東京国際大学を進学先として考えていますか？ 単一回答	人数	比率
1	進学先として考えている	160	63.7
2	進学先として考えていない	91	36.3
	全体	251	100.0

Q6	東京国際大学について、あなたが進学したいと思う学部学科をすべてお選びください。 ※「医療健康学部 理学療法学科」は設置構想中であり、学部・学科名称は正式に決まったものではありません。 複数回答	人数	比率
1	商学部 商学科	13	8.1
2	商学部 経営学科	17	10.6
3	経済学部 経済学科	16	10.0
4	言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科	80	50.0
5	国際関係学部 国際関係学科	66	41.3
6	国際関係学部 国際メディア学科	41	25.6
7	人間社会学部 福祉心理学科	13	8.1
8	人間社会学部 人間スポーツ学科	30	18.8
9	人間社会学部 スポーツ科学科	31	19.4
10	医療健康学部 理学療法学科（※）	15	9.4
	全体	160	100.0

Q7	東京国際大学について、あなたが最も進学したいと思う学部学科をひとつだけお選びください。 ※「医療健康学部 理学療法学科」は設置構想中であり、学部・学科名称は正式に決まったものではありません。		
	単一回答	人数	比率
1	商学部 商学科	6	3.8
2	商学部 経営学科	7	4.4
3	経済学部 経済学科	8	5.0
4	言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科	59	36.9
5	国際関係学部 国際関係学科	26	16.3
6	国際関係学部 国際メディア学科	12	7.5
7	人間社会学部 福祉心理学科	5	3.1
8	人間社会学部 人間スポーツ学科	16	10.0
9	人間社会学部 スポーツ科学科	11	6.9
10	医療健康学部 理学療法学科（※）	10	6.3
	全体	160	100.0

Q8	あなたがお住まいの地域をお選びください。		
	単一回答	人数	比率
1	埼玉県	83	33.1
2	東京都	62	24.7
3	神奈川県	12	4.8
4	群馬県	6	2.4
5	栃木県	8	3.2
6	茨城県	2	0.8
7	千葉県	10	4.0
8	その他	68	27.1
	全体	251	100.0

		Q3 通いたいキャンパス	
		池袋キャンパス に通いたい	川越キャンパス に通いたい
上段：人数			
下段：比率			
全体		251	215
		100.0	85.7
Q7 最も進学したい学部学科	移転対象学科の志望者計	93	86
		100.0	92.5
Q8 居住地	埼玉県	83	61
		100.0	73.5
	関東圏（埼玉県除く）	100	92
		100.0	92.0
		100.0	92.0
		100.0	92.0
	その他	68	62
		100.0	91.2

		Q4 志望度の変化		
		志望する気持ちが 高まる	変わらない	志望する気持ちが 下がる
上段：人数				
下段：比率				
キャンパス移転によって、 通学時間が延長する高校生		33	11	21
		100.0	33.3	63.6
				1
				3.0

資料11. キャンパス移転による通学時間の変化

< 経済学科 >

		2019年度 入学者	実家 通学者	うち移転による 通学時間延長者	うち池袋への 通学時間90分超
学 生 出 身 地	埼玉	116	110	39	5
	東京	40	37	0	0
	群馬	15	5	0	0
	千葉	6	6	0	0
	栃木	3	1	0	0
	茨城	4	3	0	0
	神奈川	2	2	0	0
	その他国内	30	0	0	0
	海外	201	0	0	0
	合計	417	164	39	5
構成比		100.0%	39.3%	9.4%	1.2%

< 国際関係学科 >

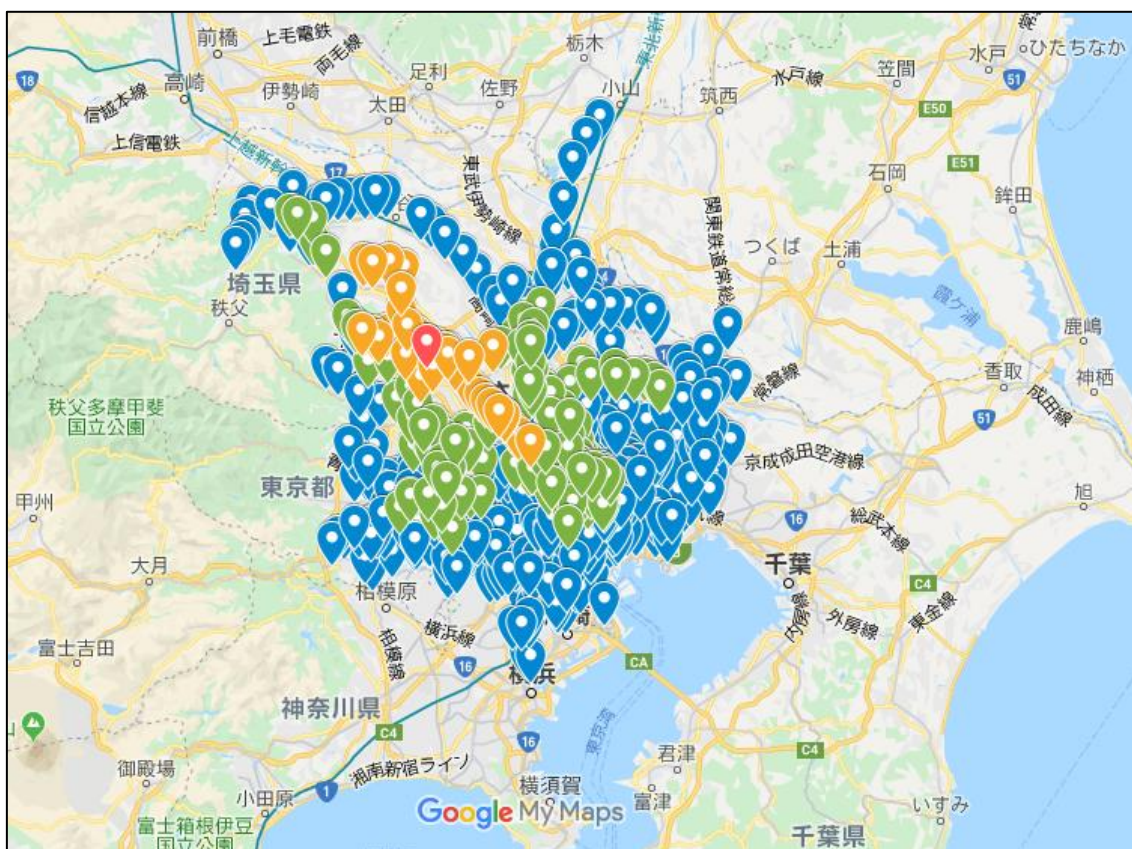
		2019年度 入学者	実家 通学者	うち移転による 通学時間延長者	うち池袋への 通学時間90分超
学 生 出 身 地	埼玉	32	29	11	0
	東京	27	24	0	0
	群馬	6	1	0	0
	千葉	5	3	0	0
	栃木	2	1	0	0
	茨城	3	2	0	0
	神奈川	5	4	0	0
	その他国内	28	0	0	0
	海外	107	0	0	0
	合計	215	64	11	0
構成比		100.0%	29.8%	5.1%	0.0%

< 英語コミュニケーション学科 >

		2019年度 入学者	実家 通学者	うち移転による 通学時間延長者	うち池袋への 通学時間90分超
学 生 出 身 地	埼玉	105	98	33	8
	東京	38	35	0	0
	群馬	10	4	0	0
	千葉	6	5	0	0
	栃木	6	2	0	0
	茨城	6	1	0	0
	神奈川	5	5	0	0
	その他国内	52	0	0	0
	合計	228	150	33	8
構成比		100.0%	65.8%	14.5%	3.5%

資料12. 各キャンパスへの駅別所要時間

図 1. 霞ヶ関駅への所要時間



【マーカー凡例】

赤：霞ヶ関駅

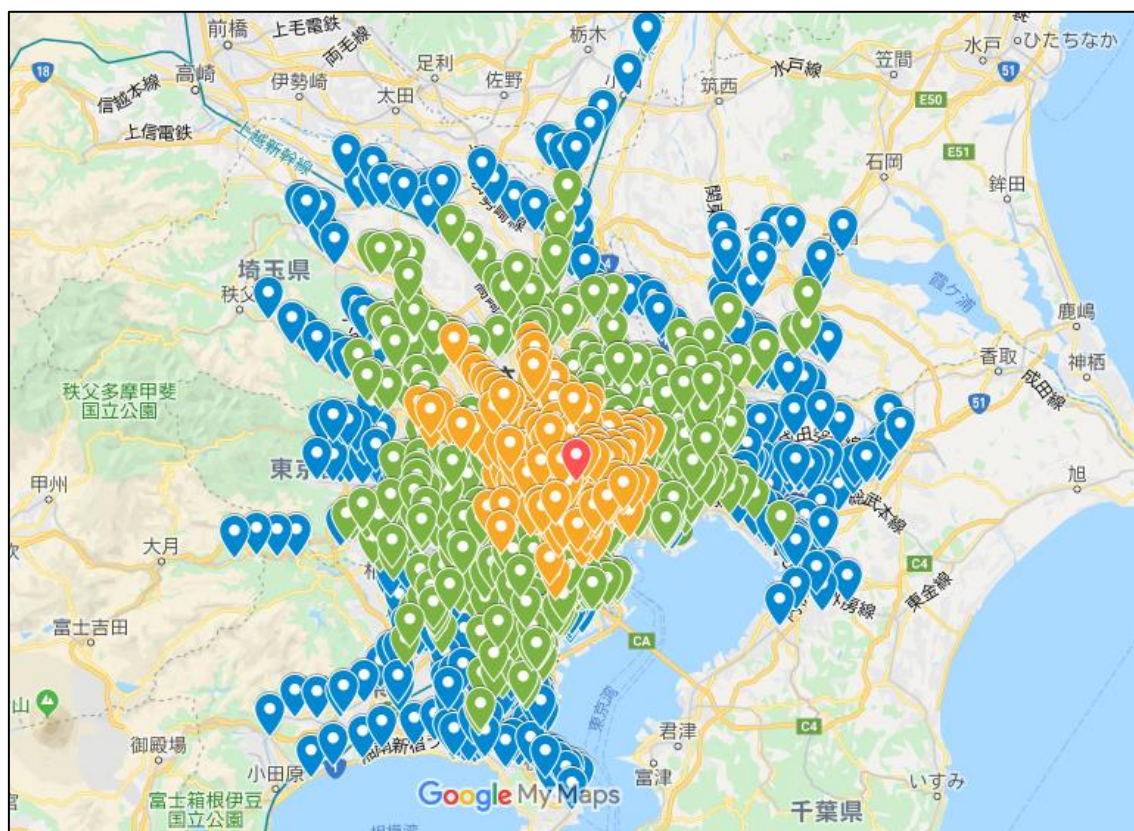
黄：霞ヶ関駅への所要時間が 30 分以内の駅

緑：霞ヶ関駅への所要時間が 30 分超～60 分以内の駅

青：霞ヶ関駅への所要時間が 60 分超～90 分以内の駅

鉄道駅データから作成

図 2. 池袋駅への所要時間



【マーカー凡例】

赤：池袋駅

黄：池袋駅への所要時間が 30 分以内の駅

緑：池袋駅への所要時間が 30 分超～60 分以内の駅

青：池袋駅への所要時間が 60 分超～90 分以内の駅

鉄道駅データから作成

資料13. キャンパス移転後の学生確保の推計

	キャンパス駅までの所要時間			合計人数
	30分以内	30分超 60分以内	60分超 90分以内	
①霞ヶ関駅近辺の高校三年生数	13,549	43,990	136,020	193,559
②池袋駅近辺の高校三年生数	70,069	117,084	85,745	272,898

※複数の所要時間区分にまたがる市区町村は高校三年生人数を案分して算出。

		霞ヶ関駅までの所要時間			合計人数
		30分以内	30分超 60分以内	60分超 90分以内	
③2019年度 入学者数 ※実家通学者	経済学科	25	75	40	140
	国際関係学科	8	20	18	46
	英語コミュニケーション学科	22	62	48	132

④学生確保率 (③/①)	経済学科	0.18%	0.17%	0.03%	
	国際関係学科	0.06%	0.05%	0.01%	
	英語コミュニケーション学科	0.16%	0.14%	0.04%	

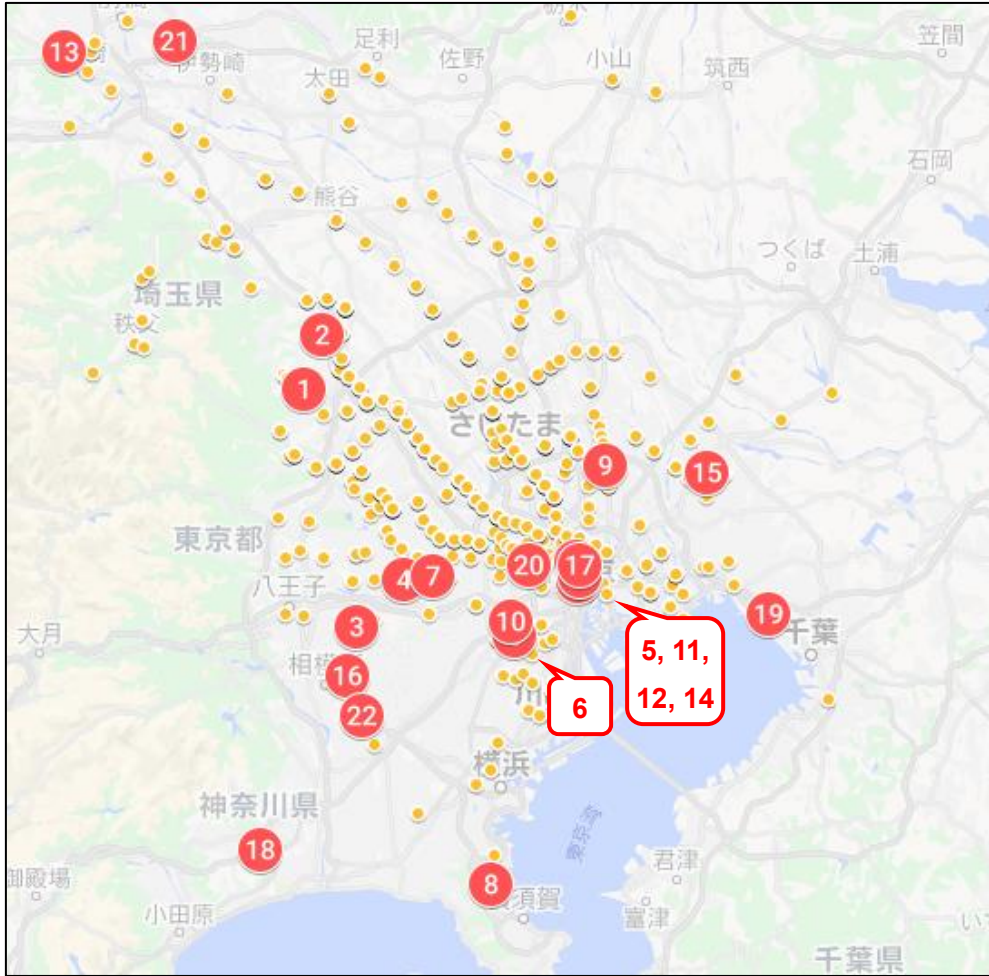
		池袋駅までの所要時間			合計人数
		30分以内	30分超 60分以内	60分超 90分以内	
池袋移転後の 学生確保推計 (②*④)	経済学科	129	200	25	354
	国際関係学科	41	53	11	106
	英語コミュニケーション学科	114	165	30	309

増
加

学校基本調査（平成31年度）および本学データから作成

資料14. 競合大学の状況

図 1. 併願大学所在地と実家通学生の最寄り駅



【マーカー凡例】

赤：併願大学の所在地

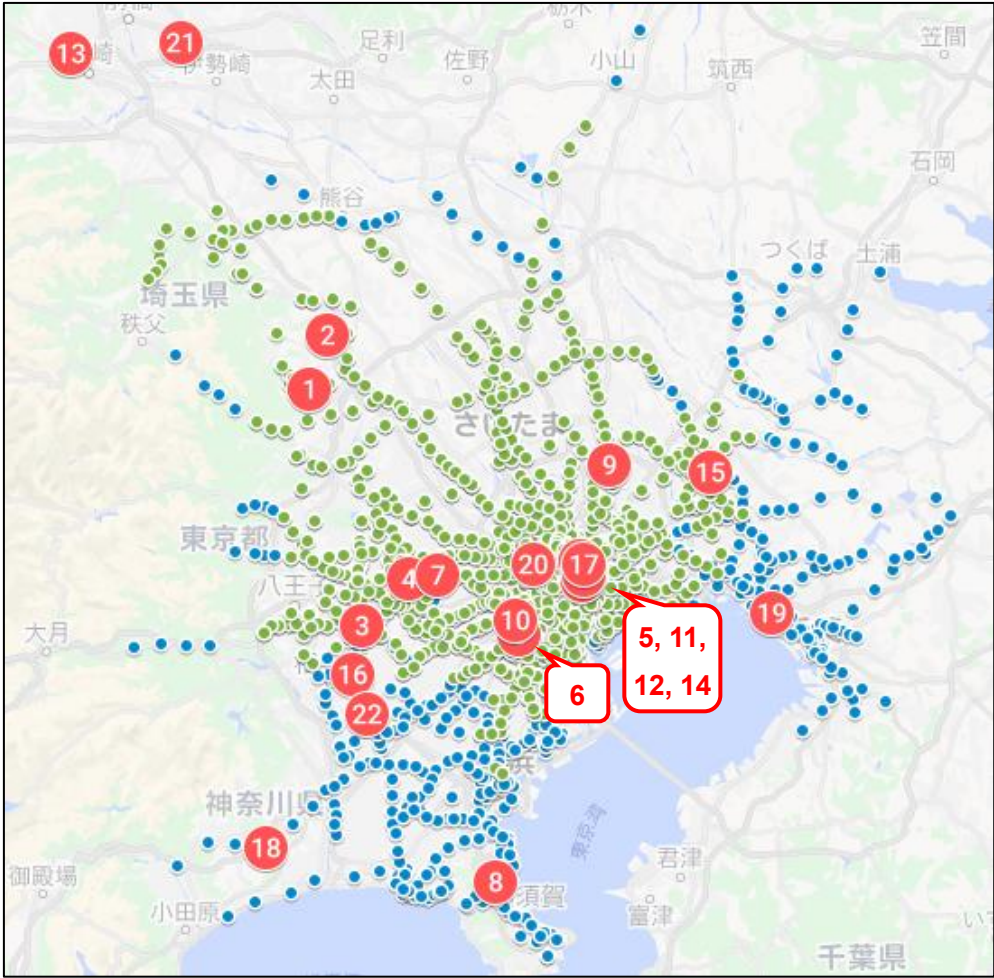
黄：実家通学生の自宅最寄り駅

＜東京国際大学と併願されている主要な大学（2019年度）＞

経済学部			国際関係学部		
通番	大学	所在地	通番	大学	所在地
1	城西	埼玉県	2	大東文化	埼玉県
2	大東文化	埼玉県	5	東洋	東京都
3	帝京	東京都	7	亜細亜	東京都
4	東京経済	東京都	16	桜美林	東京都
5	東洋	東京都	17	文京学院	東京都
6	駒澤	東京都	18	東海	神奈川県
7	亜細亜	東京都	言語コミュニケーション学部		
8	関東学院	神奈川県	通番	大学	所在地
9	獨協	埼玉県	2	大東文化	埼玉県
10	国士舘	東京都	3	帝京	東京都
11	日本	東京都	5	東洋	東京都
12	専修	東京都	9	獨協	埼玉県
13	高崎経済	群馬県	14	東洋学園	東京都
14	東洋学園	東京都	16	桜美林	神奈川県
15	麗澤	千葉県	19	神田外語	千葉県
			20	目白	東京都
			21	共愛学園前橋国際	群馬県
			22	相模女子	神奈川県

2019 年度新入生調査より

図 2. 併願大学所在地と東京国際大学各キャンパス周辺駅



【マーカー凡例】

- 赤：併願大学の所在地
- 緑：霞ヶ関駅への所要時間が 90 分以内の駅
- 青：池袋駅への所要時間が 90 分以内の駅

＜東京国際大学と併願されている主要な大学（2019年度）＞

経済学部			国際関係学部		
通番	大学	所在地	通番	大学	所在地
1	城西	埼玉県	2	大東文化	埼玉県
2	大東文化	埼玉県	5	東洋	東京都
3	帝京	東京都	7	亜細亜	東京都
4	東京経済	東京都	16	桜美林	東京都
5	東洋	東京都	17	文京学院	東京都
6	駒澤	東京都	18	東海	神奈川県
7	亜細亜	東京都	言語コミュニケーション学部		
8	関東学院	神奈川県	通番	大学	所在地
9	獨協	埼玉県	2	大東文化	埼玉県
10	国士舘	東京都	3	帝京	東京都
11	日本	東京都	5	東洋	東京都
12	専修	東京都	9	獨協	埼玉県
13	高崎経済	群馬県	14	東洋学園	東京都
14	東洋学園	東京都	16	桜美林	神奈川県
15	麗澤	千葉県	19	神田外語	千葉県
			20	目白	東京都
			21	共愛学園前橋国際	群馬県
			22	相模女子	神奈川県

2019 年度新入生調査より

資料15. THE 世界大学ランキング日本版（2019 年度）

① （書類等の題名）

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

・ THE 世界大学ランキング日本版（2019 年度） 資料 15 24 ページ

② （出典）

株式会社ベネッセコーポレーション

③ （引用範囲）

THE 世界大学ランキング 日本版

・ 2019 年 分野別ランキング 国際性 1～5 位

<https://japanuniversityrankings.jp/rankings/pillar-ranking/environment/>

④ （その他の説明）

なし

以上

資料16. 学部学科の就職実績

表 1. 就職率

学部	年度	就職 希望者数	就職者数	就職率
経済学部 経済学科	平成29	130	129	99.2
	平成30	129	128	99.2
	平成31	210	208	99.0
国際関係学部 国際関係学科	平成29	69	69	100.0
	平成30	104	103	99.0
	平成31	116	112	96.6
言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科	平成29	130	130	100.0
	平成30	116	115	99.1
	平成31	125	125	100.0

図 1. 経済学部の就職先業種（平成 26～30 年度）

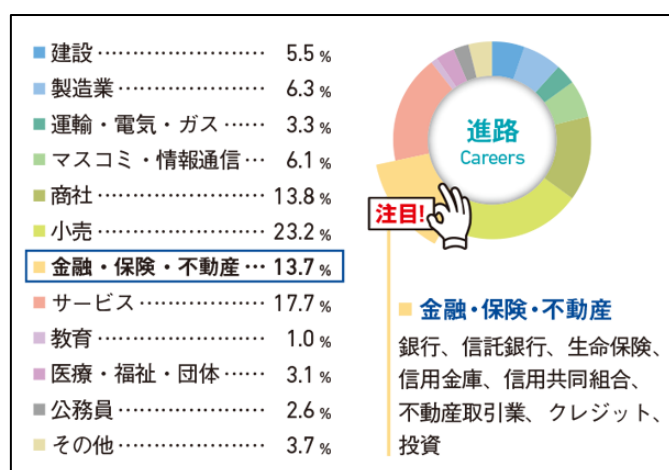


図 2. 国際関係学部の就職先業種（平成 26～30 年度）

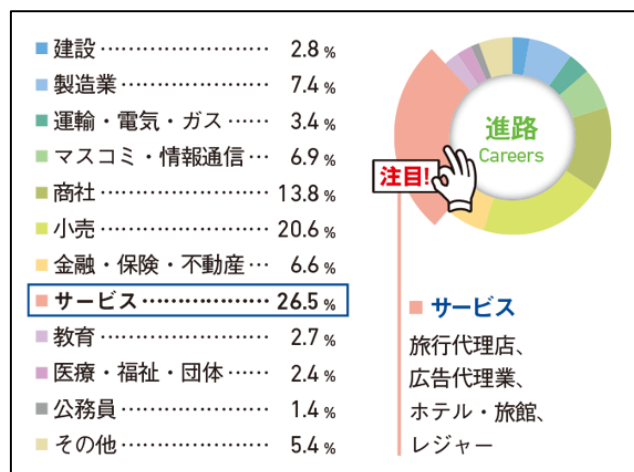


図 3. 言語コミュニケーション学部の就職先業種（平成 26～30 年度）

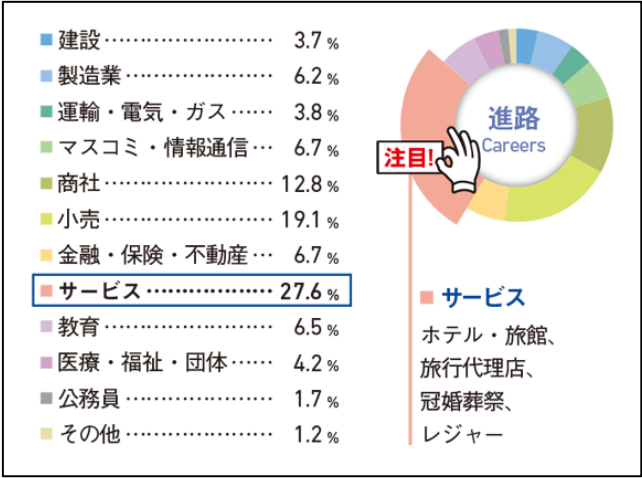


表 2. Eトラック・プログラム生の進路状況（平成 31 年度）

卒業者数：57人

卒業後の進路		人数	卒業者中 構成比	就職状況		人数	就職率	
	就職希望者	46	80.7		就職者全体	43	93.5	
	進学者	8	14.0			日本国内	27	58.7
	その他	3	5.3			海外	16	34.8

進学状況		人数	進学者中 構成比
	大学院	6	75.0
	日本国内	2	25.0
	海外	4	50.0
その他	2	25.0	

資料17. Eトラック・プログラム生の意識

図 1. 大学卒業後の進路意向

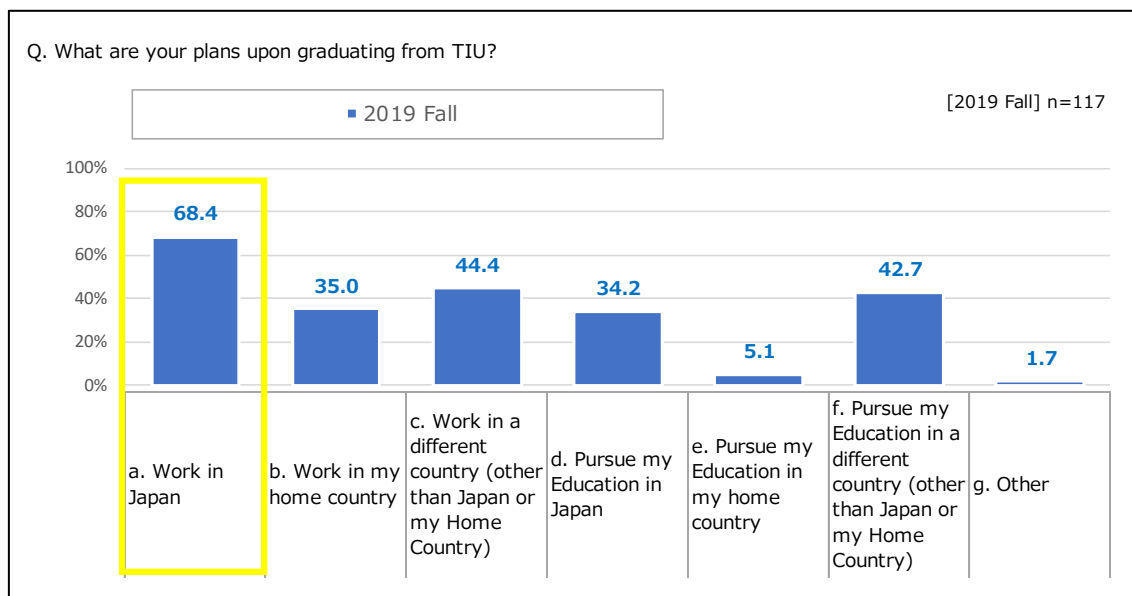
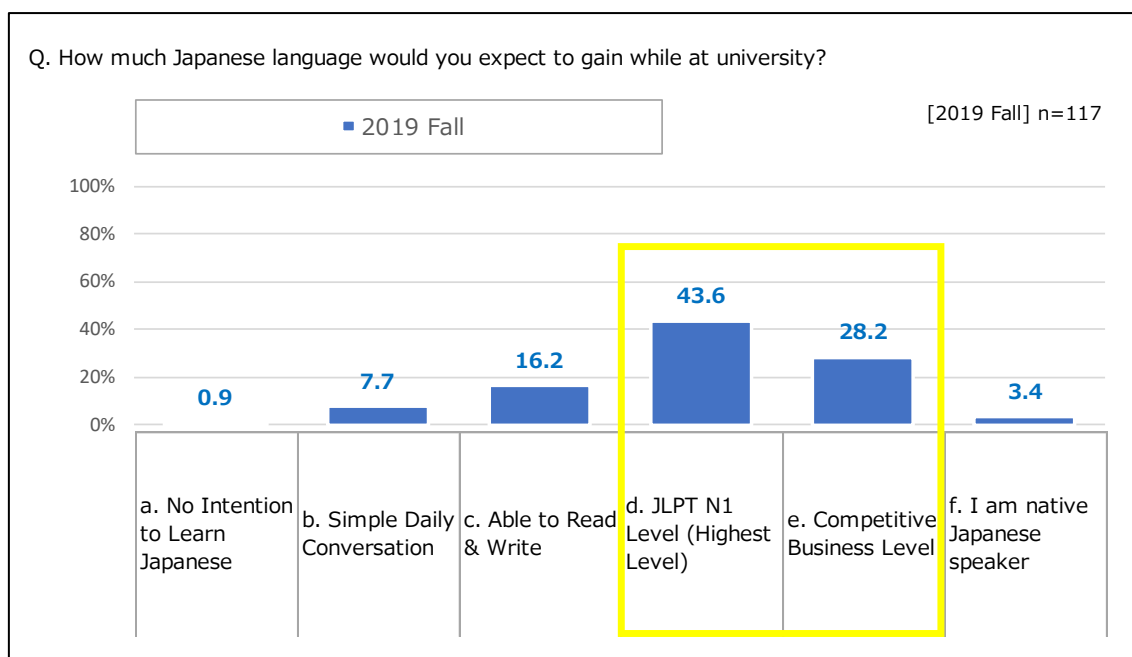


図 2. 日本語の修得意欲



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	シオザワ シュウヘイ 塩澤 修平 ＜平成31年4月＞		Ph. D. (米国)		東京国際大学学長 (平成31.4～令和4.3)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

審査意見への対応を記載した書類（8月）

区分 私立
大学名 東京国際大学

（目次） 経済学部 経済学科

1. 過去5年間で入学定員を段階的に増加させており、令和3年度に向けて更に入学定員を85名に増加する計画となっているが、入学定員の増加に対応した専任教員数の見直しが適切になされているか明らかでなく、学生数に対して必要な教員が配置され、学生が希望する授業科目を履修することができるのか明らかでない。例えば、演習科目については、特定のプログラムにおける履修学生数の平均が示されているものの、本学科に在籍する学生に対する教育の質が確保されるのか不明確であり、また、「卒業研究」についても、学生に希望に応じた教員の指導を受けることができるか明らかでない。このため、入学定員を増加しても、学生及び教員の教育の質が確保されることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に収容定員を見直すこと。
(是正事項) 2

(是正事項) 経済学部 経済学科

1. 過去 5 年間で入学定員を段階的に増加させており、令和 3 年度に向けて更に入学定員を 85 名に増加する計画となっているが、入学定員の増加に対応した専任教員数の見直しが適切になされているか明らかでなく、学生数に対して必要な教員が配置され、学生が希望する授業科目を履修することができるのか明らかでない。例えば、演習科目については、特定のプログラムにおける履修学生数の平均が示されているものの、本学科に在籍する学生に対する教育の質が確保されるのか不明確であり、また、「卒業研究」についても、学生に希望に応じた教員の指導を受けることができるか明らかでない。このため、入学定員を増加しても、学生及び教員の教育の質が確保されることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に収容定員を見直すこと。

(対応)

審査意見を踏まえ、①教員組織の増強（増員）、②収容定員の見直しを行うことにより、各科目に応じた適正クラスサイズの維持を図り、経済学部経済学科に在籍する学生に対する教育の質を確保する。本件教員増により、専門科目増、専門演習、卒業研究対応陣容を強化し、学生の高度な専門学修にたいするニーズにきめ細かく対応していく。

① 教員組織の増強（増員）

経済学部経済学科の専任教員組織を増強し、令和 2 年度の 36 人体制から完成年度（令和 6 年度）までに 5 人の増員を行い 41 人体制とする（表 1）。41 人の内訳は 23 人が日本語による授業科目担当者（4 人増員）、18 人が英語による授業科目（E トラック）担当者（外国人教員等、1 人増員）とする。日本語による授業科目担当者のうち令和 2 年度時点では 4 人が語学系（英語・日本語）科目担当者であるが、うち 2 人は令和 2 年度末をもって定年年齢に達する。英語及び日本語教育に関しては、全学組織であるグローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）及びジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）に集約していく方向にあり、当該 2 人の語学担当者の欠員は、経済学等社会科学系科目担当者での補充に切り替えていく。結果として、日本語による授業科目担当者のうち経済学等社会科学系科目担当者は令和 2 年度の 15 人から令和 6 年度には 21 人に 6 人増員する。尚、当該 21 人のうち完成年度までに 2 人が定年年齢に達するが、補充については経済学等社会科学系担当者で行うこととし、専門演習及び卒業研究の指導体制の維持・強化を図る。

表 1. 経済学部経済学科専任教員増強計画

	令和2	令和6	増減
日本語による授業科目担当者	19	23	4
うち経済学等社会科学系科目担当者	15	21	6
うち語学系（英語・日本語）科目担当者	4	2	▲ 2
英語による授業科目（Eトラック）担当者	17	18	1
専任教員計	36	41	5

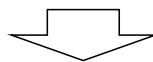
② 収容定員の見直し

経済学部経済学科の従前計画の入学定員 85 人増・収容定員 340 人増から見直し、入学定員 40 人増・収容定員 160 人増に改める（表 2）。

表 2. 経済学部経済学科収容定員変更の見直し

<当初計画>

学部	学科	現行		変更後		差	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	435人	1,740人	520人	2,080人	85人	340人



<審査意見への対応>

学部	学科	現行		変更後		差	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	435人	1,740人	<u>475人</u>	<u>1,900人</u>	<u>40人</u>	<u>160人</u>

<説明>

以上の対応により、経済学部経済学科の専任教員一人当たり学生数（ST 比）は、現行の 48.3 人から定員変更後完成年度には 46.3 人に 2.0 人減少（改善）する（表 3）。

表 3. 経済学部経済学科 ST 比

			現行	定員 変更後
①	入学定員		435人	475人
②	収容定員		1,740人	1,900人
③	専任教員数		36人	41人
⑤	ST比	②/③	48.3人	46.3人

この水準は、表 4 に示す東京都及び埼玉県に所在する 32 大学（大学ポートレートにて検索、本学を除く）の経済学系統学部平均 ST 比 45.9 人とほぼ同水準である。上記①及び②の対応により、完成年度における経済学部経済学科専任教員組織は、適正なクラスサイズ構成が可能なリソースを備えていると考える。本学では、教員募集に際し、国内・国際公募を積極的に活用している。また、若手研究者採用時には、テニユア・トラック制を導入しており、テニユア移行時・昇格時の業績等審査の厳格運用等、教員組織の質の向上に注力している。経済学部経済学科の教員組織の増強に際しても、これら対応により、学生に対する教育の質確保に努めていく。

表 4. 東京都及び埼玉県所在大学の経済学系統学部 ST 比

本学を除く 32 大学平均 ST 比：45.9 人

30人未満	嘉悦（経営経済）29.8	早稲田（政治経済）29.9
30人以上 40人未満	二松学舎（国際政治経済）30.7	駿河台（経済経営）33.2
	大東文化（経済）35.0	聖学院（政治経済）35.6
	専修（経済）37.1	創価（経済）37.1
	成城（経済）38.9	東洋（経済）39.3
	成蹊（経済）39.8	
40人以上 50人未満	亜細亜（経済）40.0	慶応義塾（経済）40.5
	明星（経済）41.6	武蔵（経済）42.0
	明治（政治経済）42.8	上智（経済）44.0
	立正（経済）44.7	青山学院（経済）44.8
	獨協（経済）46.1	本学（経済）完成年度46.3人
	法政（経済）47.4	学習院（経済）47.6
	中央（経済）48.8	東京経済（経済）49.3
50人以上 60人未満	日本（経済）53.1	帝京（経済）53.2
	明治学院（経済）55.2	
60人以上	國學院（経済）60.0	城西（経済）60.0
	駒澤（経済）63.9	立教（経済）66.1
	武蔵野（経済）92.1	

（注1）大学ポートレート：“私立”、“経済学部”、“東京都、埼玉県”で検索。

（注2）ST比は、各大学「情報の公表」より、専任教員数、収容定員から計算。

次に、専門演習、卒業研究の指導体制につき現行体制と本件対応後（収容定員変更後）の体制の比較を行い、審査意見に対する対応状況を示す。

専門演習は、E トラック・プログラム在籍者を除く日本語による授業科目履修者 3 年次・4 年次合同でクラス編成するが、学修意欲のある学生に対し重点的に学びの機会を提供するという考えから選択科目としている。現行のカリキュラムに完全移行した平成 29 年度から令和元年度の 3 年間に於ける、経済学部経済学科の専門演習の履修状況を表 5 に示した。

表 5. 経済学部経済学科専門演習履修状況

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目履修者							
3年次生		257人	231人	205人	231人	245人	
4年次生		182人	268人	250人	233人	245人	
合計	①	439人	499人	455人	464人	490人	
専門演習履修者	②	283人	272人	230人	262人	276人	316人
履修者割合	②/①	64.5%	54.5%	50.5%	56.4%	56.4%	64.5%
		ケース2			ケース1		

当該 3 年平均の履修者数は 262 人、日本語による授業科目履修者 3 年次・4 年次生のうち 56.4%が履修した。最も履修者数・履修者割合が大きかったのは平成 29 年度の 283 人（64.5%）であった。完成年度（令和 6 年度）の日本語による授業科目履修者 3 年次・4 年次生は 490 人と想定され、履修者割合が 3 年平均並み 56.4%（ケース 1）であれば 276 人、平成 29 年度並みの 64.5%（ケース 2）であれば 316 人が専門演習を履修することが見込まれる。

次に、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者の配置状況及び専門演習担当状況を、同様の期間につき表 6 に示した。

表 6. 経済学部経済学科専門演習指導体制

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目担当者							
経済学等社会科学系科目担当者		22人	16人	15人	18人	21人	
専門演習指導教員	①	22人	14人	14人	17人	18人	20人
専門演習履修者	②	283人	272人	230人	262人	276人	316人
一演習当たり履修者	②/①	13人	19人	16人	16人	16人	16人
履修者割合		64.5%	54.5%	50.5%	56.4%	56.4%	64.5%
		ケース2			ケース1		

日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数は、平成 29 年度から令和元年度 3 年平均で 18 人、このうち 3 年平均で 17 人が専門演習指導を担当している、一演習当たり履修者数は 16 人であった。専門演習の適正クラスサイズは 20 人程度と想定して履修運営しており、当該 3 年間の経済学部経済学科の専門演習は、クラスサイズ面でほぼ適正規模を保てていたと考える。

収容定員増後の完成年度には、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者は 21 人に増員されており、専門演習に問題なく対応できることを、以下確認した。まず、一演習当たりの履修者数は 3 年平均の 16 人を維持しつつ、専門演習履修者割合が 3 年平均並み 56.4%（ケース 1）である場合、18 人の教員が専門演習を担当する必要がある。専門演習履修者割合が平成 29 年度並みの 64.5%（ケース 2）であれば、20 人の教員が専門演習を担当する必要がある。いずれのケースも、平成 6 年度における日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数 21 人以内であり、問題なく対応可能である。また、一演習当たりの履修者数を 20 人程度にまで拡大すれば、更に履修者が増えた場合にも対応できる。

卒業研究は、E トラック・プログラム在籍者を除く日本語による授業科目履修者 4 年次生が対象であり、学修意欲のある学生に対し重点的に学びの機会を提供するという考えから選択科目としている。現行のカリキュラムに完全移行した平成 29 年度から令和元年度の 3 年間における、経済学部経済学科の卒業研究の履修状況を表 7 に示した。

表 7. 経済学部経済学科卒業研究履修状況

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目履修者							
4年次生	①	182人	268人	250人	233人	245人	
卒業研究履修者	②	31人	31人	26人	29人	31人	42人
割合	②/①	17.0%	11.6%	10.4%	12.6%	12.6%	17.0%
		ケース2			ケース1		

当該 3 年平均の履修者数は 29 人、日本語による授業科目履修者 4 年次生のうち 12.6% が履修した。最も履修者数・履修者割合が大きかったのは平成 29 年度の 31 人（17.0%）であった。完成年度（令和 6 年度）の日本語による授業科目履修者 4 年次生は 245 人と想定され、履修者割合が 3 年平均並み 12.6%（ケース 1）であれば 31 人、平成 29 年度並みの 17.0%（ケース 2）であれば 42 人が卒業研究を履修することが見込まれる。

次に、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者の配置状況及び卒業研究担当状況を、同様の期間につき表 8 に示した。

表 8. 経済学部経済学科卒業研究指導体制

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目担当者							
経済学等社会科学系科目担当者		22人	16人	15人	18人	21人	
卒業研究指導教員	①	10人	7人	7人	8人	8人	11人
卒業研究履修者	②	31人	31人	26人	29人	31人	42人
一教員当たり履修者	②/①	3人	4人	4人	4人	4人	4人
履修者割合		17.0%	11.6%	10.4%	12.6%	12.6%	17.0%

ケース2

ケース1

日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数は、平成 29 年度から令和元年度 3 年平均で 18 人、このうち 3 年平均で 8 人が卒業研究指導を担当している、一教員当たり履修者数は 4 人であった。

収容定員増後の完成年度には、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者は 21 人に増員されており、卒業研究に問題なく対応できることを、以下確認した。まず、一教員当たりの履修者数は 3 年平均の 4 人を維持しつつ、卒業研究履修者割合が 3 年平均並み 12.6%（ケース 1）である場合、8 人の教員が卒業研究を担当する必要がある。卒業研究履修者割合が平成 29 年度並みの 17.0%（ケース 2）であれば、11 人の教員が卒業研究を担当する必要がある。いずれのケースも、平成 6 年度における日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数 21 人以内であり、問題なく対応可能である。

以上、専門演習、卒業研究といった経済学部経済学科専任教員組織に固有の専門教育中核分野に関しても、①教員組織の増強及び②収容定員の見直しにより、完成年度においても学生及び教員の教育の質確保が可能であると考ええる。

このように、今回の収容定員変更後における対象学科の教育課程実施に問題はない。本学としては、受験生及び社会に評価されているこの組織を更に発展させていくために、専門性、保有学位・教歴、多様性等のバランスに配慮し、教育効果を発揮できる教員組織の編成に努めていく。

<新旧対照表>

① 教員組織の増強（増員）

（新旧対照表）学則の変更の趣旨を記載した書類（9 ページ）

新	旧
3.2.2. 経済学部 経済学科 <u>以上経済学部経済学科の教育方法及び履修指導方法については、学則変更（収容定員変更）後も、特段の対応変更を行わない。従前とおりの運営を担保するため、後掲「3.3. 教員組織の変更内容」に示すとおり、教員組織の増強を行う。</u>	3.2.2. 経済学部 経済学科 定員が増えることについては、主に少人数クラスに影響することが考えられる。経済学科では初年次演習、基礎演習、専門演習といった少人数クラス科目に演習科目が該当する。平成 31 年度のクラス平均履修者数は、初年次演習 16.1 人、基礎演習 13.8 人、専門演習 16.1 人であり、定員変更の増員効果 1.19 倍を掛け合わせると、それぞれ 19.1 人（3 人増）、16.4 人（2.6 人増）、19.1 人（3 人増）となり、現状のクラス設定数でも影響は小さいと考える。また、所属専任教員数は設置基準を超える 33 名を擁しており、学生のニーズによってクラス数を増やすことは可能であるため、定員変更による増員後も従前同等あるいはそれ以上の教育水準を確保できると考えている。
3.2.3. 国際関係学部 国際関係学科 <u>以上国際関係学部国際関係学科の教育方法及び履修指導方法については、学則変更（収容定員変更）後も、特段の対応変更を行わない。従前とおりの運営を担保するため、後掲「3.3. 教員組織の変更内容」に示すとおり、教員組織の増強を行う。</u>	3.2.3. 国際関係学部 国際関係学科 定員が増えることについては、主に少人数クラスに影響することが考えられる。国際関係学科では初年次演習、基礎演習、専門演習といった演習系の科目が該当する。平成 31 年度のクラス平均履修者数は、必修である初年次演習 16.9 人、選択科目である基礎演習 15.5 人、専門演習 17.8 人で、定員変更の増員効果 1.26 倍を掛け合わせると、それぞれ 21.2 人（4.3 人増）、19.5 人（4 人増）、22.4 人（4.6 人増）となり、現状のクラス設定数でも影響は小さいと考える。また、所属専任教員数は設置

	基準を超える 20 名を擁しており、学生のニーズによってクラス数を増やすことは可能であるため、定員変更による増員後も従前同等あるいはそれ以上の教育水準を確保できると考えている。
--	--

(新旧対照表) 学則の変更の趣旨を記載した書類 (10 ページ)

新	旧
3.3. 教員組織の変更内容 <u>本件収容定員変更にあたり、教員組織の増強を行う。完成年度（令和 6 年度）までに、表 3（後掲）に示す教員増員を行うことにより、各科目に応じた適正クラスサイズの維持を図り、対象学科に在籍する学生に対する教育の質を確保する。本件教員増により、専門科目増、専門演習、卒業研究対応陣容を強化し、学生の高度な専門学修にたいするニーズにきめ細かく対応していく。</u> 本学では、各学部所属の教員のほか、以下のような学部横断的教育・研究組織を設置し、全学的な教育・研究活動に従事させている。今回学則変更対象となる 3 つの学科においては、これら組織の貢献が極めて大きい。 全学的な英語教育組織グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) を設置し、現在 42 人の北米出身の英語ネイティブ教員を擁している。GTI は、言語コミュニケーション学部、国際関係学部、経済学部等の初年次英語教育を担うほか、E トラック・プログラムのアカデミック・リテラシー教育等を担当している。1 クラス 10 名程度の対話型授業できめ細やかな指導を行っており、今後についてもその質を担保するよう努めていく。更に平成 31 年度	3.3. 教員組織の変更内容 大学設置基準第 13 条に定められている専任教員数について収容定員増後の基準教員数の観点で見ると、経済学部経済学科の基準教員数は 24 名であるが既に 33 名の教員を擁している。国際関係学部国際関係学科の基準教員数は 15 名であるが既に 20 名の教員を擁している。言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科の基準教員数は 13 名であるが既に 17 名の教員を擁している。なお、E トラック・プログラムをもつ経済学部経済学科、国際関係学部国際関係学科では、上記教員数のうちそれぞれ 14 人、12 人が外国人教員であり、国際的通用性のあるプログラムの構築・運営を担っている。 本学では、各学部所属の教員のほか、以下のような学部横断的教育・研究組織を設置し、全学的な教育・研究活動に従事させている。今回学則変更対象となる 3 つの学科においては、これら組織の貢献が極めて大きい。 全学的な英語教育組織グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) を設置し、現在 42 人の北米出身の英語ネイティブ教員を擁している。GTI は、言語コミュニケーション学部、国際関係学部、経済学部等の初年次英語教育を担うほか、E ト

にはビジネス分野の実務家教員も学部と兼務で配置し、「使える英語」を目指し、連携して海外インターンシップ、PBL等を指導する体勢を整えている。 また、Eトラック・プログラムに在籍する外国人留学生の日本語教育を担わせるため、ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）を設置している。 <u>経済学部経済学科については、過去5年間で入学定員を段階的に増加させており、令和3年度に向けて更に入学定員を40名増加する計画であるため、上記の専任教員組織増強の効果を詳述する。</u> <u>経済学部経済学科の専任教員組織を増強し、令和2年度の36人体制から完成年度（令和6年度）までに5人の増員を行い41人体制とする（後掲表4）。41人の内訳は23人が日本語による授業科目担当者（4人増員）、18人が英語による授業科目（Eトラック）担当者（外国人教員等、1人増員）とする。日本語による授業科目担当者のうち令和2年度時点では4人が語学系（英語・日本語）科目担当者であるが、うち2人は令和2年度末をもって定年年齢に達する。英語及び日本語教育に関しては、全学組織であるグローバル・ティーチング・インスティテュート（GTI）及びジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）に集約していく方向にあり、当該2人の語学担当者の欠員は、経済学等社会科学系科目担当者での補充に切り替えていく。結果として、日本語による授業科目担当者のうち経済学等社会科学系科目担当者は令和2年度の15人から令和6年度には21人に6人増員する。尚、当該21人の</u>	トラック・プログラムのアカデミック・リテラシー教育等を担当している。1クラス10名程度の対話型授業できめ細やかな指導を行っており、今後についてもその質を担保するよう努めていく。更に平成31年度にはビジネス分野の実務家教員も学部と兼務で配置し、「使える英語」を目指し、連携して海外インターンシップ、PBL等を指導する体勢を整えている。 また、Eトラック・プログラムに在籍する外国人留学生の日本語教育を担わせるため、ジャパニーズ・ランゲージ・インスティテュート（JLI）を設置している。 このように、今回の収容定員変更後における対象学科の教育課程実施に問題はない。本学としては、受験生及び社会に評価されているこの組織を更に発展させていくために、専門性、保有学位・教歴、多様性等のバランスに配慮し、教育効果を発揮できる教員組織の編成に努めていく。
--	---

うち完成年度までに 2 人が定年年齢に達するが、補充については経済学等社会科学系担当者で行うこととし、専門演習及び卒業研究の指導体制の維持・強化を図る。

まず、本件専任教員増員により、経済学部経済学科の専任教員一人当たり学生数（ST 比）は、現行の 48.3 人から定員変更後完成年度には 46.3 人に 2.0 人減少（改善）する（後掲表 5）。

この水準は、表 6（後掲）に示す東京都及び埼玉県に所在する 32 大学（大学ポータルにて検索、本学を除く）の経済学系統学部（部）の平均 ST 比 45.9 人とほぼ同水準である。完成年度における経済学部経済学科専任教員組織は、適正なクラスサイズ構成が可能なりソースを備えていると考える。本学では、教員募集に際し、国内・国際公募を積極的に活用している。また、若手研究者採用時には、テニュア・トラック制を導入しており、テニュア移行時・昇格時の業績等審査の厳格運用等、教員組織の質の向上に注力している。経済学部経済学科の教員組織の増強に際しても、これら対応により、学生に対する教育の質確保に努めていく。

次に、専門演習、卒業研究の指導体制につき現行体制と本件対応後（収容定員変更後）の体制の比較を行い、教育の質の確保状況を示す。

専門演習は、E トラック・プログラム在籍者を除く日本語による授業科目履修者 3 年次・4 年次合同でクラス編成するが、学修意欲のある学生に対し重点的に学びの機会を提供するという考えから選択科目

としている。現行のカリキュラムに完全移行した平成 29 年度から令和元年度の 3 年間に、経済学部経済学科の専門演習の履修状況を表 7（後掲）に示した。

当該 3 年平均の履修者数は 262 人、日本語による授業科目履修者 3 年次・4 年次生のうち 56.4%が履修した。最も履修者数・履修者割合が大きかったのは平成 29 年度の 283 人（64.5%）であった。完成年度（令和 6 年度）の日本語による授業科目履修者 3 年次・4 年次生は 490 人と想定され、履修者割合が 3 年平均並み 56.4%（ケース 1）であれば 276 人、平成 29 年度並みの 64.5%（ケース 2）であれば 316 人が専門演習を履修することが見込まれる。

次に、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者の配置状況及び専門演習担当状況を、同様の期間につき表 8（後掲）に示した。

日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数は、平成 29 年度から令和元年度 3 年平均で 18 人、このうち 3 年平均で 17 人が専門演習指導を担当している、一演習当たり履修者数は 16 人であった。専門演習の適正クラスサイズは 20 人程度と想定して履修運営しており、当該 3 年間の経済学部経済学科の専門演習は、クラスサイズ面でほぼ適正規模を保っていたと考える。

収容定員増後の完成年度には、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者は 21 人に増員されており、専門演習に問題なく対応できることを、以下確認した。まず、一演習当たりの履修者数は 3 年平均の 16 人を維持しつつ、専門演習履修者割合が 3 年平均並み 56.4%（ケース 1）であ

る場合、18 人の教員が専門演習を担当する必要がある。専門演習履修者割合が平成 29 年度並みの 64.5%（ケース 2）であれば、20 人の教員が専門演習を担当する必要がある。いずれのケースも、平成 6 年度における日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数 21 人以内であり、問題なく対応可能である。また、一演習当たりの履修者数を 20 人程度にまで拡大すれば、更に履修者が増えた場合にも対応できる。

卒業研究は、E トラック・プログラム在籍者を除く日本語による授業科目履修者 4 年次生が対象であり、学修意欲のある学生に対し重点的に学びの機会を提供するという考えから選択科目としている。現行のカリキュラムに完全移行した平成 29 年度から令和元年度の 3 年間に於ける、経済学部経済学科の卒業研究の履修状況を表 9（後掲）に示した。

当該 3 年平均の履修者数は 29 人、日本語による授業科目履修者 4 年次生のうち 12.6%が履修した。最も履修者数・履修者割合が大きかったのは平成 29 年度の 31 人（17.0%）であった。完成年度（令和 6 年度）の日本語による授業科目履修者 4 年次生は 245 人と想定され、履修者割合が 3 年平均並み 12.6%（ケース 1）であれば 31 人、平成 29 年度並みの 17.0%（ケース 2）であれば 42 人が卒業研究を履修することが見込まれる。

次に、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者の配置状況及び卒業研究担当状況を、同様の期間につき表 10（後掲）に示した。

日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数は、平成 29 年度から令和元年度 3 年平均で 18 人、このうち 3 年平均で 8 人が卒業研究指導を担当している、一教員当たり履修者数は 4 人であった。

収容定員増後の完成年度には、日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者は 21 人に増員されており、卒業研究に問題なく対応できることを、以下確認した。
まず、一教員当たりの履修者数は 3 年平均の 4 人を維持しつつ、卒業研究履修者割合が 3 年平均並み 12.6%（ケース 1）である場合、8 人の教員が卒業研究を担当する必要がある。卒業研究履修者割合が平成 29 年度並みの 17.0%（ケース 2）であれば、11 人の教員が卒業研究を担当する必要がある。いずれのケースも、平成 6 年度における日本語による経済学等社会科学系授業科目担当者数 21 人以内であり、問題なく対応可能である。

以上、専門演習、卒業研究といった経済学部経済学科専任教員組織に固有の専門教育中核分野に関しても、①教員組織の増強及び②収容定員の見直しにより、完成年度においても学生及び教員の教育の質確保が可能であると考える。

このように、今回の収容定員変更後における対象学科の教育課程実施に問題はない。本学としては、受験生及び社会に評価されているこの組織を更に発展させていくために、専門性、保有学位・教歴、多様性等のバランスに配慮し、教育効果を発揮できる教員組織の編成に努めていく。

(以下表 3、4、5、6、7、8、9、10 を追加)

表 3. 教員組織増強計画

学部	学科	専任教員数			
		設置基準	令和2年度	令和6年度	増減
経済学部	経済学科	23	36	41	5
国際関係学部	国際関係学科	15	22	25	3
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	13	21	21	0

表 4. 経済学部経済学科専任教員増強計画

	令和2	令和6	増減
日本語による授業科目担当者	19	23	4
うち経済学等社会科学系科目担当者	15	21	6
うち語学系（英語・日本語）科目担当者	4	2	▲ 2
英語による授業科目（Eトラック）担当者	17	18	1
専任教員計	36	41	5

表 5. 経済学部経済学科専任教員一人当たり学生数（ST 比）

			現行	定員 変更後
①	入学定員		435人	475人
②	収容定員		1,740人	1,900人
③	専任教員数		36人	41人
⑤	ST比	②/③	48.3人	46.3人

表 6. 東京都及び埼玉県所在大学の ST 比

本学を除く32大学平均ST比：45.9人

30人未満	嘉悦（経営経済）29.8	早稲田（政治経済）29.9
30人以上 40人未満	二松学舎（国際政治経済）30.7 大東文化（経済）35.0 専修（経済）37.1 成城（経済）38.9 成蹊（経済）39.8	駿河台（経済経営）33.2 聖学院（政治経済）35.6 創価（経済）37.1 東洋（経済）39.3
40人以上 50人未満	亜細亜（経済）40.0 明星（経済）41.6 明治（政治経済）42.8 立正（経済）44.7 獨協（経済）46.1 法政（経済）47.4 中央（経済）48.8	慶応義塾（経済）40.5 武蔵（経済）42.0 上智（経済）44.0 青山学院（経済）44.8 本学（経済）完成年度46.3人 学習院（経済）47.6 東京経済（経済）49.3
50人以上 60人未満	日本（経済）53.1 明治学院（経済）55.2	帝京（経済）53.2
60人以上	國學院（経済）60.0 駒澤（経済）63.9 武蔵野（経済）92.1	城西（経済）60.0 立教（経済）66.1

（注1）大学ポータル：”私立”、”経済学部”、”東京都、埼玉県”で検索。

（注2）ST比は、各大学「情報の公表」より、専任教員数、収容定員から計算。

表 7. 経済学部経済学科専門演習履修状況

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目履修者							
3年次生		257人	231人	205人	231人	245人	
4年次生		182人	268人	250人	233人	245人	
合計	①	439人	499人	455人	464人	490人	
専門演習履修者	②	283人	272人	230人	262人	276人	316人
履修者割合	②/①	64.5%	54.5%	50.5%	56.4%	56.4%	64.5%
		ケース2			ケース1		

表 8. 経済学部経済学科専門演習指導体制

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目担当者							
経済学等社会科学系科目担当者		22人	16人	15人	18人	21人	
専門演習指導教員	①	22人	14人	14人	17人	18人	20人
専門演習履修者	②	283人	272人	230人	262人	276人	316人
一演習当たり履修者	②/①	13人	19人	16人	16人	16人	16人
履修者割合		64.5%	54.5%	50.5%	56.4%	56.4%	64.5%

ケース2 ケース1

表 9. 経済学部経済学科卒業研究履修状況

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目履修者							
4年次生	①	182人	268人	250人	233人	245人	
卒業研究履修者	②	31人	31人	26人	29人	31人	42人
割合	②/①	17.0%	11.6%	10.4%	12.6%	12.6%	17.0%

ケース2 ケース1

表 10. 経済学部経済学科卒業研究指導体制

		平成29	平成30	令和元	3年平均	令和6	
日本語による授業科目担当者							
経済学等社会科学系科目担当者		22人	16人	15人	18人	21人	
卒業研究指導教員	①	10人	7人	7人	8人	8人	11人
卒業研究履修者	②	31人	31人	26人	29人	31人	42人
一教員当たり履修者	②/①	3人	4人	4人	4人	4人	4人
履修者割合		17.0%	11.6%	10.4%	12.6%	12.6%	17.0%

ケース2 ケース1

(新旧対照表) 学生の確保の見通しを記載した書類 (3 ページ)

新	旧
1.1.1. 定員充足の見込み及び入学定員設定の考え方 <u>教員組織については授業内容や方法、履修指導体制等を考慮のうえ、本件収容定員変更に対応した増員を計画している</u> <u>(学則の変更の趣旨等を記載した書類「3.3.教員組織の変更内容」参照)。</u><u>それぞれの学科における専任教員数と大学設置基準が定める増員後の必要専任教員数の比較は以下のとおりである (後掲表2)。</u>	1.1.2. 定員充足の見込み及び入学定員設定の考え方 具体的には、教員組織は授業内容や方法、履修指導体制等を考慮のうえ、効果的教育が実施できる人数による体制を構築している。それぞれの学科における専任教員数と大学設置基準が定める増員後の必要専任教員数の比較は以下のとおりであり (表 2)、入学定員を増加しても十分対応可能な体制である。

【新】表 2. 各学科教員数

学部	学科	現員	増員後	設置基準
経済学部	経済学科	36	41	23
国際関係学部	国際関係学科	22	25	15
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	21	21	13

【旧】表 2. 各学科教員数

学部	学科	現員	設置基準
経済学部	経済学科	33(18)	24(12)
国際関係学部	国際関係学科	20(8)	15(8)
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	17(7)	13(7)

() 内教授数

(新旧対照表) 基本計画書 (2 ページ)

【新】

教 員 組 織 の 要 素	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教 員 等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設 組 織 の 分 <									

【旧】

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新 設 分	商学部 商学科	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	19 (19)	令和3年4月 設置予定
	商学部 経営学科	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	19 (19)	
	経済学部 経済学科	18 (18)	11 (11)	4 (4)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	7 (7)	
	言語コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科	7 (7)	3 (3)	7 (7)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	6 (6)	
	国際関係学部 国際関係学科	8 (8)	6 (6)	6 (6)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	17 (17)	
	国際関係学部 国際メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	17 (17)	
	人間社会学部 福祉心理学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	24 (24)	
	人間社会学部 人間スポーツ学科	7 (7)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	24 (24)	
	人間社会学部 スポーツ科学科	7 (7)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	24 (24)	
	医療健康学部 理学療法学科	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	5 (0)	
	計	90 (90)	36 (36)	31 (31)	0 (0)	157 (157)	0 (0)	— (—)	
既 設 分	GTI(Global Teaching Institute)	0 (0)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	0 (0)	
	JLI (Japanese Language Institute)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	6 (6)	
	言語教育機構	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
	教育研究推進機構	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	
	計	3 (3)	1 (1)	63 (63)	1 (1)	68 (68)	0 (0)	— (—)	
	合 計	93 (93)	37 (37)	94 (94)	1 (1)	225 (225)	0 (0)	— (—)	

② 収容定員の見直し

(新旧対象) 学則の変更の趣旨を記載した書類 (3 ページ)

学生の確保の見通しを記載した書類 (3 ページ)

【新】表 1. 令和 3 年度 収容定員変更の概要

学部	学科	現行		変更後		差	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	435人	1,740人	<u>475人</u>	<u>1,900人</u>	<u>40人</u>	<u>160人</u>
国際関係学部	国際関係学科	245人	980人	310人	1,240人	65人	260人
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	230人	920人	250人	1,000人	20人	80人
医療健康学部※1	理学療法学科	0人	0人	80人	320人	80人	320人
学部計		910人	3,640人	<u>1,115人</u>	<u>4,460人</u>	<u>205人</u>	<u>820人</u>

※1 医療健康学部理学療法学科は設置認可申請中。

【旧】表 1. 令和 3 年度 収容定員変更の概要

学部	学科	現行		変更後		差	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
経済学部	経済学科	435人	1,740人	520人	2,080人	85人	340人
国際関係学部	国際関係学科	245人	980人	310人	1,240人	65人	260人
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	230人	920人	250人	1,000人	20人	80人
医療健康学部※1	理学療法学科	0人	0人	80人	320人	80人	320人
学部計		910人	3,640人	1,160人	4,640人	250人	1,000人

※1 医療健康学部理学療法学科は設置認可申請中。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (5 ページ)

新	旧
経済学科は入学定員を 435 名から <u>475</u> 名に <u>40</u> 名増員する。平成 31 年度と同数の志願者を得たと仮定すると、変更後の入学定員充足率 1.00 確保に<u>必要な合格者数は 842 名、合格率 51.3%</u>というシミュレーション結果である (歩留が平成 27～31 年度の平均並みと想定)。この合格率は、直近 3 年間よりも高いが、平成 29 年度以前のいずれの年度をも下回っている。入学者選抜上、適正なレベルと考えられ、経済学科の定員充足の見込みは問題ないと判断できる。	経済学科は入学定員を 435 名から 520 名に 85 名増員する。平成 31 年度と同数の志願者を得たと仮定すると、変更後の入学定員充足率 1.00 確保に<u>必要な合格者数は 921 名、合格率 56.2%</u>というシミュレーション結果である (歩留が平成 27～31 年度の平均並みと想定)。この合格率は、直近 3 年間よりも高いが、平成 29 年度以前のいずれの年度をも下回っている。入学者選抜上、適正なレベルと考えられ、経済学科の定員充足の見込みは問題ないと判断できる。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (5 ページ)

【新】表 3. 経済学部 経済学科の志願動向

※令和2年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載(秋学期入試の入学定員170名は除外)。

<経済学部経済学科(全体)>

入学年度		平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和2	シミュレーション
①	入学定員	255	255	355	355	435	265	475
②	志願者数	778	879	987	1,439	1,639	2,301	1,639
③	合格者数	626	616	680	599	767	725	842
④	入学者数	370	332	388	347	416	259	475
⑤	志願倍率 ②/①	3.05	3.45	2.78	4.05	3.77	8.68	3.45
⑥	合格率 ③/②	80.5%	70.1%	68.9%	41.6%	46.8%	31.5%	51.3%
⑦	歩留 ④/③	59.1%	53.9%	57.1%	57.9%	54.2%	35.7%	56.4%
⑧	定員充足率	1.45	1.30	1.09	0.98	0.96	0.98	1.00

<除くEトラック・プログラム>

②	志願者数	642	608	631	795	1,048	2072
③	合格者数	493	443	429	319	417	606
④	入学者数	281	245	232	185	194	183
⑥	合格率 ③/②	76.8%	72.9%	68.0%	40.1%	39.8%	29.2%
⑦	歩留 ④/③	57.0%	55.3%	54.1%	58.0%	46.5%	30.2%

<Eトラック・プログラム>

②	志願者数	136	271	356	644	591	229
③	合格者数	133	173	251	280	350	119
④	入学者数	89	87	156	162	222	76
⑥	合格率 ③/②	97.8%	63.8%	70.5%	43.5%	59.2%	52.0%
⑦	歩留 ④/③	66.9%	50.3%	62.2%	57.9%	63.4%	63.9%

【旧】表 3. 経済学部 経済学科の志願動向

※令和2年度は実施済みの春学期入試結果のみを掲載(秋学期入試の入学定員170名は除外)。

<経済学部経済学科(全体)>

入学年度		平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和2	シミュレーション
①	入学定員	255	255	355	355	435	265	520
②	志願者数	778	879	987	1,439	1,639	2,301	1,639
③	合格者数	626	616	680	599	767	725	921
④	入学者数	370	332	388	347	416	259	520
⑤	志願倍率 ②/①	3.05	3.45	2.78	4.05	3.77	8.68	3.15
⑥	合格率 ③/②	80.5%	70.1%	68.9%	41.6%	46.8%	31.5%	56.2%
⑦	歩留 ④/③	59.1%	53.9%	57.1%	57.9%	54.2%	35.7%	56.4%
⑧	定員充足率	1.45	1.30	1.09	0.98	0.96	0.98	1.00

<除くEトラック・プログラム>

②	志願者数	642	608	631	795	1,048	2072
③	合格者数	493	443	429	319	417	606
④	入学者数	281	245	232	185	194	183
⑥	合格率 ③/②	76.8%	72.9%	68.0%	40.1%	39.8%	29.2%
⑦	歩留 ④/③	57.0%	55.3%	54.1%	58.0%	46.5%	30.2%

<Eトラック・プログラム>

②	志願者数	136	271	356	644	591	229
③	合格者数	133	173	251	280	350	119
④	入学者数	89	87	156	162	222	76
⑥	合格率 ③/②	97.8%	63.8%	70.5%	43.5%	59.2%	52.0%
⑦	歩留 ④/③	66.9%	50.3%	62.2%	57.9%	63.4%	63.9%

(新旧対照表) 基本計画書 (1～2 ページ)

新	旧
新設学部等の概要 経済学部 経済学科 入学定員 収容定員 475 1,900 (略) 計 1,730 6,920	新設学部等の概要 経済学部 経済学科 入学定員 収容定員 520 2,080 (略) 計 1,775 - 7,100

(新旧対照表) 学校法人東京国際大学 設置認可等に関わる組織の移行表

新	旧
令和3年度(2021年度) 経済学部 経済学科 475 - 1,900 定員変更 (40) (略) 計 1,810 - 7,240	令和3年度(2021年度) 経済学部 経済学科 520 - 2,080 定員変更 (85) (略) 計 1,855 - 7,420

(新旧対照表) 東京国際大学学則(案) 新旧比較対照表

別紙1 参照

(新旧対照表) 東京国際大学学則(案) (4ページ・62ページ)

(4ページ)

【新】

(収容定員)

第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	100名	400名

	経営学科	80 名	320 名
経済学部	経済学科	475 名	1,900 名
国際関係学部	国際関係学科	310 名	1,240 名
	国際メディア学科	60 名	240 名
人間社会学部	福祉心理学科	25 名	100 名
	人間スポーツ学科	230 名	920 名
	スポーツ科学科	200 名	800 名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	250 名	1,000 名
計		1,730 名	6,920 名

【旧】

(収容定員)

第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	100 名	400 名
	経営学科	80 名	320 名
経済学部	経済学科	520 名	2,080 名
国際関係学部	国際関係学科	310 名	1,240 名
	国際メディア学科	60 名	240 名
人間社会学部	福祉心理学科	25 名	100 名
	人間スポーツ学科	230 名	920 名
	スポーツ科学科	200 名	800 名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	250 名	1,000 名
計		1,775 名	7,100 名

(62 ページ)

【新】

附 則

- 1 この改正学則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 第8条の規定にかかわらず、2021年度から2023年度までの各年度の各学部・学科の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	2021年度	2022年度	2023年度
商学部	商学科	420名	400名	400名
	経営学科	340名	320名	320名
経済学部	経済学科	1,700名	1,820名	1,860名
国際関係学部	国際関係学科	1,020名	1,110名	1,175名
	国際メディア学科	260名	240名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	125名	100名	100名
	人間スポーツ学科	920名	920名	920名
	スポーツ科学科	800名	800名	800名
言語コミュニケーション学部	言語コミュニケーション学科	960名	960名	980名
計		6,545名	6,670名	6,795名

【旧】

附 則

- 1 この改正学則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 第8条の規定にかかわらず、2021年度から2023年度までの各年度の各学部・学科の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	2021年度	2022年度	2023年度
商学部	商学科	420名	400名	400名
	経営学科	340名	320名	320名
経済学部	経済学科	1,745名	1,910名	1,995名
国際関係学部	国際関係学科	1,020名	1,110名	1,175名
	国際メディア学科	260名	240名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	125名	100名	100名
	人間スポーツ学科	920名	920名	920名
	スポーツ科学科	800名	800名	800名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	960名	960名	980名
計		6,590名	6,760名	6,930名

東京国際大学学則 新旧比較対照表

新

旧

○東京国際大学学則

○東京国際大学学則

第1章 大学の目的及び使命

(省略) 第1条～第7条

(収容定員)

第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	100名	400名
	経営学科	80名	320名
経済学部	経済学科	475名	1,900名
国際関係学部	国際関係学科	310名	1,240名
	国際メディア学科	60名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	25名	100名
	人間スポーツ学科	230名	920名
	スポーツ科学科	200名	800名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	250名	1,000名
計		1,730名	6,920名

(以下省略)

附 則

1 この改正学則は、2021年4月1日から施行する。

2 第8条の規定にかかわらず、2021年度から2023年度までの各年度の各学部・学科の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	2021年度	2022年度	2023年度
商学部	商学科	420名	400名	400名
	経営学科	340名	320名	320名
経済学部	経済学科	1,700名	1,820名	1,860名
国際関係学部	国際関係学科	1,020名	1,110名	1,175名
	国際メディア学科	260名	240名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	125名	100名	100名
	人間スポーツ学科	920名	920名	920名
	スポーツ科学科	800名	800名	800名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	960名	960名	980名
計		6,545名	6,670名	6,795名

第1章 大学の目的及び使命

(省略) 第1条～第7条

(収容定員)

第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	100名	400名
	経営学科	80名	320名
経済学部	経済学科	435名	1,740名
国際関係学部	国際関係学科	245名	980名
	国際メディア学科	60名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	25名	100名
	人間スポーツ学科	230名	920名
	スポーツ科学科	200名	800名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	230名	920名
計		1,605名	6,420名

(以下省略)

東京国際大学学則 新旧比較対照表

新

旧

○東京国際大学学則

○東京国際大学学則

第1章 大学の目的及び使命

第1章 大学の目的及び使命

(省略) 第1条～第7条

(省略) 第1条～第7条

(収容定員)

(収容定員)

第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。

第8条 本学各学部・学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	100名	400名
	経営学科	80名	320名
経済学部	経済学科	520名	2,080名
国際関係学部	国際関係学科	310名	1,240名
	国際メディア学科	60名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	25名	100名
	人間スポーツ学科	230名	920名
	スポーツ科学科	200名	800名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	250名	1,000名
計		1,775名	7,100名

学部	学科	入学定員	収容定員
商学部	商学科	100名	400名
	経営学科	80名	320名
経済学部	経済学科	435名	1,740名
国際関係学部	国際関係学科	245名	980名
	国際メディア学科	60名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	25名	100名
	人間スポーツ学科	230名	920名
	スポーツ科学科	200名	800名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	230名	920名
計		1,605名	6,420名

(以下省略)

(以下省略)

附 則

1 この改正学則は、2021年4月1日から施行する。

2 第8条の規定にかかわらず、2021年度から2023年度までの各年度の各学部・学科の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	2021年度	2022年度	2023年度
商学部	商学科	420名	400名	400名
	経営学科	340名	320名	320名
経済学部	経済学科	1,745名	1,910名	1,995名
国際関係学部	国際関係学科	1,020名	1,110名	1,175名
	国際メディア学科	260名	240名	240名
人間社会学部	福祉心理学科	125名	100名	100名
	人間スポーツ学科	920名	920名	920名
	スポーツ科学科	800名	800名	800名
言語コミュニケーション学部	英語コミュニケーション学科	960名	960名	980名
計		6,590名	6,760名	6,930名